

**令和7年度（令和6年度対象）**

**教育に関する事務の管理及び執行の状況  
の点検及び評価の報告書**

**令和7年8月**

**音更町教育委員会**

# 目 次

## はじめに

1 点検及び評価の趣旨 .....	1
2 点検及び評価の対象 .....	1
3 点検及び評価の方法 .....	1

## I 点検及び評価の結果

### 1 教育委員会の活動状況

(1) 会議の状況 .....	2
(2) 規則等の制定・改廃の状況 .....	8
(3) 表彰の状況 .....	9
(4) 研修会等への参加の状況 .....	11
(5) 学校訪問の状況 .....	12
(6) 町民への情報提供の状況 .....	12
(7) 教育委員会の組織 .....	14

### 2 重点的な評価

(1) 確かな学力の向上 .....	15
(2) 健やかな体の育成 .....	26
(3) 豊かな心の育成 .....	31

### 3 教育行政推進における主要な施策の実施状況

(1) 文教対策 .....	34
(2) 社会教育の振興 .....	39
(3) 社会体育の振興 .....	46

### 4 昨年度の学識経験者からの主な意見と対応状況 ..... 49 |

## II 学識経験者の意見 ..... 55 |

はじめに

## 1 点検及び評価の趣旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出することとなっています。

また、点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることとなっています。

音更町教育委員会では、これまでも各種計画に基づき効果的な教育行政を推進してきましたが、法に基づく点検及び評価を行い、その結果を公表することで、町民の皆様に教育に関する事務の管理及び執行の状況について説明するとともに、今後の施策・事業の展開等に活用し、より一層効果的な教育行政の推進を図っていきます。

## 2 点検及び評価の対象

令和6年度の教育委員会の活動状況のほか、令和6年度教育行政執行方針に位置付けられて実施した施策・事業等を点検及び評価の対象としています。

また、特に町民の方から関心が高いと思われる「確かな学力の向上」、「健やかな体の育成」、「豊かな心の育成」について、現状や課題、今後の方向性等に関する点検・評価を行っています。

## 3 点検及び評価の方法

教育委員会が行った点検及び評価の客観性を確保するとともに、今後の取組に向けた活用を図るため、教育に関し学識経験を有する方から点検及び評価に関する意見や助言をいただきました。

学識経験者 角 田 隆 二 氏 (帯広大谷短期大学講師)  
遠 藤 憲 晃 氏 (元中学校校長)

## I 点検及び評価の結果

### 1 教育委員会の活動状況

#### (1) 会議の状況

教育委員会の会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律及び音更町教育委員会会議規則に基づき、教育長と4人の教育委員会委員が教育行政に関する基本的な方針の決定や教育委員会規則の制定など、教育に関する様々な議題について審議します。

令和6年度は、次のとおり会議を開催しており、それぞれの会議において、事務局から付議案件の提案理由や説明を行った後、教育委員会委員の活発な質疑、審議を経て、いずれも決定・了承されています。

事務局では、教育委員会の会議の活性化と十分な審議を実施するため、各委員に議案・資料等の事前説明を行うなど、審議がより活発なものとなるよう配慮しています。

また、教育委員会会議の前に委員相互の意見交換をする場を設け（必要に応じ事務局も入ります。）、日常の情報交流を図るとともに、教育委員会会議において委員の意見を反映させるため、付議案件以外に意見を提案する場を設けています。

そのほか、町長と教育委員会が十分な意思疎通を図り、教育の実情やあるべき姿を共有することを目的として開催している総合教育会議では、教育を行うための諸条件の整備など教育を取り巻く環境の変化や課題について協議・調整を行っており、町の施策との調和を図りつつ教育行政の様々な課題について効率的に取り組んでいます。

今後も、学校訪問などの活動を充実させながら、積極的に教育行政を推進していく必要があると考えます。

#### ◎教育委員会会議（定例会・臨時会）

期 日	付 議 案 件
【臨時会】 R6. 4. 12 持ち回り会議	(議案) ・ 音更町教育研究所所員の委嘱について

期 日	付 議 案 件
<p>【定例会】 R6. 4. 26 [13:30～14:15]</p>	<p>(報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育委員会事務報告</li> <li>・ 小学校卒業式及び小中学校入学式の実施状況について</li> <li>・ 令和5年度全国学力・学習状況調査結果の分析について</li> </ul> <p>(議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音更町立学校に係る部活動の方針の一部改定について</li> <li>・ 音更町教育委員会行政組織規則の一部を改正する規則案</li> <li>・ 音更町学校運営協議会委員の任命について</li> <li>・ 音更町教育支援委員会委員の委嘱について</li> <li>・ 音更町社会教育委員及び音更町公民館運営審議会委員の委嘱について</li> <li>・ 音更町生涯学習推進協議会委員の委嘱について</li> <li>・ 音更町文化財保護審議会委員の委嘱について</li> <li>・ 音更町図書館協議会委員の委嘱について</li> <li>・ 音更町スポーツ推進委員の委嘱について</li> </ul> <p>(協議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育委員会学校訪問について</li> </ul>
<p>【定例会】 R6. 5. 24 [13:30～14:00]</p>	<p>(報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育委員会事務報告</li> </ul> <p>(議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音更町立学校管理規則の一部を改正する規則案</li> <li>・ 音更町立学校における働き方改革推進プラン（第3期）について</li> <li>・ 音更町奨学資金審議会委員の委嘱について</li> <li>・ 音更町教育研究所研究員の委嘱について</li> <li>・ 音更町青少年対策委員会委員の委嘱について</li> <li>・ 教職員人事の内申について</li> </ul> <p>(協議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和6年度補正予算（案）について</li> <li>・ 教育委員会の学校訪問について</li> <li>・ 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について</li> </ul>
<p>【臨時会】 R6. 6. 6 [17:30～17:45]</p>	<p>(協議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音更町総合体育館・武道館指定管理者の公募について</li> </ul>

期 日	付 議 案 件
<p>【定例会】 R6. 6. 24 [13:30～14:30]</p>	<p>(報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育委員会事務報告</li> <li>・ 町内中学校教諭による不祥事案について</li> </ul> <p>(議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和6年度第12地区教科書採択地区調査委員会委員の推薦について</li> <li>・ 音更町学校運営協議会委員の任命について</li> <li>・ 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に関する評価委員の選任について</li> </ul> <p>(協議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の報告書について</li> </ul>
<p>【定例会】 R6. 7. 23 [13:30～14:20]</p>	<p>(報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育委員会事務報告</li> <li>・ 令和6年度教科書展示会での意見について</li> </ul> <p>(議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音更町奨学資金支給者の決定について</li> <li>・ 音更町いじめ問題等対策委員会委員の委嘱について</li> </ul>
<p>【定例会】 R6. 8. 28 [13:30～14:20]</p>	<p>(報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育委員会事務報告</li> </ul> <p>(議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の報告書について</li> <li>・ 令和7年度に使用する小学校用及び中学校用教科用図書の採択について</li> <li>・ 音更町立学校職員の処分の内申について</li> <li>・ 外国語指導助手の採用について</li> <li>・ 音更町教育支援委員会委員の委嘱について</li> <li>・ 令和7年度北海道公立学校長採用候補者の推薦について</li> </ul> <p>(協議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和6年度補正予算(案)について</li> </ul>

期 日	付 議 案 件
<p>【定例会】 R6. 9. 18 [13:40～14:20]</p>	<p>(報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育委員会事務報告</li> <li>・ 令和6年度全国学力・学習状況調査の結果について</li> </ul> <p>(議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和7年度北海道公立学校主幹教諭昇任候補者の推薦について</li> <li>・ 音更町教育委員会事務局職員の人事について</li> </ul>
<p>【定例会】 R6. 10. 22 [15:30～16:05]</p>	<p>(報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育委員会事務報告</li> <li>・ 町立中学校教諭の不祥事案について</li> <li>・ おとふけ「教育を考える日」記念フェスタの進捗状況について</li> </ul> <p>(議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音更町就学援助審議会規則の一部を改正する規則案</li> <li>・ 令和6年度音更町文化奨励賞等表彰者の決定について</li> <li>・ 音更町指定管理者選定委員会委員の委嘱について</li> </ul>
<p>【定例会】 R6. 11. 26 [15:40～16:15]</p>	<p>(報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育委員会事務報告</li> </ul> <p>(議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音更町総合体育館・武道館に係る指定管理者の候補者の選定について</li> <li>・ 音更町就学援助審議会委員の委嘱について</li> </ul> <p>(協議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音更町職員定数条例の一部改正について</li> <li>・ 音更町個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例の一部を改正する条例案</li> <li>・ 令和6年度補正予算(案)について</li> </ul>
<p>【臨時会】 R6. 12. 6 持ち回り会議</p>	<p>(議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音更町学校給食費の徴収に関する規則の一部を改正する規則案</li> <li>・ 音更町立学校職員の在宅勤務実施要綱案</li> </ul>

期 日	付 議 案 件
<p>【定例会】 R6. 12. 24 [14:15～15:10]</p>	<p>(報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育委員会事務報告</li> <li>・ おとふけ「教育を考える日」記念フェスタの開催結果について</li> <li>・ いじめの重大事態について</li> </ul> <p>(議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音更町立学校管理規則の一部を改正する規則案</li> <li>・ 音更町就学援助規則案</li> </ul> <p>(協議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和7年度教育委員会予算編成に伴う主要事業の概要について</li> </ul>
<p>【定例会】 R7. 1. 24 [15:00～15:20]</p>	<p>(報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育委員会事務報告</li> </ul> <p>(議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音更町児童生徒文化・スポーツ賞選考委員会委員の委嘱について</li> <li>・ 音更町立学校職員の処分の内申について</li> </ul>
<p>【定例会】 R7. 2. 17 [15:20～16:10]</p>	<p>(報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育委員会事務報告</li> </ul> <p>(議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和6年度音更町スポーツ賞等被表彰者の決定について</li> <li>・ 音更町いじめ重大事態第三者調査委員会委員の委嘱について</li> <li>・ 教職員人事の内申について</li> </ul> <p>(協議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和6年度補正予算(案)について</li> <li>・ 令和7年度教育委員会予算(案)及び主要事業について</li> </ul>
<p>【臨時会】 R7. 3. 3 持ち回り会議</p>	<p>(議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音更町部活動の地域移行に関する推進計画(素案)について</li> </ul> <p>(協議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和6年度補正予算(案)について</li> <li>・ 令和7年度補正予算(案)について</li> </ul>

期 日	付 議 案 件
<p>【定例会】 R7. 3. 21 [14:00～14:40]</p>	<p>(報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育委員会事務報告</li> <li>・ 中学校卒業式の実施状況について</li> <li>・ 令和6年度いじめに関する実態調査報告について</li> <li>・ 令和5年度音更町における体力・運動能力調査結果の分析について</li> </ul> <p>(議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音更町奨学資金支給条例施行規則の一部を改正する規則案</li> <li>・ 音更町図書館条例施行規則の一部を改正する規則案</li> <li>・ 教職員人事の内申について</li> <li>・ 音更町教育委員会事務局職員の人事について</li> </ul>
<p>【臨時会】 R7. 3. 31 持ち回り会議</p>	<p>(議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音更町教育委員会行政組織規則の一部を改正する規則案</li> <li>・ 音更町教育委員会事務決裁規程の一部を改正する訓令案</li> </ul> <p>(協議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和7年度教育行政執行方針(案)について</li> <li>・ 令和7年度補正予算(案)について</li> <li>・ 音更町部活動の地域移行に関する推進計画(案)について</li> <li>・ 音更町立学校情報機器等の整備(更新)に関する計画(案)について</li> </ul>

◎総合教育会議

期 日	付 議 案 件
<p>R7. 2. 17 [13:15～14:35]</p>	<p>(協議案) 教育に関する諸条件の整備について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 部活動地域移行に関する取組</li> </ul>

(2) 規則等の制定・改廃の状況

令和6年度に制定・改正された教育委員会の規則・訓令及び教育関係の条例は次のとおりです。

ア 条例

題 名	公布年月日	施行年月日
・ 音更町職員定数条例の一部改正	R6. 12. 17	R7. 4. 1
・ 音更町個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例の一部を改正する条例	R6. 12. 17	R6. 12. 17

イ 規則

題 名	公布年月日	施行年月日
・ 音更町教育委員会行政組織規則の一部を改正する規則	R6. 4. 26	R6. 4. 26
・ 音更町立学校管理規則の一部を改正する規則	R6. 5. 24	R6. 5. 24
・ 音更町就学援助審議会規則の一部を改正する規則	R6. 10. 22	R6. 10. 22
・ 音更町学校給食費の徴収に関する規則の一部を改正する規則	R6. 12. 6	R7. 1. 1
・ 音更町立学校管理規則の一部を改正する規則	R6. 12. 24	R7. 1. 1
・ 音更町奨学資金支給条例施行規則の一部を改正する規則	R7. 3. 21	R7. 4. 1
・ 音更町図書館条例施行規則の一部を改正する規則	R7. 3. 21	R7. 4. 1
・ 音更町教育委員会行政組織規則の一部を改正する規則	R7. 3. 31	R7. 4. 1

ウ 訓令

題 名	公布年月日	施行年月日
・ 音更町教育委員会事務決裁規程の一部を改正する訓令	R7. 3. 31	R7. 4. 1

(3) 表彰の状況

ア 音更町文化奨励賞等

[音更町の文化の高揚と発展に寄与した個人又は団体を表彰]

- ① 文化奨励賞：(科学・芸術・教育等を通じ、音更町の文化の進展に著しく貢献した個人又は団体を表彰)

	氏 名	表 彰 事 由
個人	市瀬 隆士	平成7年の音更陶芸研究会創立時から事務局長として活動し、平成11年4月から現在まで会長を務め、会の運営と後進の育成に尽力された。月4回の例会を開催し、陶芸の技術向上に努めるとともに、音更町生涯学習フェスティバルや音更町文化祭などにおいては作品の出展に加え、陶芸講師を務め、陶芸文化の普及、地域活動に貢献された。さらに、平成26年4月から平成29年3月まで音更町文化協会理事、平成29年4月から現在まで同監事を務め、音更町の文化の発展に大きく貢献された。
個人	山田 愛花	毎日新聞社、一般財団法人毎日書道会主催の第75回毎日書道展U23近代詩文書部においてU23毎日賞を受賞した。
個人	萱森 駿	北海道高等学校文化連盟第57回全道高等学校書道展において北海道高等学校文化連盟賞を受賞した。
団体	音更錦玉会 代表 西野 史子  昭和49年4月設立	昭和49年に会を発足し、毎月2回例会を開催して民謡の研鑽に努め、技量向上を図るとともに、民謡の普及に貢献された。また、町内にとどまらず、道内の大会に出場するほか、音更町文化祭や十勝管内で開催されている多くの行事に参加し、音更町の文化の発展に大きく貢献された。
団体	文優会 代表 菱沼 萬里子  昭和53年8月設立	昭和53年に会を発足し、毎月3回の例会や46年間継続しておひきぞめ会を開催し、琴の技術向上に努めている。また、平成10年から町内各所の高齢者福祉施設への慰問や幼稚園への訪問、令和4年からは町内小学校での演奏を行っているほか、音更町文化祭や十勝管内の芸能発表会など多くの行事に参加し、地域活動に貢献された。

	氏 名	表 彰 事 由
団体	音更福智会 代表 矢竹 敏江  昭和61年4月設立	昭和61年に会を発足し、毎月4回の研修を行い、詩吟の研鑽に努め、技量向上を図るとともに、詩吟の普及に貢献された。また、平成27年から令和元年まで町内各所の高齢者福祉施設への慰問を行うほか、町内にとどまらず、十勝管内で開催されている多くの行事に参加し、地域活動に貢献された。
団体	花形流剣武詩舞道音更会 代表 渡部 麗子  平成6年1月設立	平成6年に会を発足し、週2回例会を行い、剣武の研鑽に努め、技量向上を図るとともに、剣武の普及に貢献された。また、十勝管内の高齢者福祉施設への慰問を行うほか、町内にとどまらず、道内で開催されている多くの行事に参加し、地域活動に貢献された。

- ② 文化奨励特別賞：(音更町の文化の振興発展に貢献し、その功績が特に顕著な個人又は団体を表彰)  
該当なし

イ 音更町スポーツ賞等

[音更町のスポーツの分野において優秀な成績を収めた者及びスポーツの振興に寄与した個人又は団体を表彰]

- ① スポーツ賞 (全国・全道規模の大会で優秀な成績・記録を収めた個人又は団体)

【個人】

氏 名	年 齢	所 属	種 目
野口 杏菜	10	木野東小学校	スピードスケート
駒形 和花	10	木野東小学校	スピードスケート
水上 翔汰朗	11	東士幌小学校	柔道
小林 皇雅	13	音更中学校	卓球
長嶋 奏音	14	音更中学校	卓球
坂本 みなみ	14	下音更中学校	バレーボール
渡邊 麻妃	14	下音更中学校	バレーボール
阿藤 琴羽	15	下音更中学校	バレーボール
香川 聖良	15	下音更中学校	バレーボール
森川 晴香	15	共栄中学校	バレーボール
大槻 清香	15	共栄中学校	バレーボール
長岡 凌佑	15	札幌静修高等学校	ハンドボール
高橋 遼太郎	16	札幌静修高等学校	ハンドボール
小林 彪雅	16	駒澤大学付属苫小牧高等学校	卓球
鈴木 涼太	17	白樺学園高等学校	硬式野球
角藤 喜音	18	帯広工業高等学校	アーチェリー
渡部 勝美	66	音更町陸上競技協会	陸上

【団体】

団 体 名	種 目
木野東バレーボール少年団 (8名)	バレーボール
R・Yスパークス (12名)	バレーボール
音更ハンドボールクラブ (15名)	ハンドボール
駒場中学校女子ハンドボール部 拠点校部活動 (9名)	ハンドボール

② スポーツ奨励賞 (全国・全道規模の大会で上位入賞、十勝大会で優秀な成績)

【個人】

氏 名	年 齢	所 属	種 目
佐藤 晴人	16	白樺学園高等学校	陸上
三上 芽生	16	白樺学園高等学校	陸上
中山 心愛	17	白樺学園高等学校	陸上
三浦 玲那	17	白樺学園高等学校	陸上
安田 埜史	17	白樺学園高等学校	陸上
清水 昴瑠	18	白樺学園高等学校	陸上
福井 悠斗	18	帯広工業高等学校	バドミントン

③ スポーツ功労賞 (本町におけるスポーツの普及振興に貢献のあった個人又は団体)

【個人】

氏 名	年 齢	所 属	種 目
渡 幸雄	70	音更剣道連盟	剣道
乾 寿夫	68	音更町アーチェリー協会	アーチェリー

(4) 研修会等への参加の状況

教育委員会では、各種研修会に参加し、他市町村教育委員会との情報交換や、研修に努めているほか、教育行政に関する調査・研究を行っています。

令和6年度は、北海道市町村教育委員会研修会に参加し、教育をめぐる現状や課題について学ぶとともに、教育委員の役割について理解を深めています。また、星槎もみじ中学校(札幌市厚別区)を視察し、「子どもの実態に学校が合わせる」ことで不登校の生徒に配慮した特別な教育課程を実施し、学びの多様化に対応した運営体制やその課題などについて情報を得ています。

年月日	場 所	研 修 会 等	参加者
R6. 7. 17 ～7. 18	札幌市	視察研修 (星槎もみじ中学校) 第59回北海道市町村教育委員会研修会	5名 (事務局1名 を含む)
R7. 1. 28	ZOOM 会議	十勝管内市町村教育委員会教育委員研修会	5名

## (5) 学校訪問の状況

### ア 小中学校の訪問

教育委員会では、教育長、教育委員全員と事務局職員合わせて9名で町内全小中学校を1校当たり1時間程度訪問し、それぞれの学校の取組について実情把握に努めています。

校長から学校経営の重点及び懸案事項の説明を受けた後、授業参観を行い、子どもたちの学びの様子を見学しています。その後、校長・教頭との意見交換を行い、学校運営・教育環境等様々な点について現状と課題を把握し、より良い教育環境の整備に努めています。また、学校訪問の際には、一部の学校において学校給食の試食も行っております。

令和6年度は、「安心して学べる学校づくりに向けた取組について」を重点テーマに訪問し、子どもたちの心理的安全性の確保が重要視される中、全ての児童生徒にとって学校・学級が安全・安心に学べる居場所とするための取組などについて意見交換を行うとともに、教職員と教育委員の顔合わせとして、職員室において教育長からの挨拶と各教育委員の自己紹介等を行い、交流を図っております。

訪問年月日	訪 問 学 校 名
R6. 6. 24	下音更小学校、鈴蘭小学校
R6. 6. 28	東土狩小学校、木野東小学校、緑陽台小学校、緑南中学校
R6. 7. 3	下音更中学校、駒場中学校、駒場小学校
R6. 7. 8	音更小学校、音更中学校、西中音更小学校
R6. 8. 28	柳町小学校、東土幌小学校
R6. 9. 18	下土幌小学校、共栄中学校

### イ 北海道音更高等学校（以下「音更高校」）の訪問

本町唯一の高校である音更高校は、これまでも地域を担う人材を多く輩出し、町と連携した生涯学習プログラムの推進や地域社会と連携した教育、地域活性化に寄与する活動を展開しています。また、令和6年度から北海道MA+CHプロジェクト（地学協働まちづくり推進事業）の指定を受け、地域の担い手となる人材育成の取組を始めました。今後も地域に開かれた特色のある高校づくりを継続し、入学希望者増につながる取組を支援していくため、意見交換会を令和6年11月26日に開催し、音更高校の現状や課題、今後の展望等について情報共有を行いました。

## (6) 町民への情報提供の状況

教育委員会では、教育に関する制度や手続、行事等の周知を図るために、様々な情報を提供しています。

今後もホームページや町広報紙等を活用し、情報提供の方法を工夫しながら、より一層わかりやすく様々な情報を提供していく必要があると考えています。

ア 広報紙の活用

毎月発行している広報「おとふけ」で教育に関する各種情報の提供に努めました。

(主な掲載情報)

- ・「生涯学習のまど」〇〇JCオープンカレッジ等の各種講座の紹介
- ・「図書館通信」新着・おすすめ図書を紹介、図書館行事のお知らせ
- ・その他（小規模特認校の紹介、各種助成制度の案内等）

イ ホームページの活用

ホームページの管理・運営を通じて、教育委員会の活動を町民にお知らせしています。

(主な掲載情報)

- ・音更町の教育目標
- ・音更町の教育行政執行方針
- ・小中学校ホームページ
- ・学校教育関係（区域外就学、就学援助等）
- ・社会教育関係（施設の紹介・空き状況/予約、生涯学習等）
- ・図書館（蔵書検索）
- ・教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の報告書
- ・総合教育会議の会議結果（要旨）
- ・定例の教育委員会会議の会議結果（要旨）
- ・社会教育委員協議会等の審議会の会議結果（要旨）

ウ 音更町公式LINE等のSNSの活用

町公式LINE、X、InstagramなどのSNSを活用し、各種事業の開催告知や実施状況などを随時発信しています。

(7) 教育委員会の組織

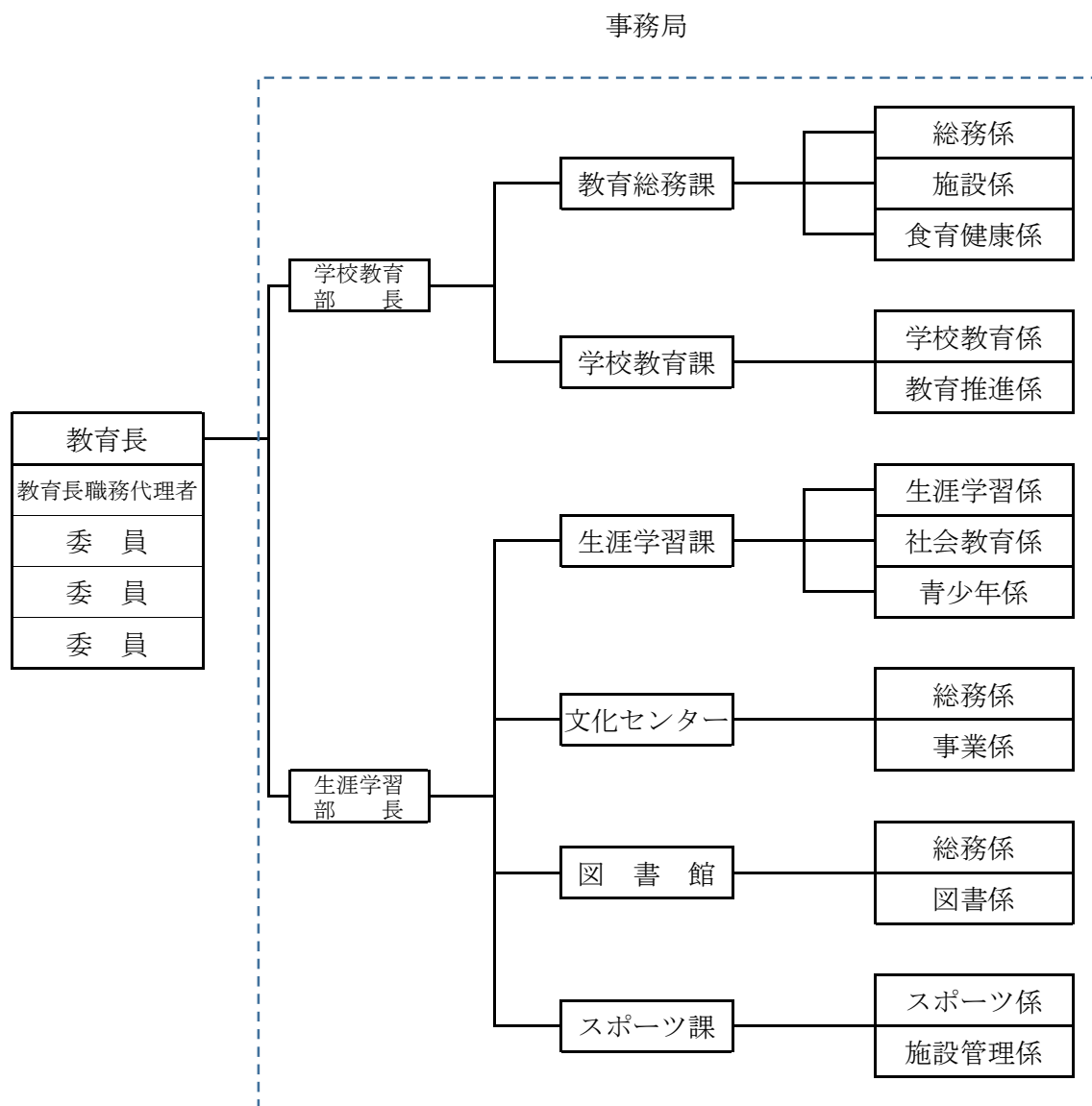
教育委員会

(令和7年4月1日現在)

職名	氏名	就任日	期数	現任期満了日
教育長	福地 隆	令和2年4月1日	3期目	令和9年3月31日
教育長職務代理者	田中 義博	平成16年11月2日	6期目	令和10年11月1日
委員	種川 健	平成27年11月5日	3期目	令和9年11月4日
委員	川井 麗子	平成28年11月2日	3期目	令和8年11月1日
委員	高橋 敬貴	令和4年1月20日	1期目	令和8年1月19日

教育委員会の組織

(令和7年4月1日現在)



## 2 重点的な評価

### (1) 確かな学力の向上

音更町教育委員会では、教育行政執行方針において、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身につけ、それらを活用できる学力を育むことが重要であると捉え、学校と家庭が連携して、「生きる力」の基盤となる確かな学力の向上を推進していくこととしています。その取組を進める上で、子どもの学力の傾向を把握して課題を捉えるために、全国学力・学習状況調査に参加し、小学校6年生と中学校3年生を対象に、国語、算数、数学について全数調査を行っております。さらに児童・生徒質問紙についてのクロス集計も行い、その分析結果を活用しています。

#### ① 児童生徒の学力の現状と課題

令和6年度調査の分析・考察

##### 【小学校】

###### <総評>

国語、算数ともに全国・全道平均を下回る結果となった。国語は全国平均を5.7ポイント、算数は全国平均を6.4ポイント下回る結果となった。

近年は、国語、算数ともに全国・全道平均を下回る状況が続いている。

###### <学習指導要領の内容・領域・評価の観点・問題形式>

- 国語は、学習指導要領における「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」の全てが全国平均を下回っている。  
また、「思考力、判断力、表現力等」における「書くこと」、「読むこと」は、いずれも全国平均を下回り、特に「読むこと」は全国平均を6.0ポイント下回ったほか、問題形式別に見ると、短答式での正答率が全国平均を10.5ポイント下回る結果となった。
- 国語の問題で全国と比較し、正答率が最も低かった問題は、「漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる」問題で全国平均を16.8ポイント下回った。  
また、全国と比較し、正答率が最も高かった問題は、「図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる」問題であった。
- 算数は、全領域・評価の観点において全国平均を下回っている。その中で、一番低かったのは、「数と計算」の領域で、「問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができるかどうかをみる」問題で全国平均を10.5ポイント下回った。  
また、全国と比較し、正答率が最も高かった問題は、「直方体見取図について理解し、かくことができるかどうかをみる」問題であった。
- 国語は、全14問中10問で無回答率が全国平均を下回っており、粘り強く問題と向き合っているが、算数は、無回答率が全国平均を下回ったのが16問中4間に留まった。
- 国語、算数とも問題形式に注目すると正答率が低い、無回答率が高かったのは、いずれも自分の考えを記述する問題であることから、日々の学習の「振り返り」や「学んだことの要約」など、自分の言葉で表現する機会の積み重ねなどが必要である。

## 【中学校】

### <総評>

国語は全国・全道平均を下回り、数学は全道平均を上回ったが、全国平均を若干下回る結果となった。国語は全国平均を1.1ポイント、数学は全国平均を0.5ポイント下回る結果となった。

### <学習指導要領の領域・評価の観点・問題形式>

- 国語は、学習指導要領における「思考力、判断力、表現力等」の全てが全国平均を下回り、特に、「読むこと」において、全国平均との差が大きかった。
- 国語の問題で全国と比較し、正答率が最も低かった問題は、「目的に応じて必要な情報に着目して要約することができるかどうかをみる」問題で全国平均を5.7ポイント下回った。  
また、全国と比較し、正答率が最も高かった問題は、「表現の技法について理解しているかどうかをみる」問題で全国平均を2.1ポイント上回った。
- 数学は、学習指導要領の領域別では、「図形」「関数」が全国平均を上回り、「数と式」、「データの活用」は全国平均を下回った。
- 数学の評価の観点別では、「知能及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」のいずれも全国平均を下回った。
- 数学の問題で全国と比較し、正答率が最も低かった問題は、「複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較することができるかどうかをみる」問題で全国平均を11.8ポイント下回った。  
また、全国と比較し、正答率が最も高かった問題は、「事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだすことができるかどうかをみる」問題で全国平均を4.4ポイント上回った。
- 国語、数学とも問題形式に注目すると正答率が低い、無回答率が高かったのは、いずれも記述する問題であるが、国語においては、「表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができるかどうかをみる」問題に課題があり、説明の仕方を例示して考えさせるなど、生徒の実態に即して記述の仕方の定着を図る必要がある。

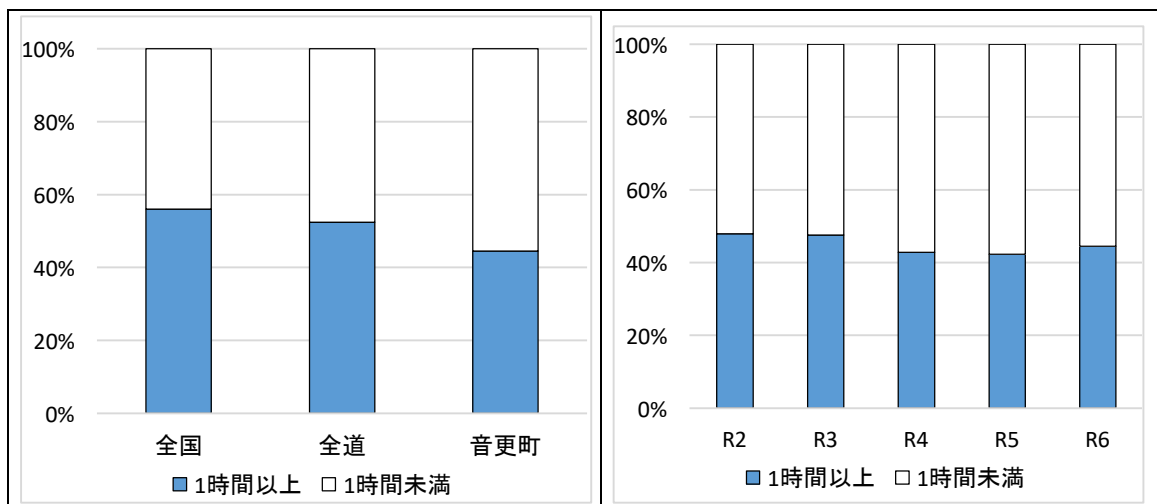
【児童・生徒質問紙】

1 学校の授業時間以外に、普段（月～金曜）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。

<小学校>

【令和6年度】

【経年比較】

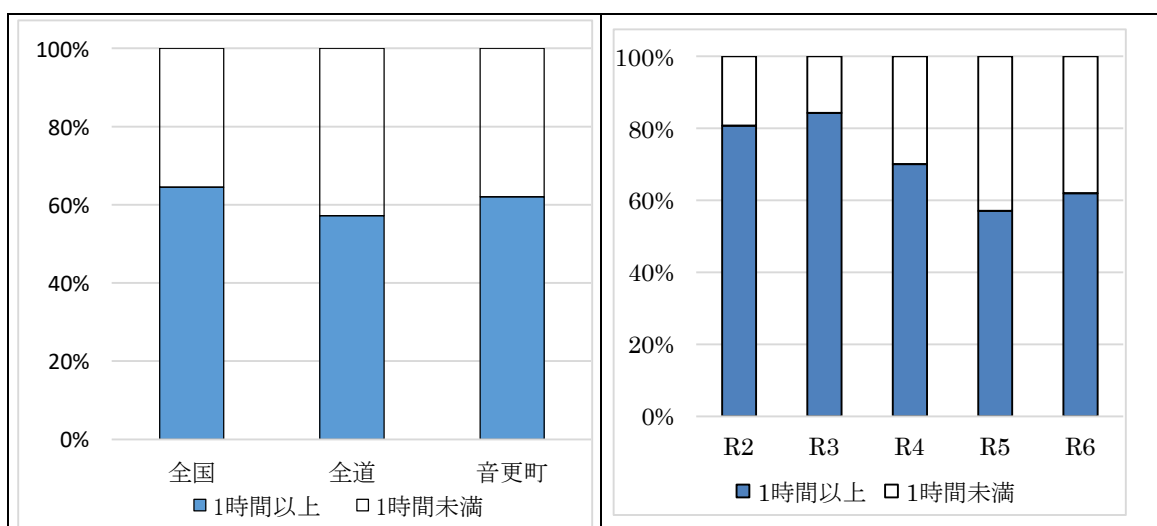


「1時間以上勉強している」と回答した割合は、44.5%で全国・全道平均を下回った。経年比較では、「1時間以上勉強している」という回答が近年減少していたが、前年度を2.2ポイント上回った。なお、6年生児童378人中104人(27.5%)が、勉強時間を「30分より少ないまたは全くしない」と回答しており、前年度を7.0ポイントも上回っている。

<中学校>

【令和6年度】

【経年比較】



「1時間以上勉強をしている」と回答した割合は、61.5%で全国平均を2.3ポイント下回った。また、全体の27.2%が「2時間以上、3時間より少ない」と回答し、全道平均を上回った。経年比較では、「1時間以上勉強をしている」と回答した割合が、前年度を4.4ポイント上回ったものの、令和4年度以前よりも減少傾向にある。各学校では、家庭での学習習慣の定着に向けて、自分で計画的に学習できるよう指導する必要がある。

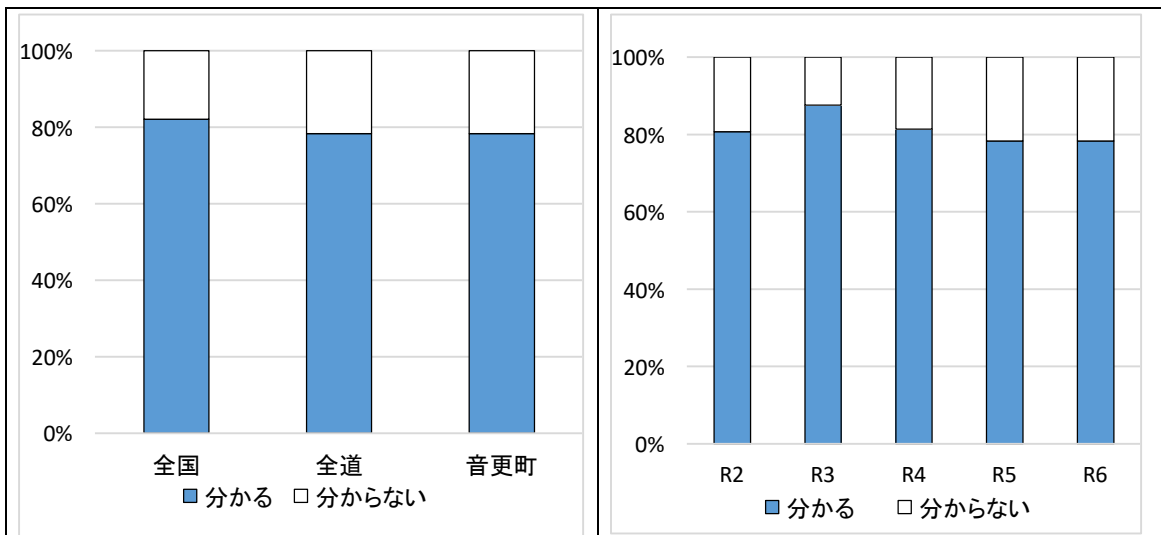
## 2 算数・数学の授業の内容は、よく分かりますか。

※グラフの「分かる」は、「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」の合計

<小学校>

【令和6年度】

【経年比較】

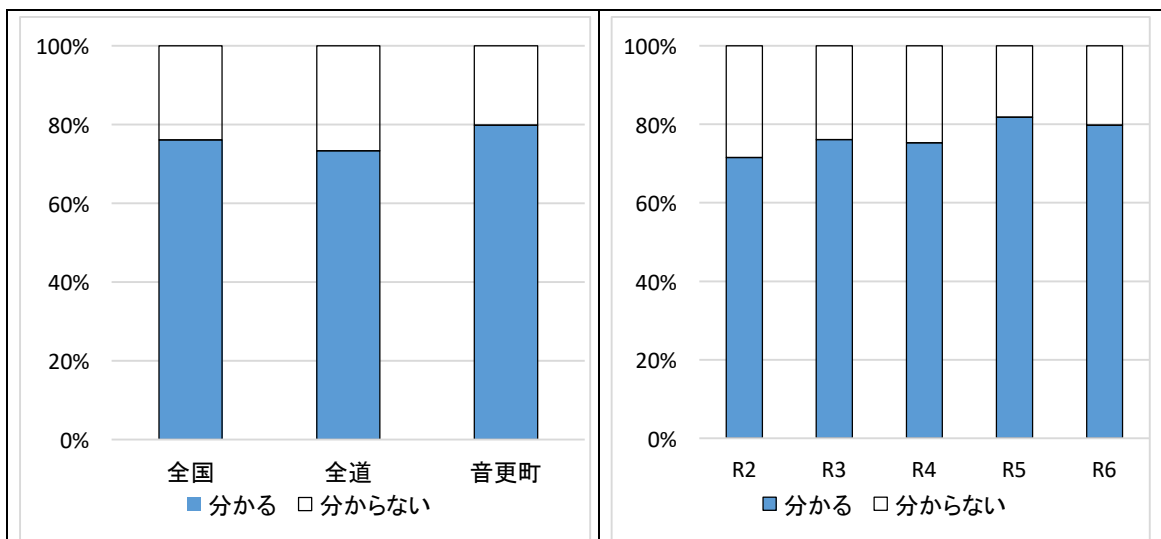


「分かる」と回答した割合は78.3%で全国平均を3.8ポイント下回ったが、全道平均と同じポイントであった。経年比較では、近年、「分かる」との回答率が80%を超え、高い水準を維持していたが、80%を下回った前年度と同じポイントであり、「分からない」と感じる児童が横ばいとなっている。各学校では、児童が探求したい課題を設定し、主体的な学びを推進する取組が必要である。

<中学校>

【令和6年度】

【経年比較】



「分かる」と回答した割合は、79.4%で前年度を下回ったが、全国平均を3.7ポイント、全道平均を6.4ポイント上回った。経年比較では、「分かる」との回答率が70%台の高水準を維持してきた近年の中で2番目に高い割合となった。各学校では、引き続き生徒の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習を促す取組が必要である。

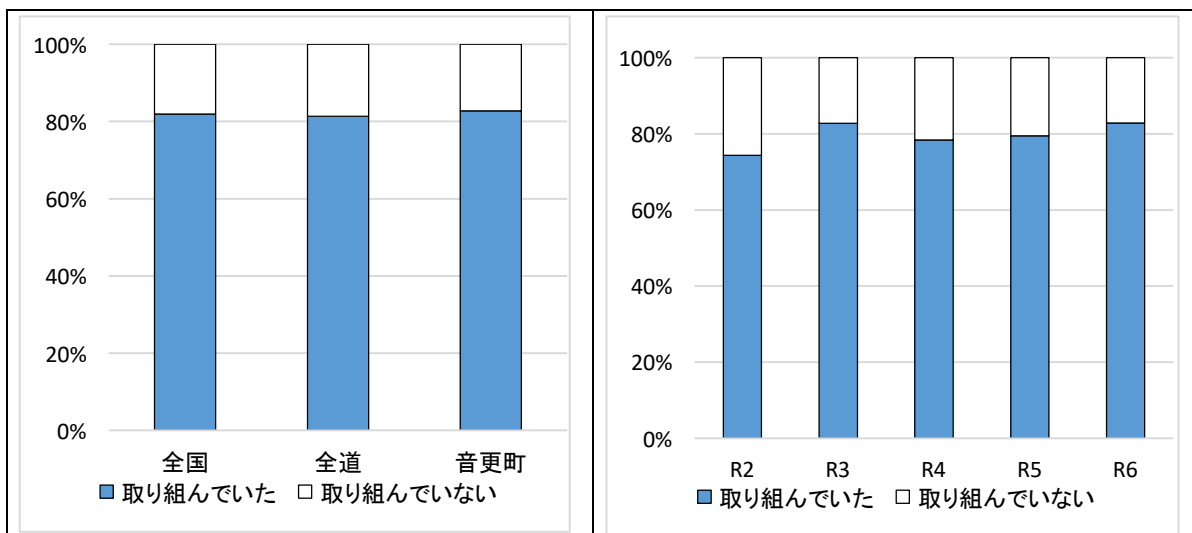
3 昨年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思えますか。

※グラフの「取り組んでいた」は、「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」の合計

<小学校>

【令和6年度】

【経年比較】

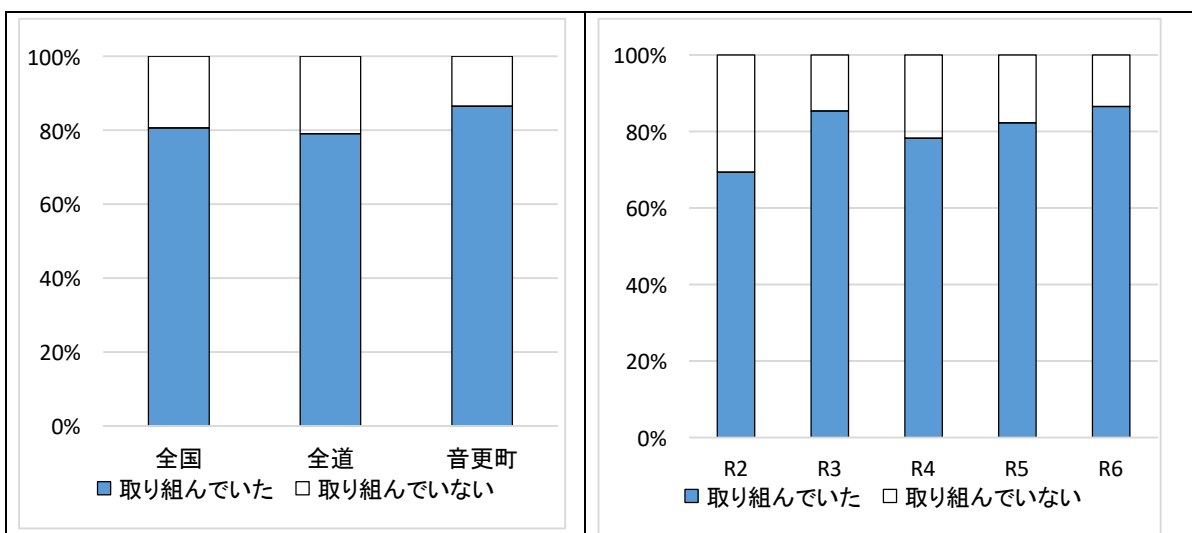


「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」と回答した割合は、82.8%で全国平均を0.9ポイント、全道平均を1.4ポイント上回った。経年比較では、「取り組んでいた」との回答が前年度を3.4ポイント上回り、高い水準を維持している。各学校では、主体的に学習に取り組めるよう、自分の学びや変容を自覚できる場面の設定が重要である。

<中学校>

【令和6年度】

【経年比較】



「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」と回答した割合は、86.1%で全国平均を5.8ポイント、全道平均を7.4ポイント上回った。経年比較では2年連続で前年度を上回り、高い水準を維持している。小学校同様、主体的に学習に取り組めるよう、自分の学びや変容を自覚できる場面の設定が重要である。

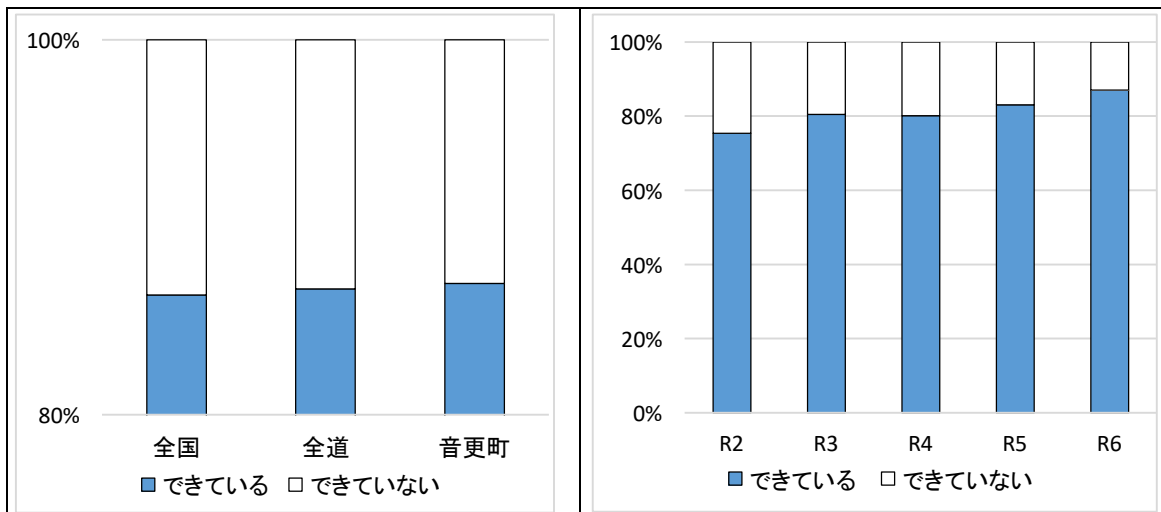
#### 4 話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。

※グラフの「できている」は、「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」の合計

<小学校>

【令和6年度】

【経年比較】

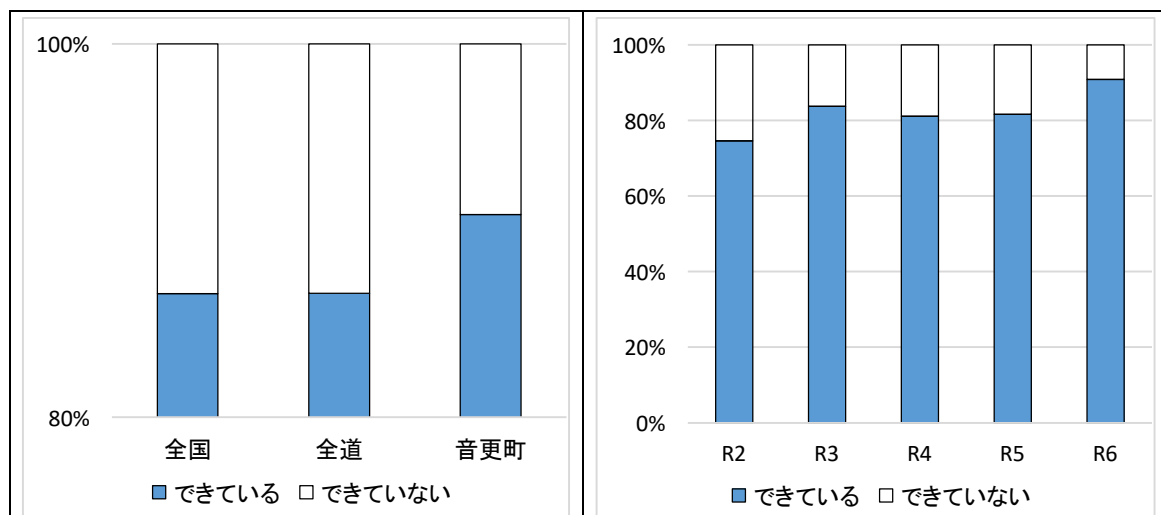


「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と回答した割合は、87.0%で全国平均を0.7ポイント、全道平均を0.3ポイント上回った。経年比較では、2年連続で前年度を上回り、高い水準を維持している。各学校では、学習支援アプリ等ICTを活用した「個別最適な学び」、「協働的な学び」の一層の推進が求められる。

<中学校>

【令和6年度】

【経年比較】



「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と回答した割合は90.4%で、全国平均を4.3ポイント、全道平均を4.2ポイント上回った。経年比較では、近年、「できている」との回答が80%台で推移していたが、前年度を大きく上回り90%台となった。引き続き小学校同様ICTを活用した「個別最適な学び」、「協働的な学び」の一層の推進が求められる。

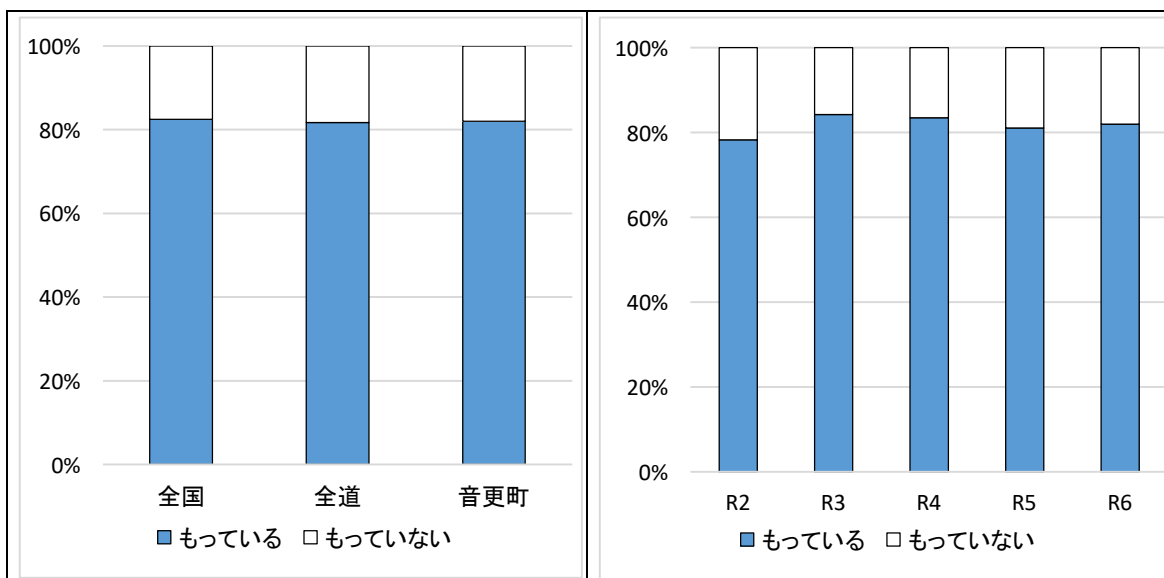
## 5 将来の夢や目標をもっていますか。

※グラフの「もっている」は、「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」の合計

<小学校>

【令和6年度】

【経年比較】

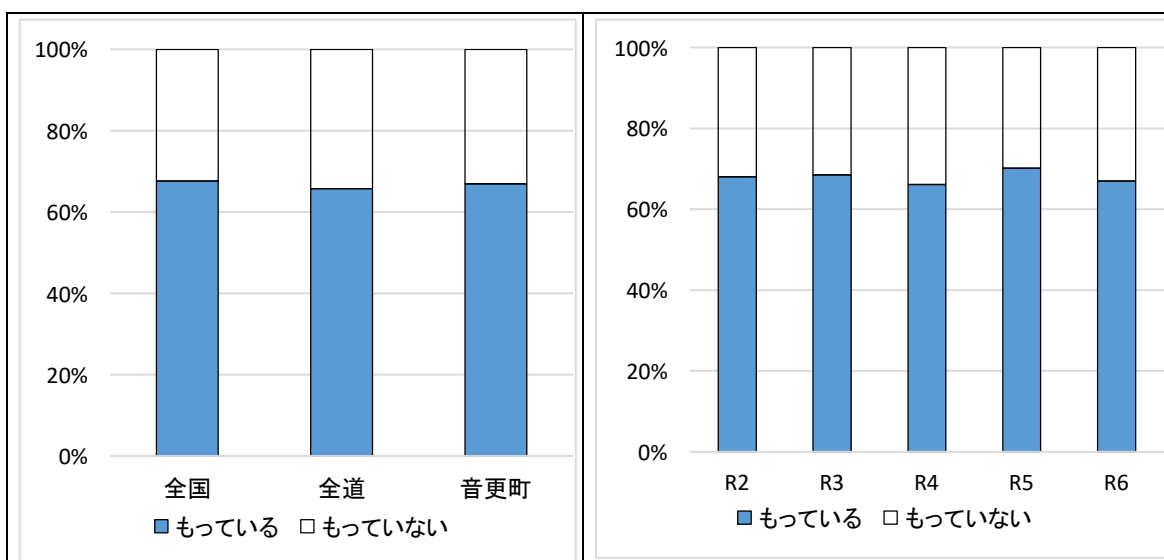


「将来の夢や目標をもっている」と回答とした割合は、81.1%で全道平均を0.7ポイント上回った。経年比較では、「もっている」との回答が近年、減少傾向で推移しているものの、80%台を維持している。引き続き学級活動や総合的な学習の時間などにおいて、キャリア教育の計画的な推進が求められる。

<中学校>

【令和6年度】

【経年比較】



「将来の夢や目標をもっている」と回答した割合は、67.2%で全国平均を3.5ポイント、全道平均を4.0ポイント上回った。経年比較では、近年、減少傾向にて推移していたが、今年度は前年度を4ポイント上回った。小学校と比較すると割合が低いことから、更に将来への展望、挑戦心などを高めしていくための指導が求められる。

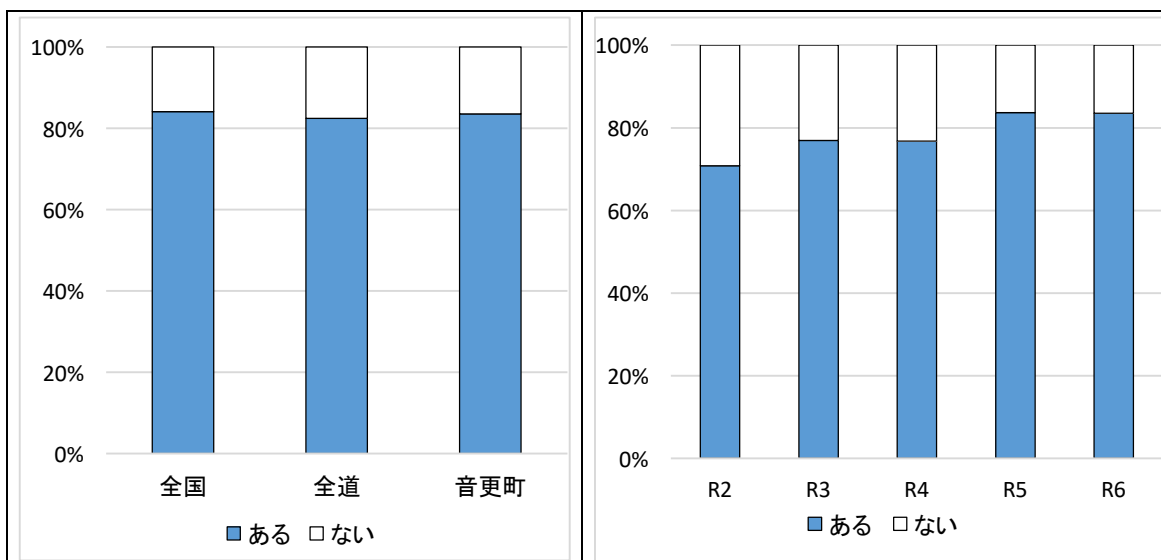
## 6 自分には、よいところがあると思いますか。

※グラフの「ある」は、「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」の合計

<小学校>

【令和6年度】

【経年比較】

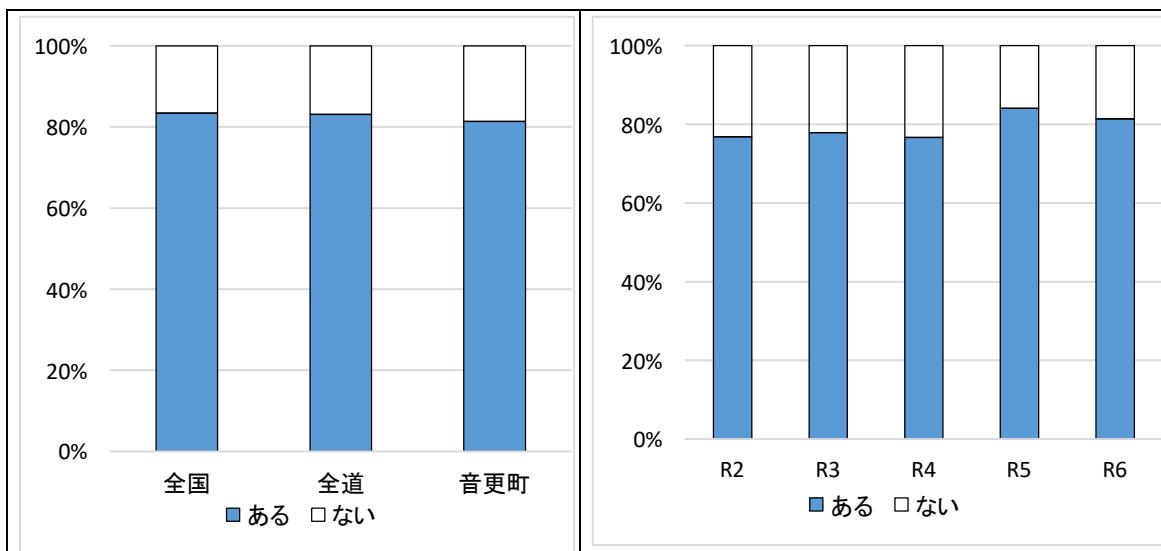


「自分には、よいところがある」と回答した割合は83.3%で、全国平均を0.8ポイント下回ったが、全道平均を0.9ポイント上回った。経年比較では、「ある」との回答が2年連続で80%台を維持しており、増加傾向にある。引き続き学校や家庭において、児童の成果や努力を認めることで、達成感、自己肯定感等を高めることが重要である。

<中学校>

【令和6年度】

【経年比較】



「自分には、よいところがある」と回答した割合は81.1%で、全国平均を2.2ポイント、全道平均を1.9ポイント下回った。経年比較では、「ある」との回答が、近年の減少傾向から、前年度は7.3ポイント上昇したものの、今年度は前年度を2.9ポイント下回った。引き続き主体的・対話的で深い学びや個別最適な学びを通じ、自己有用感等を高めることが重要である。

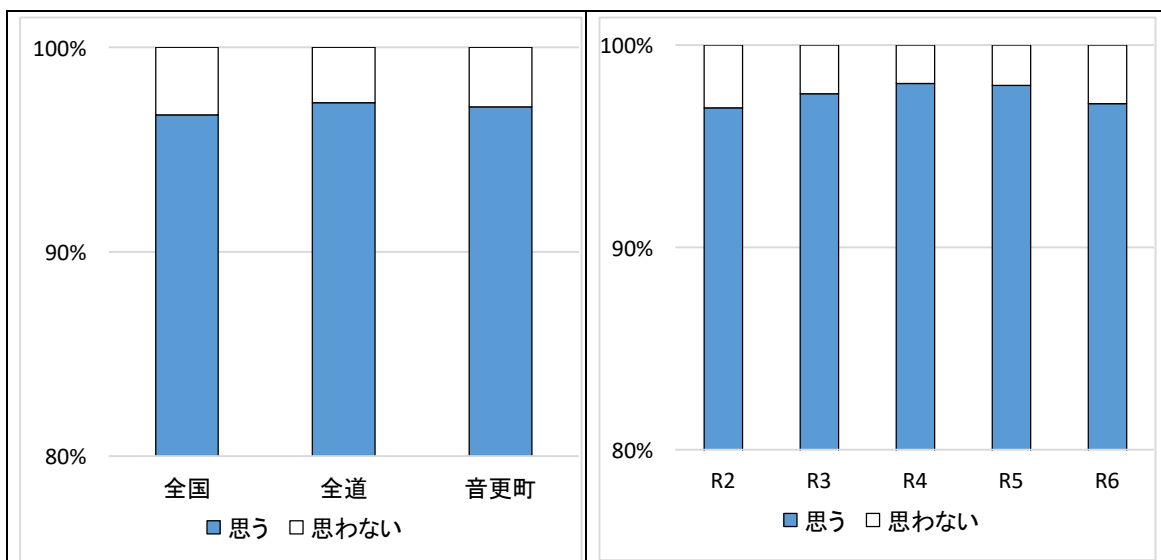
## 7 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。

※グラフの「思う」は、「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」の合計

<小学校>

【令和6年度】

【経年比較】

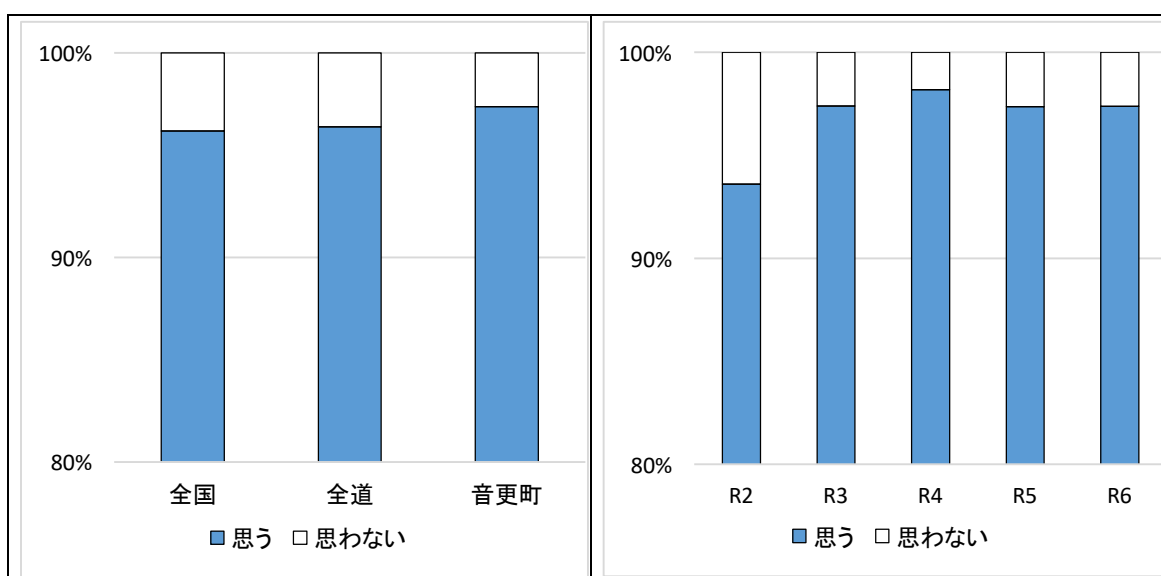


「いじめはどんなことがあってもいけないこと」と回答した割合は、97.1%で、全国平均を0.4ポイント上回ったが、全道平均を0.2ポイント下回った。経年比較では、「思う」との回答が前年度を若干下回ったが、高い水準を維持している。引き続き道徳教育の充実を図るとともに、教職員がアンテナを高くし、日常生活のあらゆる場面を捉え、他者を尊重する態度を養う指導が必要である。

<中学校>

【令和6年度】

【経年比較】



「いじめはどんなことがあってもいけないこと」と回答した割合は、96.6%であり、全国・全道平均の95.7%を若干上回った。経年比較では、「思う」と回答した割合が前年度を下回ったが、いじめに対する認識は高い水準を維持している。なお、小学校同様、引き続き道徳教育の充実を図るとともに、教育活動全体を通して他者を尊重する態度を養う指導が必要である。

【クロス集計分析】※各教科の正答率と児童生徒用質問紙の調査結果をかけ合わせて集計・分析したもの

- 「国語、算数・数学の授業内容はよく分かるか」という質問に対して「当てはまる」と回答した児童生徒の国語、算数・数学の正答率は「当てはまらない」と回答した児童生徒の正答率を上回っている。
- 「あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか（雑誌、新聞、教科書は除く）」という質問に対して「501冊以上」と回答した児童生徒の国語、算数・数学の正答率は、「0～10冊」と回答した児童生徒の正答率を10ポイント以上上回っており、特に中学生は30ポイント以上上回った。
- 「学校に行くのは楽しいか」という質問に対して「当てはまる」と回答した児童生徒の国語、算数・数学の正答率は、前年度が「当てはまらない」と回答した児童生徒の正答率を10ポイント以上上回っていたが、5ポイント未満に差が縮まった。
- 「わからないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」という質問に対して「できている」と回答した児童生徒の国語、算数・数学の正答率は、「できていない」と回答した児童生徒の正答率を20ポイント以上上回っている。

## ② 学力向上のための取組

### ◆教育委員会の主な取組

- 1 全国学力・学習状況調査の分析と検証を行い、「音更町の学力の傾向と改善のポイント」としてまとめ、学習指導の改善や学習意欲の向上に資する基礎資料を提示
- 2 特別支援教育の推進のため、特別支援教育学習支援員を小中学校13校に37人を配置、複式教育学習支援員は2人配置し、小学校4校を巡回
- 3 令和6年度は小学校1、2年生で30人を超える学級等に対し町費負担教諭4人を配置
- 4 教育相談や各種指導助言業務、学校と教育委員会の連携のため、教育推進員2人と学校教育相談員1人を配置
- 5 指導方法工夫改善事業、少人数学級実践研究事業（小6・中1）等を活用し、教諭の加配等による学習環境の向上を実施
- 6 教職員の資質の向上を図るため、教職員研修（校内研修、道内研修、実践指定校事業）への補助と研修の充実
- 7 学級文庫を小学校6校に配置し、夏・冬休みに本の入替を実施、また、移動文庫として小学校5校に出向き、毎月本の入替と低学年を対象とした読み聞かせを実施
- 8 退職校長と連携し、長期休業中（夏季・冬季）に「熟年先生から学ぼう講座」を実施
- 9 外国語でコミュニケーションを図る基盤となる資質・能力を育成するため、小中学校の外国語授業に外国語指導助手2人を派遣
- 10 GIGAスクール構想に基づき町内全ての児童生徒にタブレット端末を配布し、小中学校において「個別最適な学び」と「協働的な学び」が両立する授業を実践
- 11 小学校の全児童を対象に学習支援アプリを導入し、タブレット端末の効果的な活用を促進
- 12 中学校全校で英語学習支援ツール「ワールドクラスルーム」のトライアル活用を実施

### ◆学校の主な取組

- 1 全国学力・学習状況調査やCRT（標準学力検査）の分析結果に基づく学校改善プランの作成と組織的な取組の推進
- 2 分かる授業（課題提示と振り返りの時間の確保）を目指す授業改革
- 3 ICTを活用した子どもを主語とした授業展開

- 4 特別に配慮を要する児童生徒等に対する補足的な学習サポートや習熟度別指導の充実
- 5 加配教諭、町費負担教諭及び学習支援員等による学習指導の充実
- 6 教職員の資質の向上を図るため、校内研修の充実と各種研修への積極的な参加
- 7 宿題や家庭学習専用ノートのほか、デジタルドリルを活用した家庭学習の充実
- 8 「家庭学習のすすめ」を活用した家庭での学習習慣の啓発
- 9 幼保・小・中の円滑な接続による学びの連続性の確保

#### ◆家庭や地域との連携

- 1 保護者及び地域住民に対する学習の機会及び情報の提供
- 2 学校と連携し、「早寝・早起き・朝ごはん」などによる基本的な生活習慣の定着と学習習慣の確立
- 3 リズムのある規則正しい生活ができるようPTA等と連携した啓発活動

#### ◆地域学校協働活動の推進

- 1 地域（主に町内）人材を活用した外部講師の確保と充実による多様な学習機会の提供
- 2 ふるさと教育や、主権者教育などの社会参画教育を通じた「ふるさと音更」を愛する人材の育成
- 3 キャリア教育による、「ふるさと音更」の将来を担う子どもたちへの勤労観、職業観の醸成

## (2) 健やかな体の育成

体力とは、人間の発達・成長を支え、体を動かす原動力であると同時に、健康を維持する上でも必要なものです。また、体力は知力や意欲・気力といった精神面の充実にも大きく関わっており、体力は「生きる力」の重要な要素の一つとなります。その取組の一つとして、全国体力・運動能力、運動習慣等調査を、小学校5年生と中学校2年生を対象に、全数調査を実施しています。また、調査結果を分析・考察した結果を活用して、本町児童生徒の体力・運動能力向上を推進しています。

### ① 児童生徒の現状と課題

令和5年度調査の分析・考察

#### 【小学校5年男子】

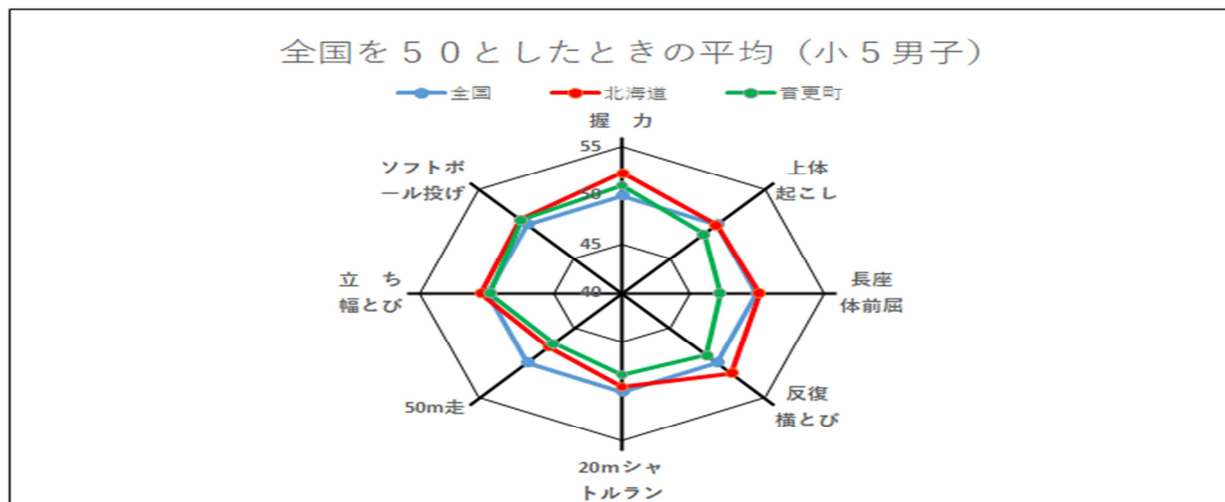
<各種目の記録とT得点の比較>

種目	握力 (kg)	上体 起こし (回)	長座 体前屈 (cm)	反復 横とび (点)	20mシャ トルラン (回)	50M走 (秒)	立 ち 幅とび (cm)	ソフトボ ール投げ (m)	体 力 合計点
全国	16.13	19.00	33.98	40.60	46.92	9.48	151.13	20.52	52.59
北海道	17.00	18.97	34.17	41.83	45.76	9.75	152.37	21.06	52.81
音更町	16.51	18.17	31.61	39.67	43.27	9.80	150.65	21.04	51.31
(T得点)	51.0	48.6	47.3	48.9	48.3	47.2	49.8	50.6	48.7

<分析と考察>

- 体力合計点は、全国・全道平均をともに下回り、前年度の全国値との差が広がる結果となった。
- 各種目では、全8種目中「握力」「ソフトボール投げ」の2種目が、全国平均を上回る結果となったが、全道平均を上回る種目はなかった。
- 課題は、「長座体前屈」「20mシャトルラン」「50m走」である。特に「50m走」は、全国平均から0.32秒、全道平均から0.05秒下回った。
- 小学校男子の課題への対応として、「筋持久力」「柔軟性」「全身持久力」「走力・スピード」の向上を目指した指導の充実が必要である。
- 児童質問紙では、「運動やスポーツが大切なもの」「体育の授業は楽しい」が全国・全道平均を上回った。今後も生涯、運動を楽しめる意識づけや環境づくりを心がけた指導が必要である。

<各種目ごとの全国・全道平均との比較>



## 【小学校5年女子】

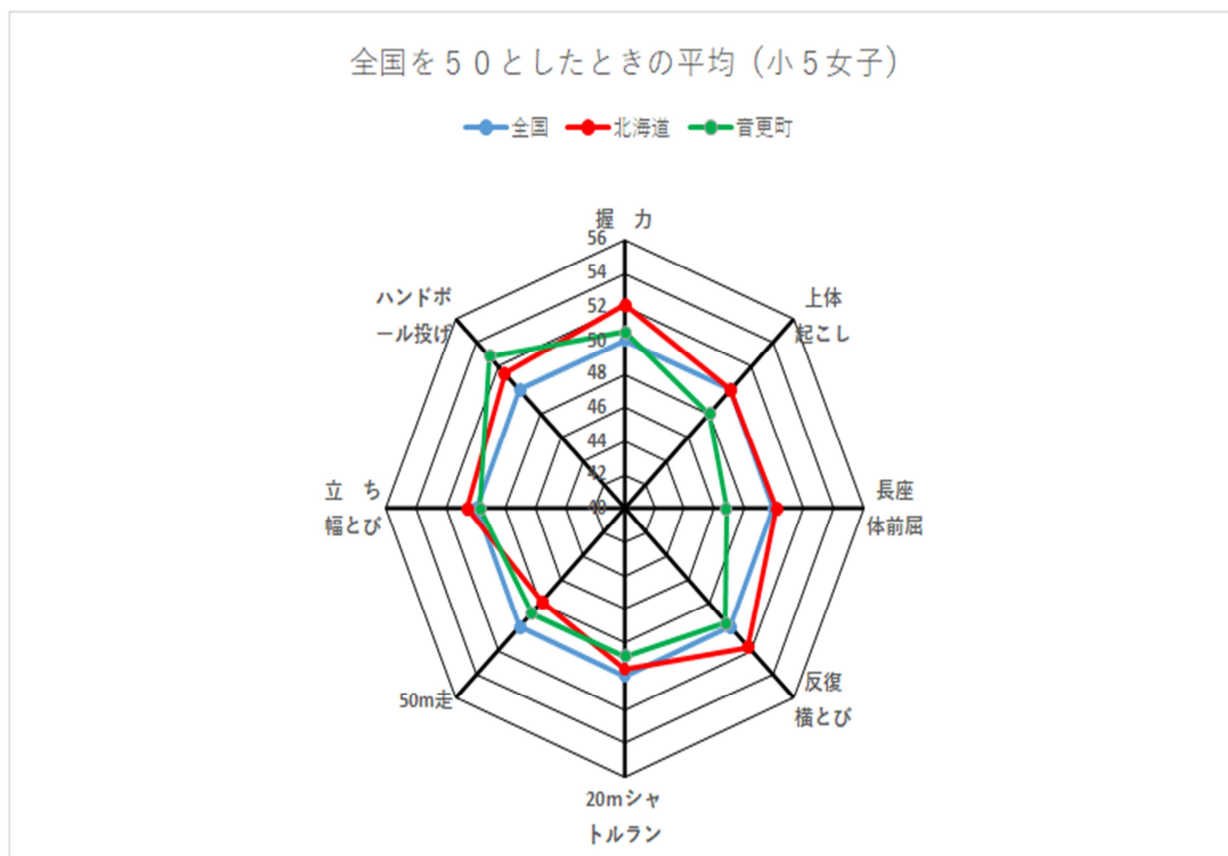
<各種目の記録とT得点の比較>

種目	握力 (kg)	上体 起こし (回)	長座 体前屈 (cm)	反復 横とび (点)	20mシャ トルラン (回)	50M走 (秒)	立 ち 幅とび (cm)	ソフトボー ル投げ (m)	体 力 合計点
全国	16.01	18.05	38.45	38.73	36.80	9.71	144.29	13.22	54.28
北海道	16.85	18.05	38.60	39.96	36.12	9.92	145.56	13.91	54.71
音更町	16.19	16.94	35.51	38.41	34.96	9.82	143.73	14.57	53.06
(T得点)	50.5	48.0	46.8	49.6	48.8	48.8	49.7	52.8	48.6

<分析と考察>

- 体力合計点は、全国・全道平均を下回り、前年度より差が広まる結果となった。
- 各種目では、全8種目中「握力」「ソフトボール投げ」の2種目が全国平均を上回ったほか、「50m走」のみ全道平均も上回った。
- 課題は、「上体起こし」「長座体前屈」「20mシャトルラン」「50m走」である。「長座体前屈」は、全国平均を2.94cm、全道平均を3.09cm下回り、前年度から差が広まる結果となった。
- 小学校女子の課題への対応として、「全身持久力」「柔軟性」「走力・スピード」の向上を目指した指導の充実が必要である。
- 児童質問紙では、「運動が好き」が全国平均・全道平均を下回ったほか、「運動部や地域のスポーツクラブへの所属」は全国・全道平均全道平均を大きく上回っており、運動の必要性や体力向上への意識が高い児童が多い。今後も生涯、運動を楽しめる意識づけや環境づくりを心がけた指導が必要である。

<各種目ごとの全国・全道平均との比較>



## 【中学校2年男子】

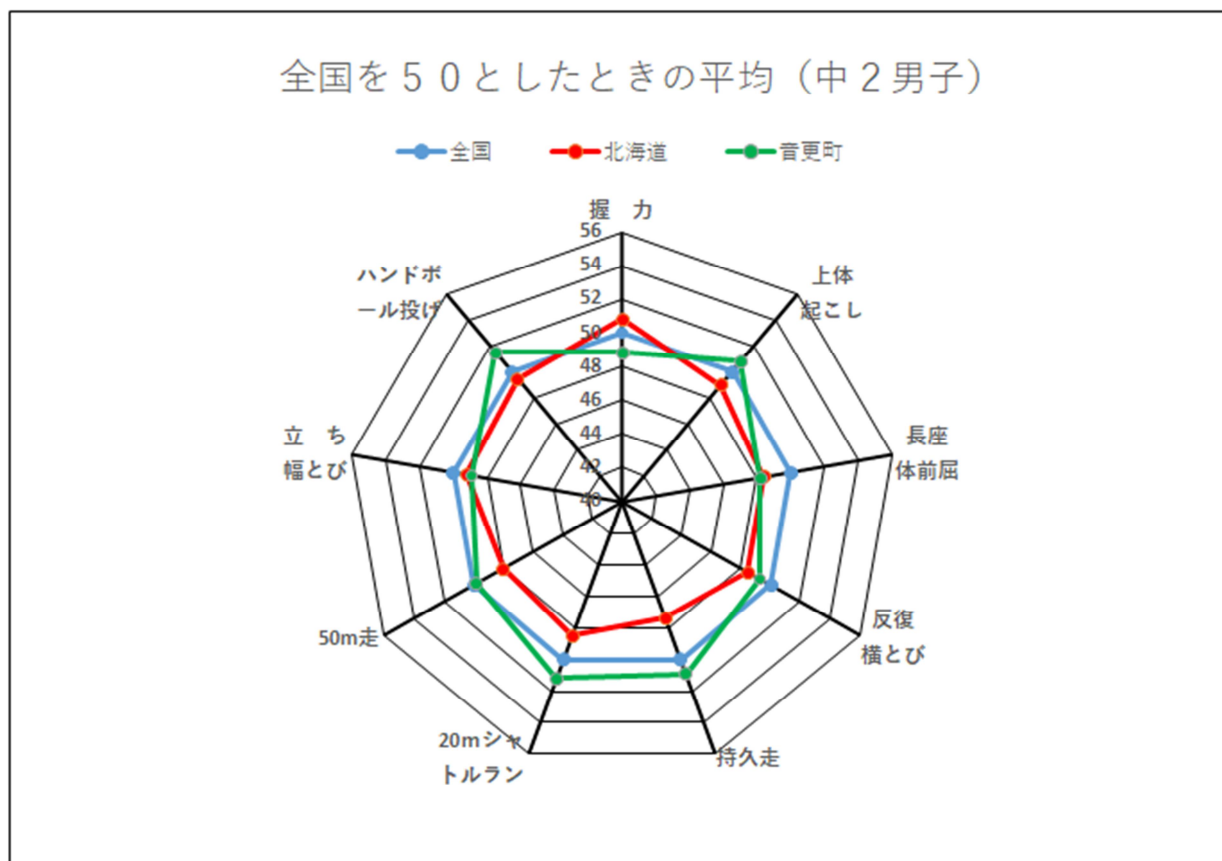
<各種目の記録とT得点の比較>

種目	握力 (kg)	上体 起こし (回)	長座 体前屈 (cm)	反復 横とび (点)	持久走 (秒)	20mシャ トルラン (回)	50M走 (秒)	立ち 幅とび (cm)	ハンドボー ル投げ (m)	体力 合計点
全国	29.02	25.82	44.16	51.22	409.02	78.07	8.01	197.02	20.40	41.32
北海道	29.57	25.17	42.38	49.87	426.84	74.26	8.20	194.57	20.08	40.00
音更町	28.13	26.31	42.18	50.63	403.17	81.20	8.03	193.60	21.34	40.93
(T得点)	48.8	50.8	48.2	49.3	50.9	51.2	49.8	48.9	51.5	49.6

<分析と考察>

- 体力合計点は、全国平均を下回ったが、差は縮まる結果となった。
- 各種目では、全9種目中「上体起こし」「持久走」「20mシャトルラン」「ハンドボール投げ」の4種目が、全国・全道平均を上回る結果となった。
- 課題は、「長座体前屈」「立ち幅とび」である。「立ち幅とび」が2年連続で全国平均を下回る結果となったほか、前年度も課題となっていた「長座体前屈」は、全国平均から1.98cm、全道平均から0.20cm下回ったが、差は縮まる結果となった。
- 中学校男子の課題への対応として、「柔軟性」「瞬発性」の向上を目指した指導の充実が必要である。
- 生徒質問紙では、「運動が好き」「保健体育の授業は楽しい」が全国平均を上回り、運動の楽しさや体力向上への意識が高い。  
今後も、運動への興味・関心を維持していけるよう、運動を楽しめる意識づけや環境づくりを心がけた指導が重要である。

<各種目ごとの全国・全道平均との比較>



## 【中学校2年女子】

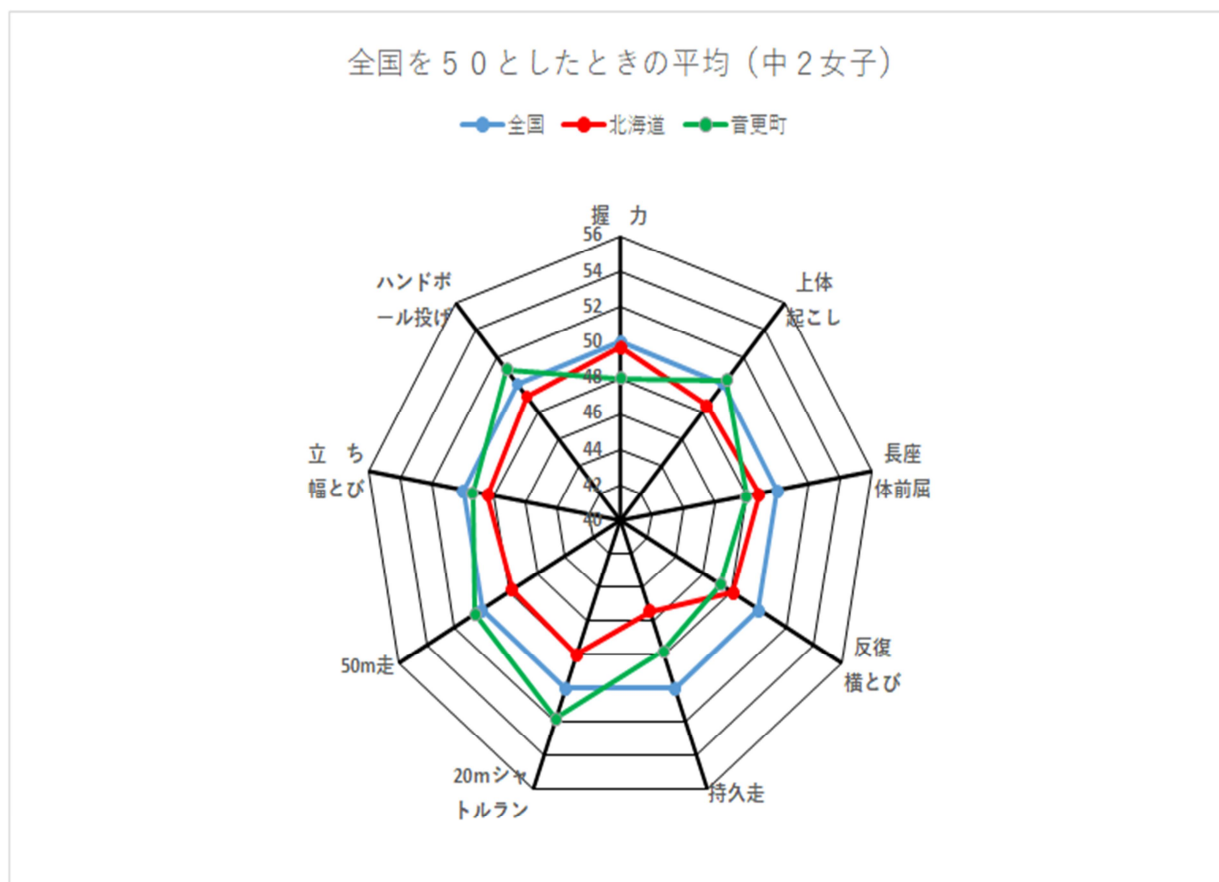
<各種目の記録とT得点の比較>

種目	握力 (kg)	上体 起こし (回)	長座 体前屈 (cm)	反復 横とび (点)	持久走 (秒)	20mシャ トルラン (回)	50M走 (秒)	立ち 幅とび (cm)	ハンドボー ル投げ (m)	体 力 合計点
全国	23.15	21.62	46.27	45.65	306.26	50.70	8.95	166.34	12.43	47.22
北海道	23.03	20.67	45.02	44.28	328.86	46.73	9.15	162.04	12.17	45.06
音更町	22.22	21.81	44.10	43.61	316.88	54.26	8.91	164.66	12.91	45.87
(T得点)	48.0	50.3	48.0	47.2	47.8	51.8	50.5	49.4	51.1	48.8

<分析と考察>

- 体力合計点は、全国平均を下回ったが、差は縮まる結果となった。
- 各種目では、全9種目中「上体起こし」「シャトルラン」「50m走」「ハンドボール投げ」が、全国・全道平均を上回る結果となった。また、「立ち幅とび」は、全国平均に及ばないものの、全道平均を上回る結果となった。
- 課題は、特に「握力」「長座体前屈」「反復横とび」「持久走」であり、全国・全道平均を大きく下回る結果となった。
- 中学校女子の課題への対応として、「筋力」「柔軟性」「敏捷性」「瞬発力」の向上を目指した指導の充実が必要である。
- 生徒質問紙では、「運動が好き」が全国・全道平均を下回り、「保健体育の授業は楽しい」が全道平均を下回ったことから、積極的に運動に取り組む意欲を高める必要がある。

<各種目ごとの全国・全道平均との比較>



## ②体力向上のための取組

### ◆教育委員会の主な取組

- 1 体力・運動能力の向上、運動習慣の改善に向けた教材・教具の充実等、学校への支援
- 2 全国・体力運動能力、運動習慣等調査の分析結果を、体力向上の基礎資料として提示
- 3 体力づくり、健康づくりの振興（スポーツライフ、各種スポーツ教室、各種スポーツ大会の開催）
- 4 スポーツ指導者、リーダーの育成
- 5 スポーツの奨励及び顕彰（スポーツ大会参加補助、スポーツ賞等表彰）
- 6 町内スポーツ施設の整備充実
- 7 地産地消と食育の推進のため、おとふけ給食などを実施
- 8 体力向上「運動プログラム」による体育授業の充実
- 9 小学校体育エキスパート教諭による体力向上に向けた支援

### ◆学校の主な取組

- 1 「年間指導計画」に基づく学校全体の体力づくりの推進
- 2 体育的行事を通じた体力づくりの充実
- 3 全国体力・運動能力、運動習慣等調査や新体力テストの結果を活用した組織的な体力向上の取組
- 4 体育（保健体育）の授業改革による基礎体力の向上と課題克服に向けた取組の充実
- 5 ICTを活用した体力づくりの取組
- 6 「体力づくり一校一実践」や「どさんこ元気アップチャレンジ」の取組
- 7 少年団活動や部活動の加入の奨励と運動習慣の確立
- 8 「年間指導計画」に沿った食に関する指導の充実（栄養教諭の活用）

### ◆家庭との連携による体力づくりの推進

- 1 「早寝・早起き・朝ごはん」の定着と、帰宅後の生活習慣の改善に努め、リズムのある規則正しい生活ができるようPTA等と連携した啓発活動
- 2 運動習慣の大切さに対する意識を高め、自ら運動への関心・意欲を高める工夫
- 3 食育の推進等により、望ましい食習慣を身に付け、健康的な生活習慣を形成

### (3) 豊かな心の育成

子どもたちの健やかな成長と心豊かな未来のためには、自立し、共に支え合いながら、善悪の判断・人を思いやる心・命や自然を大切にすること・ふるさとを愛する心などを育成することが大切です。このため、いじめや不登校などの問題については、教育活動全体を通じての指導や道徳教育の充実、学校、家庭、教育委員会などが連携した取組が必要です。

#### ① いじめ・不登校の現状と課題

##### <いじめ>

平成29年3月に国の「いじめ防止等のための基本方針」等が改定されたことに伴い、平成30年には、町や各学校の「いじめ防止基本方針」を改定し、各学校においていじめ防止のための対策を進めています。

それら対策のうちの一つである、いじめに関するアンケート調査では、いじめの全貌を把握することは難しいという認識の下、児童生徒が「嫌な思い」を感じている場合についても、いじめとして認知する必要があるということから、「いじめ」を「嫌な思い」という表現にしています。

令和6年11月に実施したいじめに関するアンケート調査では、「4月以降に、仲間はずれや無視、たたかれる、悪口を言われる等の嫌な思いをしたことがある」と答えた小学生が428件、中学生では64件となっており、「嫌な思いは今でも続いている」と答えた小学生の事例が205件、中学生の事例が22件となっています。これらの事案については、各学校において教育相談を実施しており、中学生の1件を除き、令和7年3月までに解消しています。

また、「いじめはどんな理由があっても許されない」と回答している児童生徒は、83.5%となっています。

##### いじめに関するアンケート結果の推移

項目		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
嫌な思いをした（いじめられた）ことがある (単位：件)	小学生	541	528	430	454	428
	中学生	45	56	52	43	64
	計	586	584	482	497	492
嫌な思い（いじめ）は今でも続いている (単位：件)	小学生	189	225	167	251	205
	中学生	13	20	22	22	22
	計	202	245	189	273	227
いじめはどんな理由があっても許されない (単位：%)	小学生	86.8	85.3	83.3	84.8	85.7
	中学生	82.1	82.3	80.5	78.2	79.6
	計	85.1	84.2	82.3	82.3	83.5

##### <不登校>

令和6年度における不登校の状況は、小学生65人、中学生113人の合計178人であり、小学生、中学生とも減少しています。そのうち、教育支援センター（ふれあい教室、ふれあい柳町教室「ほっと」）への通級者は、小学生8人、中学生20人の合計28人で、前年度より通級者は減少しています。

不登校は、取り巻く環境によっては、どの児童生徒にも起こり得るものとして捉え、不登校ということだけで問題行動であると受け取られないよう配慮し、児童生徒の最善の利益を最優先に支援を行うことが重要であります。また、登校という結果のみを目標にするのではなく、児童生徒が自らの進路などを主体的に捉えて、社会的に自立することを目指す必要もあります。

項目		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
不登校児童生徒数	小学生	31	36	50	68	65
	中学生	75	112	133	153	113
	計	106	148	183	221	178
上記のうち、教育支援センター通級者数	小学生	0	5	9	12	8
	中学生	11	24	31	35	20
	計	11	29	40	47	28

## ② いじめ・不登校未然防止等の取組

いじめは、「どの子どもにも、どの学校でも起こり得る」という意識を持ち、教育活動全体を通じ、全ての児童生徒に「いじめは決して許されない」という理解を促し、心の通う人間関係を構築する能力を養うことが必要です。また、いじめについては、未然防止、早期発見、早期解消が求められ、学校、家庭が一体となって児童生徒を見守り、ささいな変化に気づくことが必要です。

不登校については、児童生徒にとって、学校や学級が安全・安心な居場所となるような取組が重要であり、児童生徒の自己有用感や自己肯定感を高め、「自分という存在が大事にされている」、「心の居場所となっている」などと実感できる取組が大切です。

### ◆教育委員会の主な取組

- 1 「音更町いじめ防止基本方針」に基づく、いじめ・不登校の防止等の取組
- 2 いじめ・不登校の未然防止や根絶を図るため、ハイパーQUアンケート調査や心理検査等を実施
- 3 学校、児童生徒及び保護者等に対する支援や相談体制の充実（スクールカウンセラー、学校教育相談員、教育推進員、心の教室相談員、総合教育相談等）
- 4 携帯電話やスマートフォンなどのインターネットを通じて行われるいじめの早期発見を図るため、PTA等関係機関と連携し、家庭におけるルールづくりの啓発
- 5 教育支援センターによる不登校傾向の児童生徒に対する学校生活への復帰を含め、将来に向けた社会的自立を目指した支援の実施
- 6 「音更町いじめ問題等対策委員会」による状況の把握及びいじめ防止啓発等の推進
- 7 いじめ重大事態に対応するための第三者調査委員会の設置
- 8 家庭・地域・関係機関（警察、児童相談所、医療機関等）との連携体制の充実
- 9 保護者、教職員及び関係機関を対象とした不登校学習会の開催

### ◆学校の主な取組

- 1 「いじめ防止基本方針」に基づく、いじめ・不登校の未然防止、早期発見・早期解消の取組
- 2 いじめ・不登校の未然防止や早期発見のため、定期的に実施するハイパーQUアンケートや心理検査の分析を活用した教育相談や学級経営
- 3 教育相談体制の充実と教育相談の実施
- 4 道徳の時間などにおいて、共感的な関係を深め、体験的な活動の充実
- 5 ネットトラブルから児童生徒を守るため、定期的なネットパトロールの実施と情報モラル教育の充実
- 6 家庭・地域・関係機関（警察、児童相談所、医療機関等）との連携
- 7 いじめ発見時の対処方法等の習得を目的とした研修会の開催
- 8 生徒会主催の「いじめ」撲滅宣言によるいじめの未然防止に向けた取組

◆家庭や地域との連携

- 1 自尊感情や他人を思いやる心の醸成
- 2 家庭だけで悩まず、学校や教育委員会などとの連携
- 3 社会教育の充実（地域で子どもを育てる気運）
- 4 携帯電話やスマートフォンなどの家庭におけるルールづくり

3 教育行政推進における主要な施策の実施状況

項		成 果																
目 的	策	策																
(1) 文 教 対 策																		
1 教 職 員 研 修	教職員の資質の向上を図るため、次のとおり研修を行った。 対象教職員 340人 1,871,295円																	
2 音 更 高 校 パ ー ト ナ ー シ ョ ッ プ 事 業	音更高校の魅力向上を図るため、次のとおり交付金を交付した。 音更高校パートナーシップ事業交付金 2,200,000円 (うち700,000円は民間事業者からの寄附金)																	
3 部 活 動 の 地 域 移 行	持続可能な部活動の運営体制を構築するため、次のとおり部活動の地域移行に取り組んだ。 部活動改革協議会及び地域移行説明会の開催、推進計画の策定 部活動指導員の配置 4人																	
4 教 職 員 健 康 対 策	教職員の健康診断及びストレスチェックを次のとおり実施した。 健康診断受診人数382人 ストレスチェック受検人数351人 6,137,283円 〔胸部X線、胃(X線又は内視鏡)検査、血圧検査、尿検査、血液検査〕 〔心電図検査、聴力検査、身体総合検査〕																	
5 奨 学 資 金	高校在学者で家庭の経済的な理由により就学困難な者に対し、奨学資金を支給した。	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="3">(単位 人、円)</th> </tr> <tr> <th>区分</th> <th>支給人数</th> <th>奨学資金 支給総額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>通年(公立高校)</td> <td>55</td> <td>月額 4,290,000</td> </tr> <tr> <td>通年(私立高校)</td> <td>47</td> <td>月額 5,560,000</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>102</td> <td>9,850,000</td> </tr> </tbody> </table>		(単位 人、円)			区分	支給人数	奨学資金 支給総額	通年(公立高校)	55	月額 4,290,000	通年(私立高校)	47	月額 5,560,000	計	102	9,850,000
(単位 人、円)																		
区分	支給人数	奨学資金 支給総額																
通年(公立高校)	55	月額 4,290,000																
通年(私立高校)	47	月額 5,560,000																
計	102	9,850,000																

教育委員会の点検・評価

教職員の素養、知識、技術向上のために主にとして学校内及び町内・管内で行う研修と、道内研修参加者による費用を交付した。コロナ禍以降、対面・リモートなど多様な形式での研修機会が増加しており、今後も教職員の資質向上のため、事業を継続していく必要がある。

音更高校の「まちづくり」に連携・協力する活動、魅力向上対策及び給付型奨学金の給付など、特色ある高校づくりに支援したため、交付金を交付した。なお、交付額のうち民間事業者からの寄附金700,000円は夢の種奨学金の原資としている。今後、音更高校の魅力向上し、地域の担い手となる人材育成のため、事業を継続していく必要がある。

少子化の影響などにより、従来の各中学校を運営主体とした部活動の存続が厳しい状況となっていることから、国・道の方針を踏まえ、部活動を学校から地域に移行する取組を進めている。令和6年度は町内の関係団体等で構成する部活動改革協議会において協議を進めるとともに、推進計画の策定、部活動指導員を増員するなど、地域連携の強化が図られた。

教職員の健康診断を帯広徳洲会病院に委託して実施した。1日当たりの受入れ人数に制限があるため(1日5人程度)、長期間に渡って実施している。また、平成29年度から、メンタルヘルズ不調の未然防止やストレスへの気づきを促すため、教職員のストレスチェックを実施している。長期休業期間中に多くの教職員が受診できるよう日程を調整し、継続して実施する必要がある。

高校在学者であって、経済的な理由により就学困難な高校生に奨学資金を支給している。平成27年度から支給対象を増やし、一人当たり支給単価を公立高校が月当たり6,500円、私立高校が月当たり1万円を限度に実施している。  
本事業の周知については、申請受付開始前に各高校に本町奨学資金の案内文を送付するとともに、町内中学3年生の生徒・保護者向けにお知らせを配布している。  
今後とも保護者負担の軽減のため、継続していくことが必要である。

項	目		成	果	教育委員会の点検・評価																																																											
	主要な	施策																																																														
6	開かれた学校づくり	開かれた学校づくりに向けて次のとおり実施した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>学校運営協議会（コミュニティ・スクール）            学校と保護者や地域住民が子どもに関する課題・目的を共有し、「地域とともにある学校づくり」を推進するため、学校運営及び運営への必要な支援について協議する学校運営協議会の委員を任命した。            （小学校11校93人、中学校5校37人）</li> <li>小規模特認校            保護者・児童が希望する場合、一定の条件の下で、自然環境に恵まれた小規模校へ通学区域外からの入学を認める小規模特認校制度を下土幌小学校で導入した。</li> </ul>	信頼される開かれた学校づくりに向けて次のとおり実施した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>学校運営協議会（コミュニティ・スクール）            学校と保護者や地域住民が子どもに関する課題・目的を共有し、「地域とともにある学校づくり」を推進するため、学校運営及び運営への必要な支援について協議する学校運営協議会の委員を任命した。            （小学校11校93人、中学校5校37人）</li> <li>小規模特認校            保護者・児童が希望する場合、一定の条件の下で、自然環境に恵まれた小規模校へ通学区域外からの入学を認める小規模特認校制度を下土幌小学校で導入した。</li> </ul>	子どもたちを取り巻く環境や学校が抱える課題が複雑化・多様化しており、学校運営に地域の人々が参画し、地域人材や資源を生かしながら協働して活動していく、「地域とともにある学校づくり」を進めるため、学校運営協議会（コミュニティ・スクール）を設置。学校・地域・家庭のより一層の連携協力を図っていくため、学校評価や地域学校協働活動について協議（熟議）を行っている。令和4年度にすべての小中学校がコミュニティ・スクールに移行し、学校運営協議会を設置している。 また、平成19年度から小規模特認校制度を導入していた昭和和小学校が令和元年度で閉校したため、令和2年度からは、下土幌小学校が小規模特認校制度を導入している。令和2年度から令和6年度までに計3人が入学している。																																																												
7	児童生徒の安全確保	児童生徒の安全確保対策として次のとおり実施した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>新入学児童への防犯ブザーの配付</li> <li>全小中学校にAED（自動体外式除細動器）を配置</li> </ul>	児童生徒の安全確保対策として次のとおり実施した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>新入学児童への防犯ブザーの配付</li> <li>全小中学校にAED（自動体外式除細動器）を配置</li> </ul>	登下校時の通学路の安全対策については、各学校ごとに地域ぐるみで子どもを見守る取組が進められている。 教職員対象の一般救急講習では、AED操作方法やエビペンの研修を行った。各種災害時の対応マニュアルにより、教育委員会、学校及び保護者の対応について共有している。 今後も、児童生徒の安全確保の観点から継続していききたい。																																																												
8	教育施設の整備	教育施設の整備を次のとおり実施した。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>工 事 名 等</th> <th>工事費等</th> <th>内 容</th> <th>容 量</th> <th>(単位 円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>音更小学校暖房自動制御盤改修工事</td> <td>1,287,000</td> <td>デジタル温度指示調節計更新</td> <td>10台</td> <td></td> </tr> <tr> <td>下音更小学校水泳プール防水補修工事</td> <td>891,000</td> <td>水泳プール水槽塗装補修</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>下音更小学校玄関ポーチ床改修工事</td> <td>924,000</td> <td>校舎玄関ポーチ床改修</td> <td>17.9㎡</td> <td></td> </tr> <tr> <td>下音更中学校煙突陣笠改修工事</td> <td>990,000</td> <td>校舎煙突陣笠改修</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>駒場中学校機械室間仕切壁設置工事</td> <td>3,025,000</td> <td>間仕切壁新設</td> <td>23.0㎡</td> <td></td> </tr> <tr> <td>鈴蘭小学校水泳プール給湯ボイラー更新工事</td> <td>376,200</td> <td>水泳プール給湯ボイラー更新</td> <td>1台</td> <td></td> </tr> <tr> <td>木野東小学校普通教室暖房設備更新工事</td> <td>451,000</td> <td>FF温風暖房機更新</td> <td>1台</td> <td></td> </tr> <tr> <td>柳町小学校ほか2校遊具再整備工事</td> <td>946,000</td> <td>柳町小大型4人用ブランコ、複列シーソー、木野東小6間鉄棒ほか再整備</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>音更小学校ほか1校水泳プール上屋シート更新工事</td> <td>8,129,000</td> <td>音更小、駒場小水泳プール上屋シート更新</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>柳町小学校水泳プール水槽塗装改修工事</td> <td>20,350,000</td> <td>水泳プール水槽塗装</td> <td>495.0㎡</td> <td></td> </tr> <tr> <td>音更小学校屋外トイレ新築建築主体工事</td> <td>28,600,000</td> <td>屋外トイレ新築</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	工 事 名 等	工事費等	内 容	容 量	(単位 円)	音更小学校暖房自動制御盤改修工事	1,287,000	デジタル温度指示調節計更新	10台		下音更小学校水泳プール防水補修工事	891,000	水泳プール水槽塗装補修			下音更小学校玄関ポーチ床改修工事	924,000	校舎玄関ポーチ床改修	17.9㎡		下音更中学校煙突陣笠改修工事	990,000	校舎煙突陣笠改修			駒場中学校機械室間仕切壁設置工事	3,025,000	間仕切壁新設	23.0㎡		鈴蘭小学校水泳プール給湯ボイラー更新工事	376,200	水泳プール給湯ボイラー更新	1台		木野東小学校普通教室暖房設備更新工事	451,000	FF温風暖房機更新	1台		柳町小学校ほか2校遊具再整備工事	946,000	柳町小大型4人用ブランコ、複列シーソー、木野東小6間鉄棒ほか再整備			音更小学校ほか1校水泳プール上屋シート更新工事	8,129,000	音更小、駒場小水泳プール上屋シート更新			柳町小学校水泳プール水槽塗装改修工事	20,350,000	水泳プール水槽塗装	495.0㎡		音更小学校屋外トイレ新築建築主体工事	28,600,000	屋外トイレ新築			(既存施設の改修及び保全) 施設の整備については、昨年度に引き続き、災害用の機能を備えた屋外トイレのほか、児童生徒と教職員の熱中症対策のため、普通教室・職員室・校長室・給食室のエアコンを整備した。 また、老朽化が進む学校施設の整備として、音更小学校と駒場小学校水泳プールの上屋シート更新や、柳町小学校水泳プールの水槽塗装を行った。 今後も、長寿命化計画に沿った維持管理を行い、施設に求められる安全安心はもとより、機能や性能の確保に努めていく。
工 事 名 等	工事費等	内 容	容 量	(単位 円)																																																												
音更小学校暖房自動制御盤改修工事	1,287,000	デジタル温度指示調節計更新	10台																																																													
下音更小学校水泳プール防水補修工事	891,000	水泳プール水槽塗装補修																																																														
下音更小学校玄関ポーチ床改修工事	924,000	校舎玄関ポーチ床改修	17.9㎡																																																													
下音更中学校煙突陣笠改修工事	990,000	校舎煙突陣笠改修																																																														
駒場中学校機械室間仕切壁設置工事	3,025,000	間仕切壁新設	23.0㎡																																																													
鈴蘭小学校水泳プール給湯ボイラー更新工事	376,200	水泳プール給湯ボイラー更新	1台																																																													
木野東小学校普通教室暖房設備更新工事	451,000	FF温風暖房機更新	1台																																																													
柳町小学校ほか2校遊具再整備工事	946,000	柳町小大型4人用ブランコ、複列シーソー、木野東小6間鉄棒ほか再整備																																																														
音更小学校ほか1校水泳プール上屋シート更新工事	8,129,000	音更小、駒場小水泳プール上屋シート更新																																																														
柳町小学校水泳プール水槽塗装改修工事	20,350,000	水泳プール水槽塗装	495.0㎡																																																													
音更小学校屋外トイレ新築建築主体工事	28,600,000	屋外トイレ新築																																																														

項	目		成		果		教育委員会の点検・評価	
	主要な	施策の整備	工事名等	工事費等	内容	容		
8	教育施設の整備		音更小学校屋外トイレ新築電気設備工事 音更小学校屋外トイレ新築機械設備工事 音更小学校ほか2校トイレ改修工事 木野東小学校屋内運動場暖房設備ほか補修工事 ことばの教室エアコン整備工事 学校施設エアコン整備機械設備工事 学校施設エアコン整備電気設備工事 学校施設エアコン整備工事監理業務 計	4,991,800 6,864,000 7,150,000 3,102,000 35,661,321 757,570,000 234,850,000 9,955,000 1,126,113,321	屋外トイレ新築に伴う電気設備工事 屋外トイレ新築に伴う機械設備工事 洋式化 音更小4台、下音更小2台、鈴蘭小2台、トイレブース改修 下音更小1か所 屋内運動場暖房設備ほか補修 エアコン整備 13台 エアコン整備 287台、ロスナイ整備 280台 エアコン整備に伴う電気設備工事 工事監理、指導監督 計			
9	教員住宅の整備		教員住宅の整備を次のとおり実施した。			(単位 円)		教職員の福利厚生の一環として整備している住宅の住環境改善のため、昨年度に引き続き温水ボイラーの更新のほか、屋根塗装等を行った。 今後も入居者の要望を把握し、入居状況を踏まえながら質的整備を進める。 また、教員住宅の効率的な維持管理を目的として「音更町教員住宅の基本的な考え方」の見直しを行った。
10	学校給食関係		給食費改定に伴う保護者負担の軽減を図るため、給食費の値上げ相当額を補助した。 対象者数 3,359人 22,217,150円					令和5年度及び令和6年度に学校給食費が改定されたが、当該値上げ相当額を補助することにより、保護者の負担を改定前の水準に据え置くこととした。 今後も保護者の負担軽減を図るため、物価高騰対策の一環として事業を継続する必要がある。
11	食育		生涯を通じて心身の健康を支える食育を推進するため、食事の重要性や食への感謝の気持ちなどを育みながら、食に関する正しい知識と望ましい食習慣の定着を目指し、管理栄養士と学校配置の3人の栄養教諭とともに、自校給食の特色を生かした食育指導の強化を図っている。 また、地場産品への知識や理解を深めてもらうことを目的に、町内産の旬の食材を献立に組み入れる「おとぶけ給食」を町と連携して実施し、安全・安心でおいしい学校給食を提供しながら、地産地消の推進と食育の充実を図っている。					本町の学校給食は、地場産品の割合が高いが、今後も食育の充実を図るとともに、食品の安全・安心に継続して取り組む必要がある。また、地産地消と食育推進のため、町と連携して「おとぶけ給食」を継続して実施するなど、教育委員会に配置する管理栄養士と3人の栄養教諭が連携して、学校における食育の充実を図っている。

項	目		成		果		
	主要な	施策					
12	学校給食費の状況		納入状況は、次のとおりである。				
			区分	調定額	収納額	未納欠損額	収納率
			現年度分	188,709,126	188,307,205	401,921	99.8%
			未納世帯 12世帯				
13	スクールカウンセラーの配置		スクールカウンセラー1人を教育委員会事務局に配置するとともに、北海道教育委員会が実施するスクールカウンセラーの派遣事業を活用し、年々増加する相談対応、緊急時における即時対応や予防的取組などの充実を図るため、様々な不安や悩みを抱える児童生徒の気持ちに寄り添い支援した。				
14	総合的な学習の時間の支援事業		総合的な学習の時間として、創意工夫を生かした特色ある学校づくりの推進を図った。				
			(単位 円)				
			区分	学校数	交付額		
			小学校	11	1,204,430		
			中学校	5	740,471		
			計	16	1,944,901		
15	就学援助		経済的理由により就学困難な児童生徒に対し、次のとおり就学援助費を支給した。				
			(単位 人、円)				
			区分	支給人数	支給額		
			学用品費	825	15,625,751		
			体育実技用具費	252	2,964,310		
			入学準備金	82	2,155,320		
			入学準備金(早期支給)	157	9,582,120		
			卒業アールバム代	179	2,173,820		
			修学旅行費	175	7,601,176		
			通学費	3	70,358		
			P T A会費	662	1,984,878		
			生徒会費	313	94,557		
			クラブ活動費	216	3,912,411		
			医療費	354	535,303		
			給食費	819	38,986,164		
			通信費	37	714,378		
			管理指導表文書料	4	4,730		
			計		86,405,276		
				児童生徒数	3,358人		
				認定者数	832人		
				認定率	24.7%		

教育委員会の点検・評価

学校給食費の徴収事務等に係る教職員の負担軽減を図るため、令和6年度から学校給食費の公会計化を実施した。  
今後も教職員の負担軽減を図るため、学校における働き方改革の一環として事業を継続する必要がある。

心理に関して高度に専門な知識及び経験を有するスクールカウンセラーを学校に派遣し、児童生徒へのカウンセリングを通じて主に心理面のサポートのほか、教員、保護者への助言等を行うなど、相談体制の強化が図られた。

総合的な学習の時間における教育活動において、創意工夫による特色ある学校づくりのため、小中学校にその経費を交付している。今後も、国際理解・情報・環境・福祉・健康教育等の総合的な教育活動の推進のために必要である。

経済的理由により就学困難な児童生徒に対し、就学援助を実施することで、保護者の負担軽減を図っている。  
就学援助の対象者として、要保護者に準ずる程度に困窮している者と認められる準要保護者の認定に当たっては、町独自の施策として準要保護者の認定倍率を、平成28年度から生活保護基準の1.5倍未満に引き上げ、認定者数を拡大して援助を行っている。認定者数は、児童生徒数が減少したことに伴い、令和5年度より80人減少しており、認定率も1.2ポイント低下した。  
また、令和6年度の全体の支給額は、昨年度に比べ約703万円の減となっているが、これは、認定者数の減少により大半の区分で支給額が減少したためである。

令和3年度から貸出しを実施している「家庭学習のためのモバイルWi-Fiルーター」に係る通信費について、実費分を支給した。今後も保護者負担の軽減のため、継続していくことが必要である。

なお、令和7年度以降は、就学援助の認定基準を変更することにより、添付書類が原則不要となるほか電子申請も可能とするなど、就学援助申請時における申請者の負担軽減を図ることとしている。

項目	目 的		成 果	教育委員会の点検・評価
	主 要 な 施 策	目 的		
16	いじめ問題等対策委員会を設置して、全小中学校でアンケート調査を実施し、調査結果をまとめた「いじめに関する実態調査」を教職員に配付した。また、平成25年度から学校生活における児童生徒の満足感や意欲、学級集団の状態を測定することを可能とするハイパーQ Uアンケートを実施し、児童生徒や学級の状態の客観的・多面的な理解に活用することで、いじめ等の早期発見にも効果も上げている。		いじめ問題等対策委員会を設置して、全小中学校でアンケート調査を実施し、調査結果をまとめた「いじめに関する実態調査」を教職員に配付した。また、平成25年度から学校生活における児童生徒の満足感や意欲、学級集団の状態を測定することを可能とするハイパーQ Uアンケートを実施し、児童生徒や学級の状態の客観的・多面的な理解に活用することで、いじめ等の早期発見にも効果も上げている。	アンケート調査を基に、ネット上のいじめ等も含め、いじめの実態把握に取り組んでいる。 令和5年5月の「音更町いじめ防止基本方針」の改定を踏まえ、各学校において「いじめ防止基本方針」を改定するなど校内体制の充実を図るとともに、教育委員会で各学校のハイパーQ Uアンケートの分析を行い、結果を学校に伝えることで、いじめ・不登校の早期発見・早期解消に努めている。
17	情報教育	I C T機器を効果的に活用し、児童生徒の学習の基盤となる「情報活用能力」の向上を図った。また、寄附を受けたSTEAM教材を活用し、小中学校でプログラミング教育に取り組んだ。 文部科学省が実施する「学びの保障・充実のための学習者用デジタル教科書実証事業」に町内の全小中学校が参加した。また、指導者用デジタル教科書の年間ライセンスを全小中学校分購入し、授業での活用を図った。 1人1台タブレット端末をより一層効果的に活用するため、音更町教育研究所と連携し、学習支援アプリやデジタル・シディンズシンプなどに関する教職員向けの研修を実施した。 今後、各学校においてI C T機器の活用が一層進むことが予想され、現状の把握や帯域増幅の検討が必要なことから、ネットワークアクセスマネジメントを実施した。通信環境が整っていない家庭向けにモバイルWi-Fiルーターの貸出しを実施した。		新たな学習指導要領において「学習の基盤となる資質・能力」に位置付けられている「情報活用能力」の育成のため、各学校において1人1台のタブレット端末を活用している。 音更町教育研究所や新しいかたちの学びの授業力向上推進事業における推進教員が中心となって学習支援アプリの効果的な活用に係る研修会及び授業公開を行ったほか、クラウドを活用し町内の全教職員向けに授業におけるI C T活用の情報を発信するなど、町全体への成果の普及に取り組んでいる。 今後、G I G Aスクール構想を推進していくためには、保護者の理解や協力が不可欠であることから、1人1台端末を活用した授業を保護者に体験してもらい講座を生徒学習課と連携し実施した。
18	国際理解教育	外国語指導助手を配置し、中学生に対する英語の発音指導のほか、小学校における英会話の補助及び地域における国際交流活動等の活動を行っている。 英語指導助手 2人 小学校が実施する外国語活動を補助するため、外部サポーター講師を全小学校に派遣した。 A Iによる音声認識技術及びオンラインでの国際交流が可能な英語学習支援ツールを中学校に試験導入し、英語学習における「読む」「話す」といった技能の習得や、海外の同世代とのオンライン国際交流を通じて国際理解の向上を図った。		外国語指導助手については、小中学校をはじめ、社会人の英会話教室や国際交流の集いなど幅広く活用されている。令和2年度から小学校英語教科書が開始されたことに伴い、取組の強化を図るため、外国語指導助手を令和元年8月に1人増員している。 外部サポーター講師の派遣については、各小中学校の指導目標に合った外国語活動を補助するため、今後も継続していきたい。 英語学習支援ツールについては、令和7年度からの本格導入に向けて、各中学校と連携の上、導入効果を検証した。
19	特別支援教育	肢体不自由学級及び病弱学級等に在籍する児童生徒のうち、生活介助が必要であるものに対し、平成23年度から訪問介護事業所に業務委託し生活介助員を派遣した。 また、特に医療的ケアが必要であるものに対しては、令和元年度から訪問看護事業所に業務委託し看護師を派遣した。 通常学級には引き続き学習支援員を配置した。 複式学校に複式学習支援員を配置した。 ・生活介助員 8校 ・看護師 1校 ・特別支援教育学習支援員 13校 ・複式教育学習支援員 4校		特別支援学級に在籍する肢体不自由等の障がいがある児童生徒の学校生活を支援するため、今後も生活介助員の配置が必要である。 平成20年度から配置している特別支援教育学習支援員は、通常学級における発達障害等により特別な支援を要する児童生徒に対して、学習活動や学校生活上における支援を行っている。通常学級における合理的配慮などの充実を図るため、令和6年度に2人増員した。継続的な配置と必要に応じた増員の検討が今後必要である。 平成25年度から配置している複式学習支援員は、複式学級の児童の指導補助を行うことにより、複式学年別指導の充実を図っていることから、今後も配置が必要である。 障がいのある児童生徒又は特別な教育的支援を必要とする児童生徒の就学及び教育的支援を審議する教育支援委員会について、町内の幼児教育施設の職員を委員に委嘱し、専門的な立場からの助言を受けて幼児期からの一貫した支援の参考にするなど、機能の充実を図った。

項	目		成	果																																							
	主	要																																									
1	青少年教育事業	社会教育の振興	団体活動を奨励し、体験学習の充実と指導者の養成を図るため、青少年の健全育成に努めた。	<p>こども姉妹町視察研修は、姉妹町締結当初から継続している小学生の相互派遣事業であり、視察研修は令和5年度から相互派遣を再開し、交流の継続と両町の相互理解を図る機会を提供できた。</p> <p>夏期・冬期リーダー研修会については小学校高学年を対象として、秋山ハイキングについては小学校低学年を対象として継続実施しているほか、平成30年度から行っている中学生のリーダー研修会に令和6年度は高校生も加え、今後小学生リーダー研修会等における運営ボランティア育成につながることを期待されている。</p> <p>こどもも体験隊、熟年先生講座、国際交流のつどいは、さまざまな体験活動を通して豊かな情操や心身の健全育成、国際理解の促進を図るとともに、子どもたちの居場所づくりを提供するものであり、継続実施が必要である。熟年先生講座については、長期休業中に各学校で学習支援活動が行われていることもあり、参加人数は減少傾向にあるが、講師を担っている退職校長教頭との世代間交流の側面もあることから、開催方法や内容を検討しながら継続が必要である。</p> <p>北部3町ジュニアリーダーズキャンプは、土幌町、上土幌町と連携して実施している社会教育共同事業の一つで、他町の子どもたちとの交流や体験活動を通し、コミュニケーション能力を養い、思いやりの心を育む場となっていることから、今後も継続した取り組みとしていくことを確認している。</p> <p>はたちの集いについては、成年年齢が18歳に引き下げられたことにより名称を成人式から変更して、町と教育委員会の共催として開催し、あわせてオンラインによるライブ配信を継続して行っている。人生の大きな節目の年齢である20歳を祝い、主体的な参加と成人としての自覚を改めて促す機会として、今後も継続が必要である。</p>																																							
		青少年教育事業	<table border="1"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>こども姉妹町視察研修(岩手県軽米町)</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>夏期・冬期リーダー研修会</td> <td>44</td> </tr> <tr> <td>秋山ハイキング</td> <td>29</td> </tr> <tr> <td>中高生リーダー研修会</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>こどもも体験隊</td> <td>29</td> </tr> <tr> <td>熟年先生講座(夏期・冬期)</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>国際交流のつどい</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>北部3町ジュニアリーダーズキャンプ</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>はたちの集い</td> <td>395</td> </tr> </tbody> </table>		事業名	参加人数	こども姉妹町視察研修(岩手県軽米町)	19	夏期・冬期リーダー研修会	44	秋山ハイキング	29	中高生リーダー研修会	11	こどもも体験隊	29	熟年先生講座(夏期・冬期)	18	国際交流のつどい	15	北部3町ジュニアリーダーズキャンプ	12	はたちの集い	395																			
事業名	参加人数																																										
こども姉妹町視察研修(岩手県軽米町)	19																																										
夏期・冬期リーダー研修会	44																																										
秋山ハイキング	29																																										
中高生リーダー研修会	11																																										
こどもも体験隊	29																																										
熟年先生講座(夏期・冬期)	18																																										
国際交流のつどい	15																																										
北部3町ジュニアリーダーズキャンプ	12																																										
はたちの集い	395																																										
2	青少年対策	青少年教育の振興	団体活動を奨励し、体験学習の充実と指導者の養成を図るため、青少年の健全育成に努めた。	<p>こども姉妹町視察研修は、姉妹町締結当初から継続している小学生の相互派遣事業であり、視察研修は令和5年度から相互派遣を再開し、交流の継続と両町の相互理解を図る機会を提供できた。</p> <p>夏期・冬期リーダー研修会については小学校高学年を対象として、秋山ハイキングについては小学校低学年を対象として継続実施しているほか、平成30年度から行っている中学生のリーダー研修会に令和6年度は高校生も加え、今後小学生リーダー研修会等における運営ボランティア育成につながることを期待されている。</p> <p>こどもも体験隊、熟年先生講座、国際交流のつどいは、さまざまな体験活動を通して豊かな情操や心身の健全育成、国際理解の促進を図るとともに、子どもたちの居場所づくりを提供するものであり、継続実施が必要である。熟年先生講座については、長期休業中に各学校で学習支援活動が行われていることもあり、参加人数は減少傾向にあるが、講師を担っている退職校長教頭との世代間交流の側面もあることから、開催方法や内容を検討しながら継続が必要である。</p> <p>北部3町ジュニアリーダーズキャンプは、土幌町、上土幌町と連携して実施している社会教育共同事業の一つで、他町の子どもたちとの交流や体験活動を通し、コミュニケーション能力を養い、思いやりの心を育む場となっていることから、今後も継続した取り組みとしていくことを確認している。</p> <p>はたちの集いについては、成年年齢が18歳に引き下げられたことにより名称を成人式から変更して、町と教育委員会の共催として開催し、あわせてオンラインによるライブ配信を継続して行っている。人生の大きな節目の年齢である20歳を祝い、主体的な参加と成人としての自覚を改めて促す機会として、今後も継続が必要である。</p>																																							
		青少年対策	<p>放課後子ども教室を開設したほか、巡視指導活動や不審者情報の提供、悩み相談、広報活動及び関係機関との連携などにより青少年の健全育成を図った。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対策内容</th> <th>実施回数</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>放課後子ども教室の実施</td> <td>9回</td> <td>357人</td> </tr> <tr> <td>音更小</td> <td>10回</td> <td>643人</td> </tr> <tr> <td>下音更小</td> <td>8回</td> <td>93人</td> </tr> <tr> <td>駒場小</td> <td>10回</td> <td>587人</td> </tr> <tr> <td>柳町小</td> <td>9回</td> <td>295人</td> </tr> <tr> <td>緑陽台小</td> <td>10回</td> <td>633人</td> </tr> <tr> <td>鈴蘭小</td> <td>10回</td> <td>501人</td> </tr> <tr> <td>木野東小</td> <td>8回</td> <td>158人</td> </tr> <tr> <td>下土幌小</td> <td>7回</td> <td>59人</td> </tr> <tr> <td>西中音更小</td> <td>3回</td> <td>50人</td> </tr> <tr> <td>東土狩小</td> <td>2回</td> <td>16人</td> </tr> <tr> <td>東土幌小</td> <td>86回</td> <td>3,392人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		対策内容	実施回数	参加人数	放課後子ども教室の実施	9回	357人	音更小	10回	643人	下音更小	8回	93人	駒場小	10回	587人	柳町小	9回	295人	緑陽台小	10回	633人	鈴蘭小	10回	501人	木野東小	8回	158人	下土幌小	7回	59人	西中音更小	3回	50人	東土狩小	2回	16人	東土幌小	86回	3,392人
対策内容	実施回数	参加人数																																									
放課後子ども教室の実施	9回	357人																																									
音更小	10回	643人																																									
下音更小	8回	93人																																									
駒場小	10回	587人																																									
柳町小	9回	295人																																									
緑陽台小	10回	633人																																									
鈴蘭小	10回	501人																																									
木野東小	8回	158人																																									
下土幌小	7回	59人																																									
西中音更小	3回	50人																																									
東土狩小	2回	16人																																									
東土幌小	86回	3,392人																																									
合計																																											

項	目		成		果	教育委員会の点検・評価
	主要な	施策	巡視指導活動	延		
2	青少年	対策	巡視指導活動 有害環境の浄化活動 不審者等情報提供 広報活動 研修活動 学校・関係機関・団体との連携	延 延	601回 1,272人 20件 9回 10回 34回	巡視指導活動は、青少年の安全を守る活動として、町青少年指導員と各中学校区内に青少年対策地区指導員を配置し、巡視活動を実施した。 有害環境の浄化活動は、町内の遊戯施設に依頼し、施設内巡視や利用状況を聞き、青少年の行動を把握する機会となっている。 不審者等情報提供は、不審者等が発生した場合、小中学校と連携し、保育園や警察等の関係機関に情報の提供と注意喚起を行い、保護者や地域の防犯意識を高めることができた。 広報活動は、青少年たより「かけ橋」を発行し、不審者・防犯、自転車、ネットトラブルなどについて周知・啓発し、青少年の健全育成を図った。 研修活動は、管内市町村が集まる青少年関連の会議・研修会に参加し、最近の青少年の動向を知り、活動に反映させた。 学校・関係機関・団体との連携は、関係機関と情報交換等を行うとともに、春と冬に年2回、全16小中学校と音更高校を訪問し、青少年に関する情報提供や意見交換を行い、学校との連携強化に努めた。
3	成人	教育事業	学習の場と機会を提供し、計画的・継続的学習を進めるとともに、団体の自主的活動の助長に努めた。	事業名	(単位 人) 参加人数	各家庭教育学級は、幼児・小中学生の保護者の子育てで支援と資質向上を図るため、今後も継続が必要である。幼児家庭教育学級は、子育てにおける知識・能力を身に付ける学習の場を提供するとともに、受講生が安心して学習活動に取り組めるようポランテニアによる託児、土曜日の公開講座の実施など、参加しやすい環境整備を行い実施した。 女性ライフスクールは、自ら学ぶ、ともに学ぶこととの視点から学習の大切さを通して生活課題の解決や社会人としての資質向上を図るとともに幅広く学習機会を提供するために、年齢制限を撤廃したところ受講生の増加につながっている。 高齢者関係事業は、人生100年時代を迎える中、自己の能力を高め、生きがいをもつて充実した人生を送るために、誰もがいつでもどこでも自由に学習機会を選択して学ぶことができきる環境づくりを進め、高齢者の生きがいの創出と豊かな地域づくりへの参加促進を図るため、今後も継続が必要である。令和5年度から名称を高齢者からシニア学級・大学・大学院に改称し実施したほか、シニア学級については、音更・下音更・豊田の3学級で実施している。 「教育を考える日」記念フェスタは、「教育を考える日」の理念や趣旨、具体的な取組等を紹介することで、町民の教育への関心を高め、次代を担う子どもたちへの教育に関する取り組みを地域ぐるみで推進し、本町教育の充実と発展を図るために、実行委員会に交付金を交付して実施している。令和6年度は、5年ぶりにおとふけ給食試食を復活したほか、教育活動報告などを通じて教育への関心を高める機会を提供することができたと考えており、今後も同様の内容で継続していく。
			事業名	参加人数		
			家庭教育学級 (8学級)	1,057		
			幼児家庭教育学級 (ママとパパの講座)	15		
			幼児家庭教育学級 (ママとパパの講座) 公開講座	36		
			女性ライフスクール	50		
			シニア学級 (3学級)	200		
			シニア大学 (すずらんカレッジ：4学年)	16		
			シニア大学院 (すずらん大学院：2学年)	19		
			おとふけ「教育を考える日」記念フェスタ	450		

項	目		果	教育委員会の点検・評価
	主要な	施策		
4	生涯学習事業	生涯学習への認識を深めるとともに、町内高等教育機関等との連携による学習機会の提供を図った。	<p>生涯学習フェスティバル</p> <p>参加人数 2,126</p> <p>OOJCOオープンカレッジ (11講座、3事業) (音更町・帯広大谷短期大学共同生涯学習プログラム事業)</p> <p>参加人数 739</p> <p>OOJCOオープンカレッジ小学生講座 (4講座、1事業)</p> <p>参加人数 60</p> <p>高校開放講座 (9講座)</p> <p>参加人数 115</p> <p>(音更町・音更高等学校連携生涯学習プログラム事業)</p> <p>生涯学習まちづくりセミナー</p> <p>参加人数 42</p>	<p>生涯学習フェスティバルは、生涯学習を実践する各種団体による実行委員会形式で実施しており、2日間の日程で開催した。実践者が一堂に会し交流を深めるとともに、貴重な学習成果の発表の場でもあったことから、今後も開催時期や内容を検討しながら継続実施する。</p> <p>OOJCOオープンカレッジは帯広大谷短期大学と共同で、対面式とオンラインを活用して実施し、高校開放講座は、音更高校と共同で実施する学習講座であり、それぞれの教育機関等の教育力を活用した事業である。これは、地域の教育資源を積極的に活用する極めて有効な事業であり、今後も町民のニーズに対応し、継続性のある魅力的な講座 (学習機会) を提供することが必要である。</p> <p>生涯学習まちづくりセミナーは生涯学習によるまち (地域) づくり、人づくりをめざした事業 (学習講座) であり、令和6年度は音更高校のMA+CHプロジェクトの発表を行い、高校生と地元企業が共同開発した商品の試食提供や、共同開発に協力していただいた企業社長に講演をしてもらうなど、町民と地元企業、そして学校との地域をつながりができるといった事業となった。このような、生涯学習を通して町民参加と協働によるまちづくりを推進していくために有効な事業であり、今後も継続していくことが必要である。</p> <p>生涯学習講座は、継続実施している書道講座、木工教室のほか、食育・食文化プロジェクトによる、小学生クッキング講座や、郷土の食文化を伝える講座を実施した。各種講座は生きがいづくりや社会の変化に対応した講座を実施していく。</p> <p>町の史跡文化財などをバスでめぐる史跡巡りツアー及び地域の歴史や文化などに触れる貴重な学習機会となっており、今後は町民や文化などにも触れる機会を増やすことにより、町の歴史や文化の継承・発展に貢献するものとなることから、今後も町民も継続実施していく。</p> <p>また、音更ふるさと資料館キッズフェスタについては、多くの家族連れが来場し、資料館の魅力発信と施設利用促進につながる絶好の機会となった。</p> <p>今後も常設展示に加え、思い出の校歌アーカイブ事業や昔の写真収集保存事業を実施し、施設の利用促進を図るとともに、郷土の歴史文化を学ぶ機会を提供し、子どもから大人まで幅広く郷土愛を育む学習活動を推進する。</p>
	成	<p>生涯学習への認識を深めるとともに、町内高等教育機関等との連携による学習機会の提供を図った。</p>	<p>参加人数 236</p> <p>生涯学習講座 (11講座)</p> <p>参加人数 20</p> <p>史跡めぐりツアー (2回)</p> <p>参加人数 90</p> <p>資料館講座 (6回)</p> <p>参加人数 1,000</p> <p>音更ふるさと資料館キッズフェスタ</p> <p>参加人数 86</p> <p>出張講座 (4回)</p> <p>参加人数 公開済 16校</p> <p>みんなで歌おう思い出の校歌アーカイブ事業 (対象33校)</p>	<p>社会の変化に対応し心豊かに生きていくために、自己学習や世代間・地域間交流の促進を図った。</p>

項	目		成	果																																							
	主	策																																									
5	地域学校協働活動	地域学校協働活動は、学校を核とした地域づくりを目指し、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支える活動を行うもので、「ふるさとおとふけ学」と呼称されている。	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">分野</th> <th colspan="3">実施数</th> <th rowspan="2">合計</th> <th rowspan="2">主な内容</th> </tr> <tr> <th>小学校</th> <th>中学校</th> <th>音更高校</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ふるさと教育的分野</td> <td>513</td> <td>87</td> <td>13</td> <td>613</td> <td>自然科学 60、防災・危機対策 83、食育 68、産業経済 34、医療福祉 32、環境生活 59、伝統文化・芸術 153、国際理解 5、進路学習・職場見学 58、その他61</td> </tr> <tr> <td>(うちキャリア教育)</td> <td>19</td> <td>37</td> <td>2</td> <td>58</td> <td>職場体験学習協力登録者教92団体、うち中学校5校に62団体が受入れ、中学校内の職場学習会32、小学校の職場見学16、その他5</td> </tr> <tr> <td>政治教育的分野</td> <td>19</td> <td>6</td> <td>1</td> <td>26</td> <td>主権者教育(模擬選挙) 17、議会傍聴2、まちづくりブレゼン5、人権擁護教室2</td> </tr> <tr> <td>経済教育的分野</td> <td>21</td> <td>9</td> <td>3</td> <td>33</td> <td>消費者教育教室19、租税教室13、金融教室1</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>553</td> <td>102</td> <td>17</td> <td>672</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	分野	実施数			合計	主な内容	小学校	中学校	音更高校	ふるさと教育的分野	513	87	13	613	自然科学 60、防災・危機対策 83、食育 68、産業経済 34、医療福祉 32、環境生活 59、伝統文化・芸術 153、国際理解 5、進路学習・職場見学 58、その他61	(うちキャリア教育)	19	37	2	58	職場体験学習協力登録者教92団体、うち中学校5校に62団体が受入れ、中学校内の職場学習会32、小学校の職場見学16、その他5	政治教育的分野	19	6	1	26	主権者教育(模擬選挙) 17、議会傍聴2、まちづくりブレゼン5、人権擁護教室2	経済教育的分野	21	9	3	33	消費者教育教室19、租税教室13、金融教室1	合計	553	102	17	672		令和6年度地域学校協働活動外部講師登録者数 138団体 (うち複数登録24)
		分野			実施数					合計	主な内容																																
小学校	中学校		音更高校																																								
ふるさと教育的分野	513	87	13	613	自然科学 60、防災・危機対策 83、食育 68、産業経済 34、医療福祉 32、環境生活 59、伝統文化・芸術 153、国際理解 5、進路学習・職場見学 58、その他61																																						
(うちキャリア教育)	19	37	2	58	職場体験学習協力登録者教92団体、うち中学校5校に62団体が受入れ、中学校内の職場学習会32、小学校の職場見学16、その他5																																						
政治教育的分野	19	6	1	26	主権者教育(模擬選挙) 17、議会傍聴2、まちづくりブレゼン5、人権擁護教室2																																						
経済教育的分野	21	9	3	33	消費者教育教室19、租税教室13、金融教室1																																						
合計	553	102	17	672																																							
6	社会教育施設の整備	社会教育施設の整備を次のとおり実施した。	<p>(1) 地区公民館改修事業費 1,981,100円</p> <p>然別公民館屋根塗装改修アスベスト調査、然別公民館屋根塗装改修設計業務</p> <p>然別公民館パッケージ型消火設備1基</p> <p>(2) 生涯学習センター改修事業費 31,306,000円</p> <p>生涯学習センター照明器具改修工事、生涯学習センターエアーコン整備電気設備工事、生涯学習センターエアーコン整備機械設備工事</p> <p>(3) 集団研修施設改修事業 10,505,000円</p> <p>集団研修施設受変電設備改修工事</p> <p>(4) 伊福部昭音楽資料室の解説パネル増設 173,876円</p> <p>図書館分館エアーコン整備工事 22,561,679円</p>	<p>令和5年度の本格実施から2年目を迎え、学校側のニーズに少しでも応えられるよう、常に学校訪問を実施し、情報交換に努めた。また協力して下さる町内(公共施設は帯広市も含めて)の事業所にも赴いて引き続き協力要請をし、それを元に「地域学校協働活動外部講師リスト」を作成して、年2回各小中学校に配布している。</p> <p>この外部講師リストの活用により、教員の負担を大きく軽減しながら、専門性のある授業を行うことが可能となったほか、各学校での特色ある取組を学校間で共有することで、活動の広がりも見られるようになり、昨年度より45%増の活動実績となった。</p> <p>令和6年度は音更高校が「道立高校地学協働まちづくり推進プロジェクト(通称:北海道MA+CHプロジェクト)」の認定校に採択されたことから、新たに音更高校も活動に加わることとなった。</p> <p>また、コミュニティスクール(CS)からの要請により、主に情報モラル教室や開きイベント、薬物依存などの危機対策部門において、保護者も共に授業を参観するなど新しい動きもみられている。</p> <p>主権者教育(模擬選挙)や消費者教育教室などの社会参画分野については、成年年齢が18歳に引き下げられたことによる、様々な事象を想定しながら、町内全小中学校で行っているが、子どもたちが直接町長との対話や交流を通じてまちづくりへの提案を行うなど、シチズンシップ教育の充実が計られている。</p> <p>町内の中学校では毎年秋に「職場体験学習」を行っているが、受入れ企業、団体の照会や斡旋を行い、最後の人数調整のみ各中学校で行う形となっている。これは学校側の負担軽減だけでなく、生徒の職業選択の幅を広げる一助となっている。</p>																																							
				<p>教育委員会の点検・評価</p>																																							

項	目		成	果	教育委員会の点検・評価																				
	主要な	施策																							
7	文化・芸術事業	芸術鑑賞や発表の機会を提供するなど豊かな心を養うとともに、各文化団体や関係機関と協力、連携し、芸術文化の奨励と向上に努めた。	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">事業名</th> <th>参加人数 (単位 人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>芸術文化大会参加補助金 (全道団体11件、全道個人34件、全国個人44件、全国団体9件)</td> <td></td> <td>47</td> </tr> <tr> <td>中学生芸術鑑賞会</td> <td></td> <td>841</td> </tr> <tr> <td>小学生芸術鑑賞会</td> <td></td> <td>892</td> </tr> <tr> <td>文化祭</td> <td></td> <td>6,353</td> </tr> <tr> <td>芸術鑑賞事業(文化事業協会等との連携事業)11事業</td> <td></td> <td>4,524</td> </tr> <tr> <td>伊福部昭音楽セミナー</td> <td></td> <td>延べ 1,299</td> </tr> </tbody> </table>	事業名		参加人数 (単位 人)	芸術文化大会参加補助金 (全道団体11件、全道個人34件、全国個人44件、全国団体9件)		47	中学生芸術鑑賞会		841	小学生芸術鑑賞会		892	文化祭		6,353	芸術鑑賞事業(文化事業協会等との連携事業)11事業		4,524	伊福部昭音楽セミナー		延べ 1,299	<p>(芸術文化大会参加補助金) 芸術文化大会参加補助金は、芸術文化部門において優秀な成績を収めた者に対して補助しているもので、芸術文化の奨励と向上を図るため、今後も継続が必要である。</p> <p>(中学生芸術鑑賞会・小学生芸術鑑賞会) 中学生は例年どおり1、2年生を対象に実施した。小学生は令和5年度から対象学年を見直しており、5、6年生を対象に実施した。今後も情操教育の一環として、引き続き鑑賞機会を提供していく。</p> <p>(文化祭) 芸能発表や作品展示など、町民の日頃の活動成果を発表する場として、また、人々の交流の場を広げ、地域に根ざした芸術文化活動と人づくり・まちづくりを推進するため、今後も継続する必要がある。</p> <p>(芸術鑑賞事業) 文化事業協会と連携し、幼児・児童向けのファミリーミュージカルのほか、クラシックや歌謡曲のコンサートなど、各ジャンルで質の高い鑑賞事業を11事業実施した。町民に優れた芸術文化の鑑賞機会を提供するため、引き続き事業の充実を図る。</p> <p>(伊福部昭音楽セミナー) 伊福部昭氏の音楽を通じて全国から演奏家が集い、国内外で活躍する講師陣の実技指導と参加者全員によるコンサートなど、実行委員会と連携して開催した。令和6年度は伊福部氏が生誕110年の年になったことから、最終日に参加者全員が参加するコンサートを「伊福部昭生誕110年記念コンサート」として実施した。</p>
事業名		参加人数 (単位 人)																							
芸術文化大会参加補助金 (全道団体11件、全道個人34件、全国個人44件、全国団体9件)		47																							
中学生芸術鑑賞会		841																							
小学生芸術鑑賞会		892																							
文化祭		6,353																							
芸術鑑賞事業(文化事業協会等との連携事業)11事業		4,524																							
伊福部昭音楽セミナー		延べ 1,299																							
8	地域おこし協力隊の配置	ヴァイオリンの演奏活動を通じて、町民の音楽への関心と理解を深めた。	<p>地域おこし協力隊(芸術文化活動コーディネーター)報酬1名 2,221,008円 地域おこし協力隊活動費 1,165,345円</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">事業名</th> <th>参加人数 (単位 人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>初心者ヴァイオリン体験講座</td> <td>6回</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>ヴァイオリンふれあい体験</td> <td>2回</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>ヴァイオリンリサイタル</td> <td></td> <td>430</td> </tr> </tbody> </table>	事業名		参加人数 (単位 人)	初心者ヴァイオリン体験講座	6回	16	ヴァイオリンふれあい体験	2回	9	ヴァイオリンリサイタル		430	<p>(任用期間 令和6年4月1日～令和7年3月31日) 令和6年度は、任期の最終年度であり、令和5年度に引き続き各種音楽団体への実技指導による人材育成や小中学校及び保育施設等における訪問演奏のほか、屋外ステージコンサート、初心者ヴァイオリン体験講座など芸術文化の振興に資する活動に取り組んだ。</p>									
事業名		参加人数 (単位 人)																							
初心者ヴァイオリン体験講座	6回	16																							
ヴァイオリンふれあい体験	2回	9																							
ヴァイオリンリサイタル		430																							

項	目		成	果																																																												
	主要	施策																																																														
9	文化センター利用状況		<p>事業別</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>内容</th> <th>鑑賞会</th> <th>発表会</th> <th>研修会</th> <th>演奏会</th> <th>サークル活動</th> <th>講座</th> <th>その他</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人数</td> <td>57,851</td> <td>8,435</td> <td>5,341</td> <td>1,387</td> <td>14,202</td> <td>87,216</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>各部屋別</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>大ホール</th> <th>小ホール</th> <th>楽屋1～3</th> <th>音楽室</th> <th>会議室</th> <th>実習室</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人数</td> <td>31,416</td> <td>9,676</td> <td>1,353</td> <td>4,908</td> <td>3,447</td> <td>1,707</td> </tr> <tr> <td>%</td> <td>36.02%</td> <td>11.09%</td> <td>1.55%</td> <td>5.63%</td> <td>3.95%</td> <td>1.96%</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>展示室</th> <th>作法室</th> <th>研修室1</th> <th>研修室2</th> <th>研修室3</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人数</td> <td>3,540</td> <td>448</td> <td>537</td> <td>1,039</td> <td>1,913</td> <td>87,216</td> </tr> <tr> <td>%</td> <td>4.06%</td> <td>0.51%</td> <td>0.62%</td> <td>1.19%</td> <td>2.19%</td> <td>100.00%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※展示催し物広場等：27,232人（31.23%）</p>	内容	鑑賞会	発表会	研修会	演奏会	サークル活動	講座	その他	計	人数	57,851	8,435	5,341	1,387	14,202	87,216				大ホール	小ホール	楽屋1～3	音楽室	会議室	実習室	人数	31,416	9,676	1,353	4,908	3,447	1,707	%	36.02%	11.09%	1.55%	5.63%	3.95%	1.96%		展示室	作法室	研修室1	研修室2	研修室3	計	人数	3,540	448	537	1,039	1,913	87,216	%	4.06%	0.51%	0.62%	1.19%	2.19%	100.00%	<p>鑑賞会や発表会、講習会、各種サークル活動等に幅広く利用されており、住民の身近な施設としての役割を果たしている。今後、施設の適正な維持管理に努め、利用しやすい施設づくりを目指す。</p>
内容	鑑賞会	発表会	研修会	演奏会	サークル活動	講座	その他	計																																																								
人数	57,851	8,435	5,341	1,387	14,202	87,216																																																										
	大ホール	小ホール	楽屋1～3	音楽室	会議室	実習室																																																										
人数	31,416	9,676	1,353	4,908	3,447	1,707																																																										
%	36.02%	11.09%	1.55%	5.63%	3.95%	1.96%																																																										
	展示室	作法室	研修室1	研修室2	研修室3	計																																																										
人数	3,540	448	537	1,039	1,913	87,216																																																										
%	4.06%	0.51%	0.62%	1.19%	2.19%	100.00%																																																										
10	文化センターの長寿命事業手法検討		<p>施設の長寿命化を図るため、次のとおり実施した。 長寿命事業手法検討業務 4,400,000円</p>	<p>建設からまもなく40年を迎えるなかで、施設の長寿命化を図るために現状を把握し、将来的な改修に向けた整備手法などについて、検討を行った。</p>																																																												
11	図書、視聴覚の振興		<p>(1) 図書館の利用状況</p> <p>① 図書の貸出状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>貸出冊数</th> <th>貸出人数</th> <th>貸出件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>図書館</td> <td>175,021</td> <td>41,543人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>分館</td> <td>16,836</td> <td>4,968人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>団体</td> <td>39,986</td> <td>1,125件</td> <td></td> </tr> <tr> <td>市町村連携貸出</td> <td>501</td> <td>294件</td> <td></td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>232,344</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>② 視聴覚教材の貸出状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>貸出件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教材（ビデオ・DVD・CD）</td> <td>2,731</td> </tr> </tbody> </table> <p>③ 入館者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>入館者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>図書館</td> <td>80,073</td> </tr> <tr> <td>分館</td> <td>10,273</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>90,346</td> </tr> </tbody> </table>	区分	貸出冊数	貸出人数	貸出件数	図書館	175,021	41,543人		分館	16,836	4,968人		団体	39,986	1,125件		市町村連携貸出	501	294件		計	232,344			区分	貸出件数	教材（ビデオ・DVD・CD）	2,731		入館者数	図書館	80,073	分館	10,273	計	90,346	<p>令和6年度は、前年度と比較すると図書の貸出冊数が0.3%減となったものの、貸出人数は1.9%増、入館者数は6.1%増となっている。新型コロナウイルス感染症発生前（平成30年度）と比較すると貸出冊数は12.5%減、貸出人数は12.6%減、入館者数は13.3%減となっている。</p> <p>電子図書館の利用を含めた場合には、前年度比で貸出冊数は1.4%増、貸出人数は7.9%増となったが、新型コロナウイルス感染症発生前との比較では貸出冊数は6.0%減、貸出人数は7.4%増となっている。</p> <p>また、子どもの利用状況については、貸出冊数が新型コロナウイルス発生前と比較して24.2%減となっているが、電子図書館の利用を含めると1.4%増となっている。</p> <p>利用状況は、電子図書館を含めても新型コロナウイルス発生前に達していない部分があるが、令和4年度以降、回復傾向にあることから、広報やホームページ、SNSなどにより効果的に情報を発信しながら、今後も町民が図書館に足を運んでいただけるような事業を展開するとともに、学校図書と連携し、電子図書館を効果的に活用する必要がある。</p>																								
区分	貸出冊数	貸出人数	貸出件数																																																													
図書館	175,021	41,543人																																																														
分館	16,836	4,968人																																																														
団体	39,986	1,125件																																																														
市町村連携貸出	501	294件																																																														
計	232,344																																																															
区分	貸出件数																																																															
教材（ビデオ・DVD・CD）	2,731																																																															
	入館者数																																																															
図書館	80,073																																																															
分館	10,273																																																															
計	90,346																																																															

項	目		成				果	
	主	な	施		策			
11	図書、視聴覚の振興		④図書館の蔵書冊数等 (単位 冊)					
			令和6年度	図書等	受入数	除籍冊数	蔵書冊数	
			購入	寄贈	計			
			4,126	1,120	5,246	4,195	219,770	
			⑤電子図書館					
			貸出冊数		17,420冊			
			貸出人数		10,992人			
			電子書籍総数		13,516冊			
			(2) 図書館事業の実施状況					
			事業名		参加人数等			
			読書感想文コンクール		30人			
			図書交換会		192人			
			古本市		122人			
			古雑誌市		170人			
			こども映画会		211人			
			図書館ビデオ上映会		117人			
			人生を豊かにする講座(2講座)		49人			
			図書館deドキドキワクワクワク 体験講座(2講座)		32人			
			デジタル絵本づくり ワークショップ		15人			
			エッセイ教室		13人			
			絵本作家講演会		53人			
			ロビーコンサート		183人			
			文庫設置	小学校11校・学童保育所10カ所 ふれあい教室2カ所・へき地保育所6カ所				
			ブックスタート		223組			
			ブックスタートプラス		262組			
			リーディングスタター		308組			
			教育委員会の点検・評価					
			多くの事業で例年を上回る参加状況となり、入館者数の増につながったものと考えられる。今後も幼児から高齢者まで多くの町民が参加できる事業を展開していく必要がある。 ブックスタート事業については、参加者からのアンケート結果によると、事業をきっかけに絵本を手取るようになつた家庭が多いことが分かっており、子どもの読書推進に効果的な事業のため、継続して実施していく必要がある。 また、電子図書館については、昔更の歴史についての理解を深め、郷土を愛する心を育むため、昔更町史や郷土史絵本の提供を開始したほか、デジタル絵本作りワークショップで参加者が制作した絵本を登録して提供するなど、電子図書館内の郷土資料のアーカイブ化を図っている。					

項 目	成 果		教育委員会の点検・評価																																																																																
	主 要 な 施 策	果																																																																																	
(3) 社会体育の振興																																																																																			
1 体力づくり、健康づくりの振興	<p>楽しく継続的に体力づくりを実践する態度を育て、健康の維持増進に努めた。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>参加人数 (単位 人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○スポーツライフ</td> <td>82</td> </tr> <tr> <td>・ 幼児たいそう教室 (幼児教育)</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>・ チャレンジスポーツ教室 (少年教育)</td> <td>75</td> </tr> <tr> <td>・ いまいき女性軽スポーツ教室 (成人教育)</td> <td>38</td> </tr> <tr> <td>・ 40歳～64歳までの軽スポーツ教室 (成人教育)</td> <td>49</td> </tr> <tr> <td>・ シニアスポーツ学級 (成人教育)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○スポーツ教室</td> <td>470</td> </tr> <tr> <td>・ こども体操教室</td> <td>1,133</td> </tr> <tr> <td>・ こどもHIPHOP教室</td> <td>602</td> </tr> <tr> <td>・ こどもトランポリン教室</td> <td>195</td> </tr> <tr> <td>・ 短期子供体操教室</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>・ ジュニアアトランポリン教室</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td>・ 初心者スケート教室</td> <td>598</td> </tr> <tr> <td>・ こども水泳教室</td> <td>14,827</td> </tr> <tr> <td>・ 大人水泳教室</td> <td>314</td> </tr> <tr> <td>・ 短期こども水泳教室</td> <td>189</td> </tr> <tr> <td>・ ひまわりの特訓</td> <td>193</td> </tr> <tr> <td>・ ステップアップ教室</td> <td>1,130</td> </tr> <tr> <td>・ ジュニアステップアップ水泳教室</td> <td>260</td> </tr> <tr> <td>・ トップステップアップ水泳教室</td> <td>161</td> </tr> <tr> <td>・ ベビースイミング教室</td> <td>439</td> </tr> <tr> <td>・ 個人レッスン (大人水泳)</td> <td>65</td> </tr> <tr> <td>・ ちやつぽん水泳教室</td> <td>494</td> </tr> <tr> <td>・ プライベートレッスン</td> <td>385</td> </tr> <tr> <td>・ ジュニアプラス教室</td> <td>48</td> </tr> <tr> <td>・ 北海道日本ハムファイターズ野球教室inおとふけ</td> <td>54</td> </tr> <tr> <td>・ 北海道日本ハムファイターズ野球体験イベント</td> <td>42</td> </tr> <tr> <td>・ スポーツセミナー硬式テニス教室</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○体力づくり教室</td> <td>3,126</td> </tr> <tr> <td>・ エアロビクス</td> <td>14,919</td> </tr> <tr> <td>・ レッスンプログラム</td> <td>10,712</td> </tr> <tr> <td>・ 水中運動</td> <td>1,016</td> </tr> <tr> <td>・ 軽運動教室</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○スポーツ大会</td> <td>216</td> </tr> <tr> <td>・ すずらん駅伝小学生大会兼健康マラソン大会</td> <td>113</td> </tr> <tr> <td>・ 町民スケート大会</td> <td>932</td> </tr> <tr> <td>・ 町民体育祭 (弓道、軟式野球、卓球、ソフトボール、バレーボール、フットサル、バドミントン、ソフトテニス、柔道、剣道)</td> <td>634</td> </tr> <tr> <td>・ 秋のスポーツ大会 (軟式野球、卓球、ソフトボール、バレーボール、バドミントン、柔道)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 冬季スポーツ大会 (アイススケート、卓球、ソフトテニス)</td> <td>314</td> </tr> </tbody> </table>	事業名	参加人数 (単位 人)	○スポーツライフ	82	・ 幼児たいそう教室 (幼児教育)	13	・ チャレンジスポーツ教室 (少年教育)	75	・ いまいき女性軽スポーツ教室 (成人教育)	38	・ 40歳～64歳までの軽スポーツ教室 (成人教育)	49	・ シニアスポーツ学級 (成人教育)		○スポーツ教室	470	・ こども体操教室	1,133	・ こどもHIPHOP教室	602	・ こどもトランポリン教室	195	・ 短期子供体操教室	9	・ ジュニアアトランポリン教室	24	・ 初心者スケート教室	598	・ こども水泳教室	14,827	・ 大人水泳教室	314	・ 短期こども水泳教室	189	・ ひまわりの特訓	193	・ ステップアップ教室	1,130	・ ジュニアステップアップ水泳教室	260	・ トップステップアップ水泳教室	161	・ ベビースイミング教室	439	・ 個人レッスン (大人水泳)	65	・ ちやつぽん水泳教室	494	・ プライベートレッスン	385	・ ジュニアプラス教室	48	・ 北海道日本ハムファイターズ野球教室inおとふけ	54	・ 北海道日本ハムファイターズ野球体験イベント	42	・ スポーツセミナー硬式テニス教室		○体力づくり教室	3,126	・ エアロビクス	14,919	・ レッスンプログラム	10,712	・ 水中運動	1,016	・ 軽運動教室		○スポーツ大会	216	・ すずらん駅伝小学生大会兼健康マラソン大会	113	・ 町民スケート大会	932	・ 町民体育祭 (弓道、軟式野球、卓球、ソフトボール、バレーボール、フットサル、バドミントン、ソフトテニス、柔道、剣道)	634	・ 秋のスポーツ大会 (軟式野球、卓球、ソフトボール、バレーボール、バドミントン、柔道)		・ 冬季スポーツ大会 (アイススケート、卓球、ソフトテニス)	314	<p>楽しく継続的に体力づくりを実践する態度を育て、健康の維持増進に努めた。</p>	<p>(スポーツライフ) 総合体育館と温水プールでは、幼児から高齢者まで幅広い年代の方々に運動やスポーツに親しむ機会を提供するため、各種事業を継続的に開催している。 スポーツライフでは、中・長期の教室等を実施しており、各教室の参加者同士が交流する場ともなっており、今後も継続が必要と考える。</p> <p>(スポーツ教室) 総合体育館や温水プールで行うスポーツ教室は、教育委員会が管理していた当時から実施しているものと、指定管理者が実施しているものがあるが、今後も住民のニーズを把握しながら、継続していくことが必要と考える。 また、令和6年度は北海道日本ハムファイターズの子どもを対象とした野球教室を行った。 スポーツ協会との共催により毎年実施しているスポーツセミナーについては、プロテニスプレーヤーなどを招いた硬式テニス教室を行った。</p> <p>(体力づくり教室) エアロビクスや水中運動など、各年代や体力に応じたプログラムを実施している。民間のノウハウを生かした大人のためのスタジオプログラムは、毎年度多くの人に参加している。今後も住民のニーズを把握しながら、プログラムを工夫していくことが必要である。</p> <p>(スポーツ大会) スポーツ協会とその加盟団体は、教育委員会と共催又は独自に町民大会などの「各種大会」を開催することで、日頃の練習成果を発揮し合い、参加者同士の交流と親睦を深めることができる機会の充実に努めており、今後も継続が必要である。</p>
事業名	参加人数 (単位 人)																																																																																		
○スポーツライフ	82																																																																																		
・ 幼児たいそう教室 (幼児教育)	13																																																																																		
・ チャレンジスポーツ教室 (少年教育)	75																																																																																		
・ いまいき女性軽スポーツ教室 (成人教育)	38																																																																																		
・ 40歳～64歳までの軽スポーツ教室 (成人教育)	49																																																																																		
・ シニアスポーツ学級 (成人教育)																																																																																			
○スポーツ教室	470																																																																																		
・ こども体操教室	1,133																																																																																		
・ こどもHIPHOP教室	602																																																																																		
・ こどもトランポリン教室	195																																																																																		
・ 短期子供体操教室	9																																																																																		
・ ジュニアアトランポリン教室	24																																																																																		
・ 初心者スケート教室	598																																																																																		
・ こども水泳教室	14,827																																																																																		
・ 大人水泳教室	314																																																																																		
・ 短期こども水泳教室	189																																																																																		
・ ひまわりの特訓	193																																																																																		
・ ステップアップ教室	1,130																																																																																		
・ ジュニアステップアップ水泳教室	260																																																																																		
・ トップステップアップ水泳教室	161																																																																																		
・ ベビースイミング教室	439																																																																																		
・ 個人レッスン (大人水泳)	65																																																																																		
・ ちやつぽん水泳教室	494																																																																																		
・ プライベートレッスン	385																																																																																		
・ ジュニアプラス教室	48																																																																																		
・ 北海道日本ハムファイターズ野球教室inおとふけ	54																																																																																		
・ 北海道日本ハムファイターズ野球体験イベント	42																																																																																		
・ スポーツセミナー硬式テニス教室																																																																																			
○体力づくり教室	3,126																																																																																		
・ エアロビクス	14,919																																																																																		
・ レッスンプログラム	10,712																																																																																		
・ 水中運動	1,016																																																																																		
・ 軽運動教室																																																																																			
○スポーツ大会	216																																																																																		
・ すずらん駅伝小学生大会兼健康マラソン大会	113																																																																																		
・ 町民スケート大会	932																																																																																		
・ 町民体育祭 (弓道、軟式野球、卓球、ソフトボール、バレーボール、フットサル、バドミントン、ソフトテニス、柔道、剣道)	634																																																																																		
・ 秋のスポーツ大会 (軟式野球、卓球、ソフトボール、バレーボール、バドミントン、柔道)																																																																																			
・ 冬季スポーツ大会 (アイススケート、卓球、ソフトテニス)	314																																																																																		

項	目		成	果	教育委員会の点検・評価																		
	主	策																					
2	指導者、リーダーの養成		<p>スポーツ指導者及びリーダーを養成するため次のとおり実施した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>(単位)</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・スポーツ少年団リーダー研修会</td> <td>人</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>・スポーツ指導者研修会</td> <td>人</td> <td>36</td> </tr> </tbody> </table>	事業名	(単位)	参加人数	・スポーツ少年団リーダー研修会	人	17	・スポーツ指導者研修会	人	36	<p>(スポーツ少年団リーダー研修会) 所属のスポーツ少年団リーダーとして活動するための自覚と資質の向上を図るとともに、団相互の交流を深めることを目的としており、今後も継続が必要である。</p> <p>(スポーツ指導者研修会) スポーツ活動の中核となるべき指導者を養成することは極めて重要であることから、今後も研鑽する場を提供することが必要である。</p>										
事業名	(単位)	参加人数																					
・スポーツ少年団リーダー研修会	人	17																					
・スポーツ指導者研修会	人	36																					
3	奨励及び顕彰		<p>スポーツの奨励と向上を図るため次のとおり実施した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>(単位)</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・スポーツ大会参加補助 (全国 26件)</td> <td>人</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>(全道 73件)</td> <td></td> <td>293</td> </tr> <tr> <td>・スポーツ賞等表彰 (個人)</td> <td></td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>(4団体)</td> <td></td> <td>44</td> </tr> </tbody> </table>	事業名	(単位)	人数	・スポーツ大会参加補助 (全国 26件)	人	60	(全道 73件)		293	・スポーツ賞等表彰 (個人)		26	(4団体)		44	<p>(スポーツ大会参加補助) 全道・全国大会規模のスポーツ競技大会への参加者に対して参加経費の一部を補助している。スポーツ振興のため今後も継続することが必要である。</p> <p>(スポーツ賞等表彰) スポーツ賞等は、スポーツ基本法に基づき、毎年スポーツ分野において優秀な成績を収め、又はスポーツ推進に功績のあった個人又は団体を表彰している。</p>				
事業名	(単位)	人数																					
・スポーツ大会参加補助 (全国 26件)	人	60																					
(全道 73件)		293																					
・スポーツ賞等表彰 (個人)		26																					
(4団体)		44																					
4	スカイアース連携事業		<p>交流イベントと体育授業サポート事業を実施した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>(単位)</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・スカイアースサッカーフェスティバル in おとふけ</td> <td>人</td> <td>27</td> </tr> <tr> <td>・体育授業サポート事業 (講師派遣5人)</td> <td></td> <td>630</td> </tr> </tbody> </table>	事業名	(単位)	参加人数	・スカイアースサッカーフェスティバル in おとふけ	人	27	・体育授業サポート事業 (講師派遣5人)		630	<p>青更町と北海道十勝スカイアーススポーツ(株)が「スポーツを通じた地域づくり」の実現に向けて包括的な連携協定を締結したことに伴い、町内のサッカー少年団を対象とした交流イベントの開催や、講師依頼のあった小中学校の体育の授業をサポートした。</p>										
事業名	(単位)	参加人数																					
・スカイアースサッカーフェスティバル in おとふけ	人	27																					
・体育授業サポート事業 (講師派遣5人)		630																					
5	地域おこし協力隊の配置		<p>地域おこし協力隊 (スポーツコミュニケーション) 報酬 1名 2,311,392円 地域おこし協力隊活動費 613,595円</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>(単位)</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ライフキネティック講座</td> <td>人</td> <td>44</td> </tr> <tr> <td>・サッカー教室</td> <td></td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>・フットサル大会</td> <td></td> <td>37</td> </tr> </tbody> </table>	事業名	(単位)	参加人数	・ライフキネティック講座	人	44	・サッカー教室		21	・フットサル大会		37	<p>(任用期間令和6年4月1日～令和7年3月31日) 地域のスポーツを推進し、町の活性化、魅力の向上など地域力の創造、地方の再生を目的とし、スポーツを通じての地域おこしを行っている。令和6年度は任期の最終年度であり、ライフキネティック講座やサッカー教室、フットサル大会などのほか、令和5年度に引き続き、中学校サッカー部訪問指導、幼児運動教室を実施した。</p>							
事業名	(単位)	参加人数																					
・ライフキネティック講座	人	44																					
・サッカー教室		21																					
・フットサル大会		37																					
6	施設の利用状況		<p>(1) 屋内体育施設</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">施設名</th> <th colspan="3">(単位) 人、(件)</th> </tr> <tr> <th>個人利用人数</th> <th>団体利用人数</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合体育館</td> <td>57,325</td> <td>4,290</td> <td>132,375</td> </tr> <tr> <td>武道館</td> <td>3,472</td> <td>841</td> <td>33,226</td> </tr> <tr> <td>温水プール</td> <td>62,925</td> <td>196</td> <td>66,575</td> </tr> </tbody> </table>	施設名	(単位) 人、(件)			個人利用人数	団体利用人数	計	総合体育館	57,325	4,290	132,375	武道館	3,472	841	33,226	温水プール	62,925	196	66,575	<p>(屋内体育施設) 競技スポーツや生涯スポーツの場として、大会や少年団・サークル活動等で利用されている。</p>
施設名	(単位) 人、(件)																						
	個人利用人数	団体利用人数	計																				
総合体育館	57,325	4,290	132,375																				
武道館	3,472	841	33,226																				
温水プール	62,925	196	66,575																				

項 目 主 要 な 施 策	成 果	教育委員会の点検・評価																																																									
<p>6 施設の利用状況</p>	<p>(2) 軽スポーツセンター</p> <table border="1" data-bbox="260 1176 384 1711"> <thead> <tr> <th colspan="3">(単位 人、件)</th> </tr> <tr> <th>施設名</th> <th>件数</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鈴蘭軽スポーツセンター</td> <td>859</td> <td>9,479</td> </tr> <tr> <td>宝来軽スポーツセンター</td> <td>825</td> <td>9,036</td> </tr> </tbody> </table> <p>(3) 運動公園等</p> <table border="1" data-bbox="451 1238 783 1711"> <thead> <tr> <th colspan="3">(単位 人)</th> </tr> <tr> <th>施設名</th> <th>人数</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>希望が丘野球場</td> <td>4,074</td> <td>(中央公園)</td> </tr> <tr> <td>ソフトボール場(1か所、2面)</td> <td>7,045</td> <td>(音更町サッカー場)</td> </tr> <tr> <td>サッカー場(1か所、2面)</td> <td>32,944</td> <td>(希望が丘、緑陽台)</td> </tr> <tr> <td>テニスコート(2か所、8面)</td> <td>7,487</td> <td></td> </tr> <tr> <td>アイスホッケー場</td> <td>3,846</td> <td></td> </tr> <tr> <td>カーリニング場</td> <td>170</td> <td></td> </tr> <tr> <td>パークゴルフ場(5コース)</td> <td>42,047</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(うち団体利用)</td> <td>(8,905)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(4) 学校開放事業</p> <table border="1" data-bbox="850 882 935 1711"> <thead> <tr> <th colspan="3">(単位 人)</th> </tr> <tr> <th>種目</th> <th>指定開放校(11校)</th> <th>地域開放校(6校)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>62,695</td> <td>7,117</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>計</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>69,812</td> </tr> </tbody> </table>	(単位 人、件)			施設名	件数	人数	鈴蘭軽スポーツセンター	859	9,479	宝来軽スポーツセンター	825	9,036	(単位 人)			施設名	人数		希望が丘野球場	4,074	(中央公園)	ソフトボール場(1か所、2面)	7,045	(音更町サッカー場)	サッカー場(1か所、2面)	32,944	(希望が丘、緑陽台)	テニスコート(2か所、8面)	7,487		アイスホッケー場	3,846		カーリニング場	170		パークゴルフ場(5コース)	42,047		(うち団体利用)	(8,905)		(単位 人)			種目	指定開放校(11校)	地域開放校(6校)		62,695	7,117			計			69,812	<p>(軽スポーツセンター) 鈴蘭、宝来の両軽スポーツセンターともに、町民の身近な施設として、サークル活動等に活発に活用されている。</p> <p>(運動公園等) 希望が丘運動公園等の屋外体育施設は、競技スポーツや生涯スポーツの場として、多くの大会や少年団・サークル活動等で利用されている。</p> <p>(学校開放事業) 学校開放事業は、スポーツ活動の場として小・中学校の体育館等の施設を開放している。種目指定校は、市街地の小・中学校とし、少年団・社会人等の団体等が利用している。地域指定校は、郡部の小学校とし、地域の少年団や団体が利用している。今後も社会体育の普及のため継続したい。</p>
(単位 人、件)																																																											
施設名	件数	人数																																																									
鈴蘭軽スポーツセンター	859	9,479																																																									
宝来軽スポーツセンター	825	9,036																																																									
(単位 人)																																																											
施設名	人数																																																										
希望が丘野球場	4,074	(中央公園)																																																									
ソフトボール場(1か所、2面)	7,045	(音更町サッカー場)																																																									
サッカー場(1か所、2面)	32,944	(希望が丘、緑陽台)																																																									
テニスコート(2か所、8面)	7,487																																																										
アイスホッケー場	3,846																																																										
カーリニング場	170																																																										
パークゴルフ場(5コース)	42,047																																																										
(うち団体利用)	(8,905)																																																										
(単位 人)																																																											
種目	指定開放校(11校)	地域開放校(6校)																																																									
	62,695	7,117																																																									
		計																																																									
		69,812																																																									
<p>7 指定管理者制度の導入</p>	<p>次の社会体育施設について、指定管理者制度を導入している。</p> <p>(1) 温水プール 平成18年度～ (2) 総合体育館・武道館 平成19年度～</p>	<p>指定管理者制度は、施設の効率的・効果的な運営を図るとともに、利用者に対してより良いサービスの提供に努めるものとして導入している。</p> <p>民間事業者のノウハウを活用して、町民の心身の健全な発達とスポーツの普及振興に寄与しており、今後も事業の充実に期待するものである。</p>																																																									

#### 4 昨年度の学識経験者からの主な意見と対応状況

意見	対応状況
<p>【総合的な評価】</p> <p>音更町教育大綱「生きる力、支える力を育むまち」の理念に基づき、「子どもの教育」と「生涯学習」の2本柱のもと、教育資源を有効に活用しながら、継続的かつ安定的な教育行政が進められている点は評価に値する。</p> <p>【教育委員会の活動状況】</p> <p>教育委員会会議の開催にあたっては、事務局が議案・資料の事前説明を行い、委員が付議案件以外についても自由に意見を述べられる場を設けるなど、議論が活性化する工夫がなされている。</p> <p>教育委員による学校訪問も、学校の実情や教育活動の成果・課題を把握し、運営支援につながる重要な取組である。特に、毎年テーマを設定して行うことで、教育委員会と学校が課題を共有する有効な手立てとなっている。</p> <p>町民への情報提供については、ホームページを通じて学校教育、給食、ICT教育、教育支援、教育行政など、教育委員会の取組を丁寧に発信している。</p> <p>今後は情報の更新頻度と内容の充実に努めるとともに、SNSなどを活用した多様な情報発信手段の強化が求められる。</p> <p>2 重点的な評価 (確かな学力の向上)</p> <p>「生きる力」の基盤となる確かな学力の向上に向けては、全国学力・学習状況調査などを活用し、学習指導の改善に資するデータが提供されている。加えて、町費負担教諭や学習支援員を配置し、きめ細かな個別指導の体制が整えられている。</p> <p>また、「家庭学習のすすめ」の改訂や、タブレット端末を活用した学習支援アプリの導入も家庭と連携した学力向上策として有効であり、各学校で学力調査結果を基に学校改善プランを策定し、組織的に授業改善やICT活用を進めている点</p>	<p>町民一人ひとりが時代の変化を前向きに受け止め、幸せや豊かさを実感しながら暮らしていけるよう、「子どもの教育」と「生涯学習」を2本の柱とし、すべての世代が学び続けることができる教育環境の整備に努めていく。</p> <p>教育委員会会議では、教育行政に関する多様な課題を幅広く取り上げ、活発な意見交換を通じて議論を深めている。</p> <p>学校訪問では、「安心して学べる学校づくりに向けた取組」をテーマとし、子どもたちの身体的・心理的安全性を保障する取組と課題について把握に努めた。</p> <p>各学校では、いじめ事案への早期対応や不登校児童生徒への支援に加え、授業改革や地域との連携強化などを通じた学校の魅力向上に向けた取組についても意見交換を行った。</p> <p>町民への情報発信手段については、広報やホームページなどの既存媒体に加え、公式LINE等のSNSも活用し、幅広い世代への情報共有を図っている。</p> <p>学習内容の確実な定着を図るため、ICTを効果的に活用した授業改革に引き続き取り組んでいる。</p> <p>学校における授業改善については、令和5年度に小学校に導入した学習支援アプリをはじめ、一人一台のタブレット端末を効果的に活用した授業を実践している。また、「新しいかたちの学びの授業力向上推進事業」の加配教員による授業公開を実施するなど、町内全体への事業成果の普及に</p>

意 見	対 応 状 況
<p>も評価できる。</p> <p>ただし、令和5年度の全国調査では、小学6年生の国語・算数が3年連続で全国・全道平均を下回り、その差も広がっている。中学3年生も国語・数学が前年までの安定傾向から一転して平均を下回り、英語も同様に下回る結果となったことから、さらなる対策が必要である。各学校の学校改善プランは学力向上の要となるものであり、短期的及び中長期的な視点で策定・実施し、継続的な検証と改善が求められる。</p> <p>また、町教育研究所による授業交流の機会は、教員の授業力向上に効果的であるととともに、研究所の分析報告は、各教科の具体的な改善ポイントが示されており、実践的で参考になる内容であることから、こうした知見を各学校が有効に活用し、授業改善につなげていくことが重要である。</p> <p>(健やかな体の育成)</p> <p>体力は、子どもたちが生涯にわたり心身ともに健やかな人生を送る基盤である。身体能力の基礎は学童期から青年期にかけて培われることから、学校教育の中でその発達・成長を支えていくことが重要である。</p> <p>町では、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果を分析し、体力向上「運動プログラム」の実施や「おとぶけ給食」の提供など、食育の観点からも子どもたちの体力向上に努めている。</p> <p>調査の結果、小学5年生では男女ともに握力、反復横とび、立ち幅とび、ソフトボール投げで全国平均を上回った一方、体力合計点は全国・全道平均を下回っており、特に柔軟性、全身持久力、走力に課題が見られた。中学2年生でも男女ともに体力合計点は全国・全道平均を下回っており、男子は柔軟性と瞬発力、女子は筋力、柔軟性、敏捷性、瞬発力に課題があることに加え、女子においては運動の楽しさや体力向上への意識が低い傾向がある。</p> <p>これらを踏まえ、課題種目への対策を明確にし、年間指導計画の改善によって、実効性のある</p>	<p>努めている。</p> <p>さらに、子ども一人ひとりに必要な資質・能力を効果的に育成するため、学力調査などの客観的データに基づいた検証改善サイクルの確立を図っている。</p> <p>そのほか、町教育研究所では、学習支援アプリを活用した授業公開や授業者と参加者の座談会を企画実施するなど、教員の授業力向上に貢献している。</p> <p>全ての子どもが多様な個性を最大限に生かし、生涯にわたる学習や生活の基盤をつくるため、幼児期の教育と小学校教育とをつなぐ「音更町架け橋プログラム」に着手した。幼児教育施設や小学校への参観、職員の交流会を実施するなど、幼小接続・連携の推進を図っている。</p> <p>全国体力・運動能力、運動習慣等調査の分析結果に基づき、学校全体の体力づくりを年間指導計画に沿って継続的に推進している。</p> <p>児童生徒の体力向上に向けて、各学校では、新体力テストを年間指導計画に複数回位置付けるなどし、検証改善サイクルの確立を図っている。</p> <p>また、小学校では、北海道十勝スカイアースの選手を招いて体力テストを実施したり、体育エキスパート教員のモデル授業を参観し、その指導法を実践するなど、児童の体力向上に対するモチベーションを高める工夫をしている。</p> <p>中学校では、体力テストを小学校と合同で実施し、中学生が小学生に教えたり見本を見せることで自らの意欲向上につながる取組を実施しているほか、「おとぶけ給食」のメニュー考案に取り組むなど、食育の充実を図っている。</p> <p>町教育研究所では、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果分析のほか、児童生徒の運動意欲喚起を意識した運動環境の整備と指導のためのヒントを引き続き提示するなど、各学校における実践の普及を図っている。</p>

意 見	対 応 状 況
<p>効果的な体力向上策に組織的に取り組むことが必要である。町教育研究所が発行した「指導のヒント」には、授業で使える具体例や動画も盛り込まれており、活用が期待される。</p> <p>(豊かな心の育成)</p> <p>いじめや不登校は全国・全道ともに増加傾向にあり、教育現場の大きな課題となっている。音更町においても令和5年度は前年度に比較すると増加傾向にあり、今後の推移を注視しながら未然防止に向けた対応を早急に強化していくことが重要である。</p> <p>町ではハイパーQ Uアンケート調査の実施により、学校生活における児童生徒の満足感や学級集団の状態把握に努めるとともに、専門性の高い心の教室相談員やスクールカウンセラーの配置による相談体制の強化や、保護者や教職員等を対象とした不登校学習会などを通じ児童生徒以外に対しても支援する体制が整えられている。</p> <p>また、教育支援センターについても、不登校児童生徒の学習や生活をサポートするため、指導内容の一層の充実に期待するところである。</p> <p>いじめに関しては、「いじめ問題等対策委員会」による調査が詳細に分析されており、令和5年4月以降に児童生徒が感じた嫌な思いが翌年3月時点で教育相談により全て解消されたことが報告されている。これは学校現場の真摯な取組の成果である。</p> <p>しかし、嫌な思いについて「誰にも相談しない」と答える児童生徒が少なからず存在することは憂慮すべき点である。こうした子どもたちへの支援手段として、「子ども相談支援センター電話相談紹介カード」や「おなやみポスト」の活用があるが、認知度には差があり、カードの名称を低学年にも覚えやすい愛称の変更するなど、さらなる周知に努めていただきたい。</p> <p>不登校に関しては、様々な背景があり原因を特定することは難しいが、今後の増加も懸念される中、現状や支援策を分析し、教育支援センターや</p>	<p>令和6年10月から11月にかけて実施した「いじめに関するアンケート調査」では、小学生2,157人、中学生1,208人が回答し、「嫌な思いをしたことがある」と回答した小学生が428人(19.8%)、中学生が64人(5.3%)となっているが、各学校の教育相談により、中学生1人を除き、令和6年度末までに解消している。小学校は前年度と比べ減少し、中学校は前年度と比べ増加している。</p> <p>嫌な思いについて「誰にも相談しない」と回答した小学生の低学年が35人(2.5%)、中・高学年で149人(4.3%)、中学生で137人(5.4%)であり、いじめによる悩みを一人で抱え込んでいる児童生徒が一定数いる。回答率が0%となるよう各種相談窓口の案内チラシやカードを全児童生徒に配布しているほか、心の教室相談員やスクールカウンセラーが定期的に学校を訪問するなど、相談体制の充実に努めている。</p> <p>いじめや不登校につながる児童生徒の状況の早期把握と、学級集団と個の分析のため、ハイパーQ Uの取組を継続している。ハイパーQ Uの理解促進のため、教員に対する研修会を開催するとともに、教育委員会でも独自に結果を分析し、その結果を学校と共有している。</p> <p>不登校児童生徒については、178人と前年度と比べ減少している。スクールカウンセラー、心の教室相談員、教育支援センター指導員及び学校教育相談員の活用により、不登校に対しての早期の対応と、個々の児童生徒の状態に応じた指導や段階的な関わりを行っている。</p> <p>不登校の児童生徒が将来に向けて社会的に自立していく力を養うため、町内2か所に教育支援センターを設置しており、そのうちふれあい柳町教室「ほっと」においては、自宅から参加可能な</p>

意 見	対 応 状 況
<p>スクールソーシャルワーカー等の資源を十分に活用しながら、効果的な施策につなげることが望まれる。特に、小中学校間の情報の共有は重要であり、児童の生活情報が確実に継承されるよう体制の整備が求められる。</p> <p>【教育行政推進における主要な施策の実施状況】 (文教政策)</p> <p>働き方改革や少子化の影響から、部活動の地域移行が全国的に進められる中、音更町では協議会の設置や推進員の配置、アンケート実施など、計画的な取組が進んでいる。</p> <p>スクールカウンセラーについては、学校との連携を密にし、教育相談体制の充実に寄与することを期待したい。</p> <p>施設整備では、熱中症対策としてエアコン整備基本計画が策定されるなど、エアコンの設置に向けた具体的な取組が進められており、児童生徒を熱中症から守るための迅速な対応が評価される。</p> <p>情報教育では、G I G Aスクール構想に沿った学校現場のI C T化が進み、導入された学習支援アプリを効果的に活用するための研修会や授業公開なども行われている。今後は、学習コンテンツの見直しや活用方法の再検討などを通じて多様な学習機会を創出することで、子どもたちの情報活用能力の更なる向上に期待したい。</p> <p>また、給食費改定に伴う値上げ相当額を町が補助することで保護者負担を改定前の水準に据え置いたことについては、保護者の負担軽減につながるものとして評価したい。</p>	<p>オンライン上のコミュニティ「ほっとオンライン」を開設し、支援の充実を図っている。</p> <p>令和6年度からは、不登校児童生徒を対象として個人状況・学校対応状況シート（家庭環境や欠席状況、学校の対応など記載）を作成するようしており、本シートを適切に中学校へ引き継ぐことにより、小中学校間での確実な情報の継承を図っている。</p> <p>部活動の持続可能性を高め、教員の長時間勤務による負担の軽減を図ることを目的に、これまでの取組に加え、地域移行に関する説明会の開催や推進計画の策定・公表などに着手した。引き続き、学校と協議を進めながら部活動と地域の連携強化に努めていく。</p> <p>スクールカウンセラーによるカウンセリングは、児童生徒の悩みを傾聴し、心のケアや環境改善を図るために重要な役割を果たしている。令和6年度の相談件数は、児童生徒が383件、保護者が236件、学校その他関係者が524件で、道が実施するスクールカウンセラー派遣事業を含めた総数は、1,299件となっている。</p> <p>夏季における学校生活の安全性を確保し、快適な教育環境を整備するため、迅速に普通教室等のエアコン設置の方向性を定め、令和6年度には短期間で全校にエアコンと熱交換型換気設備の設置を完了させた。また、町内事業者の協力により、各校に屋外用の暑さ指数計測器を設置した。学校における熱中症事故対策を徹底するため、これらの機器の効果的な利用についても丁寧な周知に努めていく。</p> <p>情報教育では、令和6年度に中学校の全生徒を対象に英語学習支援ツールを試験的に導入し、学習効果の検証を行ったほか、音更町教育研究所や新しいかたちの学びの授業力向上推進事業における推進教員を中心に、I C Tを効果的に活用した情報活用能力の育成強化に努めている。</p> <p>給食費については、令和5年4月に続き、令和</p>

意見	対応状況
<p>(社会教育の振興)</p> <p>青少年対策として実施されている放課後子ども教室は、農村部4校での試行的な実施を含め、全11小学校で開設されており、今後も児童の自主性や社会性、創造性等を養うとともに、安心・安全な居場所の確保に向けて、地域と連携した継続的な運営が期待される。</p> <p>生涯学習事業については、音更ふるさと資料館がリニューアルされ、町民が地域の歴史や文化に触れる機会が拡充された。多くの町民に観覧してもらうため、広報活動にも力を入れていただきたい。また、思い出の校歌アーカイブ事業は、閉校した学校も対象とした校歌保存を通じて、郷土愛の醸成に資するユニークな取組であり、今後の展開が楽しみである。</p> <p>地域学校協働活動については、ふるさと教育的分野、政治教育的分野などの4分野で計469回の活動が実施されるなど、本格的実施に伴い効果的な運用が図られている。</p> <p>外部講師リストの作成により、従来、各学校で行っていた授業の企画や講師探しの業務が軽減され、中学校で実施している職場体験学習においても、受け入れ企業や団体の斡旋を行うことで各中学校の負担軽減につながっていることが伺え、今後もこの事業の継続と内容の更なる充実に期待するところである。</p>	<p>7年1月にも5.4%の改定を実施し、食材料費の高騰に対応するとともに、値上げ相当額の補助を継続して実施している。自校給食のメリットを活かし食育の充実を図るため、物価の推移等に注視しながら適正な給食費の額について随時検討を進める。</p> <p>放課後子ども教室は、令和5年度から町内全11小学校で開設している。児童は自主的に活動内容を選択し、全学年と一緒に活動することで社会性や協調性を養い、工作やブロック遊びでは創造性を養うことができた。また、地域ボランティアが微増ではあるが、増員することができ、安心・安全な居場所の確保に向けて、地域と連携した運営ができた。</p> <p>音更ふるさと資料館においては、多くの町民に来館してもらうため、子ども向けイベントや資料館講座など様々な講座を開催し、町広報紙、公式LINE、ホームページ及び新聞で幅広く周知している。また、学校や団体に出向いて音更の歴史を伝える出張講座を実施し、資料館を知ってもらう機会としている。思い出の校歌アーカイブ事業については、令和7年3月に現存校16校分の校歌をYouTubeで公開したが、閉校17校分については、NPO法人の協力を得て、令和8年度末の公開に向けて準備を進めている。</p> <p>地域学校協働活動については、令和6年度から音更高校も加わり、ふるさと教育分野をはじめ主催者教育などの社会参画を見据えた3分野において前年度比45%増の計672回の活動が実施された。特に情報モラル教育をはじめとする危機対策分野は、保護者も参加し共に学ぶといった学校側のニーズやCSでの意見・要望を反映した新たな取組が見られている。</p> <p>また、毎年実施している中学校の職場体験学習においては、従来の生徒が職場へ行く形式の他に、学校側で町内事業所関係者を招いて講演会を開くなど、新たなキャリア教育の動きもあり、今後もこの事業の継続と内容の更なる充実に努め</p>

意見	対応状況
<p>(社会体育の振興)</p> <p>体力づくり・健康づくりの振興については、幼児からシニア層までを対象に様々なスポーツ教室が開催され、多くの町民が各種体育施設でスポーツを楽しんでいる状況が伺える。</p> <p>ただし、前年度に比べ大幅に参加人数の増加がみられる事業がある一方で、参加人数が減少している事業も少なくないことから、参加者確保に向けた取組として、町民のニーズを把握しながら事業のリニューアルを行うなど事業内容の更なる充実を目指していただきたい。</p> <p>また、高齢社会を背景に生涯スポーツの重要性も高まってきており、近年は障がい者スポーツも脚光を浴びている状況を踏まえ、バリアフリーを考慮した運動設備の整備や経年的な劣化への対応にも期待したい。</p>	<p>ていく。</p> <p>現在、総合体育館や温水プールの指定管理者、スポーツ協会、北海道十勝スカイアーススポーツ株式会社などとの連携協力やスポーツコーディネーターを担う地域おこし協力隊員の活用により、多くのスポーツ教室やスポーツイベントを行っている。</p> <p>今後は、町民ニーズを把握し、スポーツに興味関心を高める取り組みのほか、新規事業の導入や、既存事業の見直しなど多様な事業を展開し、更なる参加者の確保に努めていく。</p> <p>高齢者や障がい者など誰もが利用できるスポーツ施設の整備については、新規設置時や更新時にはバリアフリーに十分配慮し、生涯に渡りスポーツに親しみ、体力づくりを行える環境を整えていく。また、施設の経年劣化に対しては、定期的な点検を行い不具合を早期に見つけ、適切な対処を行っていく。</p>

## II 学識経験者の意見

帯広大谷短期大学講師 角 田 隆 二

### 1 教育委員会の活動状況

本町では音更町教育大綱を基に、教育委員会を中心に「子どもの教育」と「生涯学習」を2本の柱として教育行政を推進していることに改めて敬意と感謝を申し上げます。

さて、現代はVUCAの時代と言われるように、社会構造が劇的に変化しておりそれに伴って様々な課題が生じている。現状を認識した上で、その課題を乗り越えるために一人ひとりの教育環境の整備及び豊かな教育の充実が求められている。そのために、教育委員会の役割が今後益々重要になってくる。

令和6年度の活動状況を見てみると、教育行政に関する基本的な方針の決定や規則の制定など、教育に関する様々な議題を審議され推進していることが伺える。特に定例会・臨時会の教育委員会会議などにおいて、事務局の方で会議がより充実したもの、活発になるよう配慮していくような手立てが講じられていることでスムーズな運営が展開されていくものと推察される。

具体的な活動の中で、教育委員会の研修会等への参加状況で、令和6年度は札幌市星槎もみじ中学校の視察研修が報告されている。この学校は全道初の学びの多様化学校でもあり、不登校の生徒に配慮した特別な教育課程を編成・実施しているとされている。本町における不登校の問題にも大いに反映されることを期待したい。

小中学校の訪問について、「安心して学べる学校づくりに向けた取組について」を重点テーマとして実施されている。子どもたちの心理的安全性の確保という観点、さらには「安心・安全」「学び」「居場所」のキーワードを大切にしながら、子どもたち及び教職員にとっても「明日も通いたい学校になっているかどうか」を今後も模索していくことが求められる。

音更高校の北海道MA+CHプロジェクト（地域協働まちづくり推進事業）の取組については、地域に開かれた特色ある高校づくりを展開されており、町の活性化に大いにつながる取組だと言える。今後の取組にも大いに期待したい。

町民への情報提供については、ホームページや町広報紙等を活用し、教育に関する制度や手続き、行事等の情報を提供されている。今後も更なる充実を図り、地域の教育の現状を発信していただきたい。

### 2 重点的な評価

#### (1) 確かな学力の向上

児童生徒にとって、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身につけそれを活用できる学力を育むことが重要であり、このことが「生きる力」の基盤となることにつながる。

令和6年度の音更町の小学6年生と中学3年生の全国学力・学習状況調査の国語、算数・数学の全数調査などが今年度も報告されている。

小学校では国語、算数ともに全国・全道平均を下回る結果となっている。また、中学校では国語が全国・全道平均を下回り、数学は全道平均を上回っているが、全国平均を若干下回る結果となっている。音更町の全国学力・学習状況調査結果の分析については音更町教育研究所の方で「音更町の学力の傾向と改善のポイント」として詳細に提言されているが、各学校においてはこの提言を有効活用し、今後の学習指導の改善につなげていくことが求められる。

具体的な取組では、教育委員会、学校、家庭や地域との連携、地域学校協働活動の推進という観点から整理されている。特に、本町独自に町費負担教諭を4名配置したり、特別支援教育推進のために特別支援教育学習支援員を37名配置したりするなど、人的な面での学習環境整備が行われている。学校現場としては、子どもたち一人ひとりの学びを保障するためにより望ましい学習指導体制を構築していく必要がある。今後も教諭及び各支援員の望ましい配置を推進するとともに、質的な面でさらに充実したものになることが期待される。

各教科の直接的な数値としての評価に表れてこないものではあるが、近年「非認知能力（社会情動的スキル）」の重要性、「体験格差」などの問題も指摘されている。このようなことも含めて、学校生活をより充実させることがひいては学力向上にもつながるのではないかと考えられる。

なお、令和9年度からコンピュータを使って出題・解答するCBT方式へと移行する予定であることから、学校全体でより一層ICT教育の推進が求められる。

## （2） 健やかな体の育成

『体力は、人間のあらゆる活動の基本となるものであり、健康な生活を送る上でも、またものごとに取り組む意欲や気力といった精神面の充実にも深く関わっており、人間の健全な発達・成長を支え、より豊かで充実した生活を送る上で大変重要なものです。こうしたことから、子どもの時期に活発な身体活動を行うことは、成長・発達に必要な体力を高めることはもとより、運動・スポーツに親しむ身体的能力の基礎を養い、病気から身体を守る体力を強化し、より健康な状態をつくっていくことにつながります。』（スポーツ庁ホームページ：「子供の体力向上」より引用）

本町の教育行政執行方針の主要施策の一つとして「健やかな体の育成」を掲げているが、このことは正に上記で記されていることと共通する。健康の保持・増進や体力の向上など

により健やかな体につながる。そのための観点として、児童生徒の体力向上、学校保健の充実、食育の推進・学校給食の充実が求められるのである。

特に近年は全国的に見ても児童生徒の体力が低下傾向にあり、様々な要因が複合的に影響していると言われている。本町においても、全国体力・運動能力、運動習慣等調査を小学校5年生及び中学校2年生を対象に実施し、児童生徒の体力・運動能力を分析し、体力を向上させるための方策等を検討している。詳細は、音更町教育研究所より発刊されている「音更町の子ども体力と今後の取組～「体力向上」に向けた指導のヒント～」に報告があるが、令和5年度の調査結果をみると、体力合計点は小学校5年生は男女とも全国・全道平均を下回りその差が広がっていること、中学校2年生は全国平均は下回っているが、全道平均は上回る結果になっている。小学校8種類、中学校9種類の種目それぞれの考察を踏まえ、総合的な体力向上につなげていくことを期待するものである。特に、児童生徒の体力・運動能力の向上に向けた取組ということでQRコードを利用した実践が紹介されている。このような取組の積み重ねにより、体育科における授業がより充実されていくものとする。また、就学前における保育所・幼稚園等で行われている「運動遊び」を十分に経験しておくことが、小・中学校における体力向上にもつながることが指摘されているので、この観点から未就学施設との連携も大切にしていきたいものである。

その他、家庭との連携の取組になるが、食育の観点からも食習慣（特に朝食の欠食、偏った栄養摂取等の改善）、肥満・痩身傾向の改善も必要である。

社会全体の傾向として、外遊びの減少（コロナ禍、気候温暖化に伴い屋外の活動の制限、ゲーム遊び等の影響）、公園等の遊具の減少等が指摘されているが、将来にわたって健康な生活を送るためにも、「体づくり」「体力の向上」を意識した取組を今後も学校教育の中でも豊かに展開していくことが大切である。

### （3）豊かな心の育成

豊かな心の育成は、他人を思いやる心、生命や人権を尊重する心、自然や美しいものに感動する心、正義感や公正さを重んじる心、勤労観・職業観など、子どもたちに豊かな人間性と社会性を育むためということが目標とされる。

とりわけ、いじめの問題は全国的に毎年のように増加傾向の報告がされており、また重大事態の件数も増加していることもあり、各自治体においては様々な取組がなされ、本町においても「いじめ防止基本方針」などの改定、いじめ防止のための対策を講じている。

本町においては、令和6年度はいじめに関するアンケート調査の結果では、前年度との比較でみると小学校では減少傾向、中学校では増加傾向にある。アンケートの実施は10月であり、教育相談等の実施により年度内でおおむね解消していることで、各学校で迅速に対応がなされているものと評価できる。

今後も、いじめ問題に対する基本的な認識を共有し、適切に対応することが強く求められる。また、特に配慮が必要な児童生徒（障がいのある児童生徒、海外から帰国した児童生徒や外国人児童生徒、性同一性障害や性的指向・性自認に悩む児童生徒など）への対応については日常的に必要な指導を組織的に行うことが求められる。

不登校については、令和6年度の状況は小学校・中学校ともに減少していることが報告されている。ただし、令和5年度の文科省の調査では不登校児童生徒数は34万6,482人と過去最多を記録している。細かく見ていくと小学校では13万370人で、全体の2.1%にあたり、中学校では21万6,112人で、全体の6.7%となる。本町の令和6年度の不登校の割合を計算すると、小学校で3.0%、中学校で9.4%となり、減少したとはいえ不登校の割合は高いと言える。不登校の要因は様々であり、本人もよくわからないケースもある。児童生徒にとって、学校という場所に「心理的安全性」が確保されているか、また自分の「居場所」があるかという観点がとても重要である。学校全体の風土とも関連するが、家庭及び地域との連携がより一層求められる。

### 3 教育行政推進における主要な施策の実施状況

#### (1) 文教対策

少子化問題及び教職員の働き方改革に伴って、部活動の地域移行の取組が推進されている。「健やかな体の育成」とも大きく関連するが、児童生徒の運動・スポーツの機会を保障しつつ今後のより望ましいあり方を検討していくことが肝要である。

教育施設の整備については、近年の夏の気候変動に伴い、熱中症対策として迅速にエアコンの設置を推進し、学習環境が整備されたことは評価できる。今後さらに児童生徒の学習環境や教職員の働きやすい環境の整備を進めていくことが求められる。

食育については、今後も自校給食の利点・特色を生かしながら地場産品への知識・理解を深め、食を通して健康な体につなげていくことを期待したい。

就学援助について、昨今の物価高により経済的に厳しい世帯が増えている印象があるが、今後も児童生徒の教育の機会を保障する観点からも適切に対応していくことが望ましい。なお、今後は申請手続きの負担軽減も予定されていることも保護者にとってはとても好ましいことと評価できる。

特別支援教育について、生活介助または医療的ケアが必要な児童生徒についてはそれぞれ生活介助員の配置や看護師の派遣が行われ、個に応じた対応がされている。また、通常学級における学習支援員の配置も進められ合理的配慮が展開されている。特別支援教育が制度化されて通常学級における特別支援教育も意識されてはいるが、一方で特別支援学級の在籍児童生徒数の増加が続いている状況にある。児童生徒一人ひとりに応じた適切な教育のあり方を今後も検討していく必要がある。

## (2) 社会教育の振興

社会教育とは主に青少年及び成人に対して行われる組織的な教育活動であるが、本町においても青少年教育事業、成人教育事業、生涯学習事業等様々な事業が展開されている。特に、青少年教育事業においては体験学習の機会を継続され、指導者の育成の観点からも意義のある事業といえる。放課後子ども教室は、子どもの居場所づくりという観点からも有効であり、町内全小学校が開設され、子どもたちにかかわるボランティアとのつながりも大いに期待される事業である。

成人教育事業、生涯学習事業ともに大人の学びとして、人生100年時代の観点や音更町という地域や地域資源を生かした内容で、学び合いの地域社会構築の一助になっているといえる。

地域学校協働活動については、地域づくりをめざし、魅力ある音更町を将来も引き継いでいくという思いを小・中学校、音更高校において具体的に展開されていることは評価できる。さらには、教育委員会として外部講師リストを作成することで、教員の負担を軽減し、今後の活動の広がりも大いに期待できる。

## (3) 社会体育の振興

スポーツは私たちの人生をより豊かにしてくれる。これからのスポーツ振興は、だれもがそれぞれの体力や年齢、技術、目的などに応じて、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会をめざしていくことが必要である。

本町ではスポーツライフ、スポーツ教室、体力づくり教室などの事業を展開し、指導者・リーダーを養成するなど継続的に推進している。

乳幼児から高齢者、障がいのある方も含めて、だれもが気軽に参加し、楽しみながら余暇活動を充実し、健康管理や体力の向上につなげる取組が今後も求められる。

## 1 教育委員会の活動状況

本町では、音更町教育大綱「生きる力、支える力を育むまち」を理念に掲げ、「子どもの教育」と「生涯学習」を2本の柱とし、教育資源を有効に活用しながら、継続的かつ安定した教育行政が推進されている。

教育委員会会議においては、事務局が各委員に対して議案や資料の事前説明を行うほか、会議前に委員相互の意見を交換する場を設けるなど、日常的に情報共有が図られるよう工夫されており、会議の活性化につながっている。

また、教育長、教育委員、事務局職員による学校訪問は、学校の現状や教育活動の成果と課題を把握し、学校運営を支援する上で重要な取組である。毎年、重点テーマを設定して訪問を行っており、教育委員会と学校が教育課題を共有するための有効な手立てとなっている。さらに、音更高校との意見交換会も実施され、高校と町教育行政との連携強化を図る上で貴重な役割を果たしている。

町民への情報提供については、ホームページを活用し、学校教育、給食、ICT教育、教育援助、教育行政など、教育委員会の多様な事業内容が詳細に掲載されている。今後は、掲載内容の一層の充実を図るとともに、ホームページに加えて公式LINE、X、Instagramなど多様な手段を用いて情報をより効果的に発信していくことが求められる。

## 2 重点的な評価

### (1) 確かな学力の向上

「生きる力」の基盤となるのは確かな学力である。基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付け、それらを活用できる力を育むことが極めて重要である。

本町では、全国・学力学習状況調査を活用し、児童生徒の学力の傾向を把握するとともに、学習指導の改善等に役立つ基礎資料を各学校に提示している。また、個に応じたきめ細かな学習指導を行うため、特別支援教育学習支援員、複式教育学習支援員、町費負担教諭を配置し、指導の充実を図っている。さらに小学校では学習支援アプリを導入し、中学校では英語学習支援ツールを取り入れるなど、各学校においてタブレット端末の効果的な活用が進められている。このように、確かな学力を育むために様々な施策が実施されている。

各学校では、全国学力・学習状況調査や標準学力検査の結果を分析し、それに基づいた学校改善プランを作成して組織的に学力向上に取り組んでいる。また、分かる授業の実現を目指した授業改革やICTを活用した子どもが主体的に学ぶ授業も展開されている。

令和6年度の全国学力・学習状況調査によると、本町の小学校6年生の国語・算数はい

ずれも全国・全道平均を下回っており、特に国語ではその差が徐々に広がる傾向にある。

一方、中学校3年生については、国語・数学ともに全国・全道平均を上回る安定した傾向が続いていたが、令和5年度には両教科とも全国・全道平均を若干下回り、令和6年度においても国語は全国・全道平均を下回った。数学は全道平均を上回ったものの、全国平均には届かなかった。このように、小学校では全国・全道平均を上回れない状況が継続しており、中学校においても一部教科では全道平均を上回る年度があるものの、全体としては課題が見られる。

各学校においては、これまでの全国学力・学習状況調査や標準学力検査等の結果を基に学校改善プランの成果と課題を詳細に分析し、より効果的な改善策を講じていく必要がある。その際に特に重視すべき視点が「個別最適な学び」の実現である。

全国学力・学習状況調査は、全国や全道の平均を一つの指標として学力の傾向を把握し、課題を明らかにするために実施されている。しかし、平均に到達すること自体を目標とするものではない。本当に目指すべきは、子ども一人ひとりの学びの充実である。その実現のためには、児童生徒の実態を丁寧に把握し、学びの伸びを確実に見取ることが不可欠である。例えば、すでに導入されているタブレット端末を活用して学習履歴を蓄積・分析することで、個に応じた柔軟な指導が可能になると考える。

また、学力向上の取組の要となる学校改善プランには、「個別最適な学び」の実現に向けた具体的な手立てを明記し、短期的及び中長期的な視点に立って検証・改善サイクルを確立することが重要である。

町教育研究所が発行している「令和6年度全国学力・学習状況調査結果の分析～音更町の学力の傾向と改善のポイント」によれば、小学校の国語「B書くこと」の領域で前年度に比べ約24ポイントの上昇が見られ、改善の兆しが表れ始めている。これは、町教育研究所が示す改善のポイントに基づいた、各学校の継続的な取組の成果であると評価できる。依然として全国・全道平均には届いていない教科や領域もあるが、取組の成果が明確に数値として表れてきたことは注目に値する。今後も各学校においては、町教育研究所が発行する「音更町の学力の傾向と改善のポイント」を活用し、課題の改善に取り組むことが求められる。

学力の向上には、教師一人ひとりの教科指導力を高めることが重要である。町教育研究所が中心となり、町内の優れた授業実践の共有や授業改善に向けた研修を推進することが大切である。令和6年度には、学習支援アプリを活用した授業公開や授業者と参加者の座談会が実施されている。引き続き、町教育研究所がよりよい授業づくりに貢献していくことが期待される。

## (2) 健やかな体の育成

体力の育成は、子どもたちが生涯にわたって心身ともに健やかな人生を送るための基

盤となるものである。本町では、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の分析結果を基に、体力向上のための基礎資料を各学校に提示している。また、体力向上「運動プログラム」の実施や小学校体育エキスパート教諭の活用を通じて、計画的な体力向上の取組が進められている。さらに、「おとふけ給食」などを実施し、食育の面からも子どもたちの健やかな体づくりに努めている。

各学校においては、年間指導計画を作成し、全国体力・運動能力、運動習慣等調査や新体力テストの結果を踏まえて組織的・継続的な体力向上に取り組んでいる。また、ICTを活用した体力づくりも取り入れ、時代に即した指導の工夫が図られている。

令和5年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果によれば、小学校5年生男子は全8種目中2種目で全国平均を上回ったが、全道平均を上回る種目はなかった。小学校5年生女子についても同様に2種目で全国平均を上回り、1種目で全道平均を上回る結果となった。男女に共通する課題として、「柔軟性」「全身持久力」「走力・スピード」が挙げられる。また、男子は体育の授業に楽しさを感じる割合が高く、女子は運動の必要性や体力向上に対する意識が比較的高い傾向にある。

中学2年生では、男女ともに、全9種目中4種目で全国・全道平均を上回る結果となった。体力合計点は依然として男女いずれも全国平均を下回っているが、その差は縮小傾向にある。男女の共通の課題としては、「柔軟性」「瞬発力」が挙げられる。また、男子は運動の楽しさや体力向上への意識が高い傾向があり、女子はそれらに対する意識がやや低い傾向が見られる。

こうした課題を改善していくためには、新体力テストや全国・体力運動能力、運動習慣等調査の結果を分析し、その結果に基づいた取組を進めることが重要である。併せて、年間指導計画についても短期的及び中長期的な視点から見直し、実効性を高めていくことが求められる。

児童生徒一人ひとりの体力の変容を把握するためには、小学校の6年間及び中学校の3年間を通じて新体力テストの結果を継続的に記録することが必要である。この記録は体力の伸びを可視化し、児童生徒自身の運動への動機づけや課題克服に向けた意識の高まりにつながる。さらに、小学校から中学校への個人記録の引き継ぎにより、9年間を通じた一貫性のある体力づくりが可能になる。

町教育研究所では、本町児童生徒の体力の課題を改善するため、「音更町の子ども体力と今後の取組～「体力向上」に向けた指導のヒント～」を発行している。この冊子には、体育の授業で活用可能な具体的な実践例が紹介されており、各学校では自校の実態に応じてこの指導のヒントを生かし、体力向上に向けた取組を進めることが期待される。また、指導のヒントにはQRコードが掲載されており、動画で活動の様子を視聴できるなど、実践的に活用できるよう工夫されている。

### (3) 豊かな心の育成

いじめや不登校の問題は、今日の教育現場における重要な課題である。本町では児童生徒の学校生活に対する満足感や学級集団の状態を把握するため、ハイパーQ Uアンケート調査を継続的に実施している。また、心の教室相談員等に加え、令和5年度からは高度な専門性を有するスクールカウンセラーが配置され、相談体制の充実が図られている。また、保護者や教職員等を対象とした不登校学習会も開催されており、児童生徒以外への支援も進められている。

いじめ問題の対応に関しては、本町の「いじめ問題等対策委員会」による実態調査が行われ、本町の児童生徒のいじめの状況を詳細に分析した上で、対応の視点を示している。

本調査によると、令和6年4月以降に児童生徒が経験した「仲間はずれ」「無視」「たたかれる」「悪口を言われる」といった嫌な思は、中学生の1件を除き、令和7年3月までに教育相談によって解消されている。ほぼ全ての児童生徒の嫌な思が解消されたことは、各学校が自校の児童生徒に真摯に向き合い、いじめの根絶に向けて真剣に取り組んだ成果であるといえる。

この調査で注目すべき点は、「誰にも相談しない」と回答した児童生徒の存在である。こうした児童生徒は、悩みや不安を周囲に伝えることが難しい状況にあると考えられる。

「誰にも相談しない」と回答した児童生徒は、小学校低学年では35人(2.5%)、小学校中・高学年では149人(4.3%)、中学生では137人(5.4%)であり、学年が上がるにつれてその割合が増加する傾向にある。

このような児童生徒が自分の思いを外部に伝える手段として、電話による相談(「子ども相談支援センター電話相談紹介カード」)や家庭にあるタブレットなどの端末を使った相談(「おなやみポスト」)の利用が期待される。しかし、これらの相談手段の認知度には課題がある。「電話相談紹介カード」の認知度は、小学校低学年で43.3%、小学校中・高学年で68.1%、中学生で71.6%であった。また、「おなやみポスト」の認知度は、小学校低学年で14.8%、小学校中・高学年で48.7%、中学生で44.3%にとどまっている。児童生徒にこれらの相談方法を広く周知するためには、学校だよりや学級通信、ホームページ、学活や道徳の時間などを通じて、安心して利用できる相談手段であることを繰り返し伝えていく工夫が求められる。

令和6年度の本町の不登校児童生徒数は、小学校と中学校合わせて178人であり、前年度から約40人減少している。今後もスクールカウンセラーや心の教育相談員等を有効に活用し、各学校が児童生徒一人ひとりに寄り添った支援を継続していく必要がある。

不登校への対応として注目すべき取組は、不登校児童生徒の実態を的確に把握するために、令和6年度から「個人状況・学校対応状況シート」の作成が進められたことが挙げられる。この新たな取組が、学校でのきめ細かな支援に結び付くことが期待される。

### 3 教育行政推進における主要な施策の実施状況

#### (1) 文教政策

教職員の働き方改革や少子化の進行等により、各中学校の部活動の継続が厳しい状況となっていることを受け、全国的に部活動の地域移行が検討されている。本町においても、部活動の地域移行に向けた取組が計画的に進められている。これまでに部活動改革協議会が設置され、地域移行説明会が開催されたほか、部活動指導員も4人配置され、具体的な支援体制が整備されつつある。

学校給食に関しては、給食費改定に伴う値上げ相当額を町が補助しており、保護者負担は改定前の水準に据え置かれている。この措置は、物価高騰対策の一環として保護者の経済的負担軽減につながるものである。

#### (2) 社会教育の振興

本町における地域学校協働活動は、令和5年度の本格実施からわずか2年で、目覚ましい成果を上げている。令和6年度には、外部講師登録者数が前年度を上回る138団体に達し、ふるさと教育的分野（キャリア教育）、政治教育的分野、経済教育的分野において計672回の活動が実施された。これは、前年度の活動実績を大きく上回るものである。さらに、子どもたちが町長と直接対話し、まちづくりに関して提案する機会が設けられるなど、シチズンシップ教育の実践が広がっている。

こうした成果は、学校のニーズを的確に把握するために、担当者が頻繁に学校を訪問し、さらに町内の事業所や公共施設（帯広市を含む）に協力を要請するなど、地道な取組を継続してきたことによるものである。また、外部講師リストを年2回各小中学校に配布するなど、学校が活用しやすいよう工夫を重ねてきたことも成果へとつながっている。

今後も、地域学校協働活動（「ふるさとおとふけ学」）が未来を担う子どもたちの成長を支える重要な役割を果たし、地域に深く根ざしていくことが期待される。

図書館は、幼児から高齢者まで、あらゆる世代の町民に知識や文化、学びの機会を提供する場である。これまでに様々な事業が展開されており、例えば「ブックスタート事業」を契機に、絵本を手にする家庭が増加するなど、着実な成果が見られる。また、電子図書館では、音更町史や郷土史絵本の提供を通じて地域の歴史や文化への理解を深める取組も進められている。これからも、より多くの町民に親しまれ、学びや交流が広がる場となるよう、図書館事業の一層の充実を図っていくことが求められる。

#### (3) 社会体育の振興

本町では、体力づくり・健康づくりの振興や施設の利用促進に向けて、幼児からシニア層までを対象としたスポーツライフやスポーツ教室、体力づくり教室などが開催されて

おり、多くの町民が各種施設でスポーツを楽しんでいる。

また、「スカイアース連携事業」の一環として行われている体育授業のサポートには、令和5年度の129人に対し、令和6年度は630人も参加があり、連携の取組が着実に進んでいることが伺える。

今後も町民の多様なニーズを的確に把握しながら、事業内容の充実と施設設備の整備に努めていくことが重要である。